ISSN 2186-7763

おきなわ薬剤師会報

No.282.　2016(平成28年)　5・6・7月号

沖縄県薬剤師会

薬剤師倫理規定

平成９年10月　日本薬剤師会改訂

前　文

薬剤師は、国民の信託により、日本国憲法及び法令に基づき、医療の担い手の一員として、人権の中でもっとも基本的な個人の生命・健康の保持促進に寄与する責務を担っている。

この責務の根底には生命への畏敬に発する倫理が存在するが、さらに、調剤をはじめ、医薬品の創製から供給、適正な使用に至るまで、確固たる薬（やく）の倫理が求められる。

薬剤師が人々の信頼に応え、医療の向上及び公共の福祉の増進に貢献し、薬剤師職能を全うするため、ここに薬剤師倫理規定を制定する。

第１条（任務）

薬剤師は、個人の尊厳の保持と生命の尊重を旨とし、調剤をはじめ、医薬品の供給、その他の薬事衛生をつかさどることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって人々の健康な生活の確保に努める。

第２条（良心と自律）

薬剤師は、常に自らを律し、良心と愛情をもって職能の発揮に努める。

第３条（法令等の遵守）

薬剤師は、薬剤師法、薬事法、医療法、健康保険法、その他関連法規に精通し、これら法令等を遵守する。

第４条（生涯研鑽）

薬剤師は、生涯にわたり高い知識と技能の水準を維持するよう積極的に研鑽するとともに、先人の業績を顕彰し、後進の育成に努める。

第５条（最善尽力義務）

薬剤師は、医療の担い手として、常に同僚及び他の医療関係者等と協力し、医療及び保健、福祉の向上に努め、患者の利益のため職能の最善を尽くす。

第６条（医薬品の安全性等の確保）

薬剤師は、常に医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に努める。また、医薬品が適正に使用されるよう、調剤及び医薬品の供給に当たり患者等に十分な説明を行う。

第７条（地域医療への貢献）

薬剤師は、地域医療向上のための施策について、常に率先してその推進に努める。

第８条（職能間の協調）

薬剤師は、広範にわたる薬剤師職能間の相互協調に努めるとともに、他の関係職能をもつ人々と協力して社会に貢献する。

第９条（秘密の保持）

薬剤師は、職務上知り得た患者等の秘密を、正当な理由なく漏らさない。

第10条（品位・信用等の維持）

薬剤師は、その職務遂行にあたって、品位と信用を損なう行為、信義にもとる行為及び医薬品の誤用を招き濫用を助長する行為をしない。

／目／次／

薬剤師倫理規定		
表　　彰	日本薬剤師会有功賞受賞（宜野座安伸先生、平尾秀子先生）	（ 2 ）
	那覇市制施行95周年記念特別表彰受賞（太田節子先生、渡嘉敷見先生）	（ 2 ）
第74回通常総会	第74回通常総会会長挨拶……亀谷　浩昌	（ 3 ）
	第74回通常総会開催……大城　喜仁	（ 4 ）
	第74回通常総会懇親会……大城　喜仁	（ 7 ）
第74回通常総会資料	平成27年度会員・薬局等の業態現況報告	（ 8 ）
	平成27年度事業経過報告および平成27年度決算	（ 9 ）
	議題審議及び質疑応答の概要	（25）
災害対策	熊本地震における沖縄県薬剤師会の対応……吉田　洋史	（34）
	熊本地震における義援金・支援物資の御寄付者一覧	（35）
	本会における熊本地震対策時系列	（36）
	熊本災害派遣報告……我喜屋美香	（37）
	熊本地震活動報告……坂本　俊一	（40）
	熊本地震災害対策活動報告……喜納みゆき	（42）
	熊本地震における支援薬剤師の活動報告書……玉城　和子	（44）
	熊本地震支援薬剤師活動報告／今後の災害対策……喜久山有沙	（46）
学薬部会	学校薬剤師部会研修会に参加して……勝連　貴子	（49）
	平成28年度学校薬剤師新任研修会報告……上里美矢子	（50）
女性薬部会	女性薬剤師部会通常総会報告……草壁　瑞恵	（52）
地区だより	第14回北部地区薬剤師会定時総会報告……北部地区薬剤師会事務局	（54）
	平成27年度中部地区薬剤師会総会報告……高木　英子	（56）
	一般社団法人那覇地区薬剤師会　第3回通常総会……那覇地区薬剤師会事務局	（58）
	平成28年度宮古地区薬剤師会総会報告……下地　睦夫	（60）
	南部地区薬剤師会総会報告……新垣　秀幸	（61）
	平成27年度八重山地区薬剤師会総会報告……山城　　専	（61）
月例相談会	第132回健康とおくすり相談会報告……諸見里めぐみ・渡久地愛	（62）
	第133回健康とおくすり相談会報告……鈴木　聡子	（64）
啓発・普及活動	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 6.26ヤング街頭キャンペーン	（65）
投　　稿	第39回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプに参加しませんか？……砂川　智子	（66）
D　　I	薬事情報おきなわNo.239……薬事情報センター	（69）
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報	（81）
薬草学	身近な薬草を知ろう　第26回　アロエ（ルグヴイ・ロカイ）……狩俣　イソ	（82）
リレー随筆	沖縄でアイスホッケー……中村　克徳	（84）
薬連だより	平成28年度沖縄県薬剤師連盟評議員会報告……山城　英人	（85）
	国会レポート　～骨太の方針2016～……藤井もとゆき	（86）
理事会	平成27年度第10回定例理事会議事概要	（87）
	平成27年度第11回定例理事会議事概要	（94）
会務報告	平成28年4月～5月分	（101）
	沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成28年4月～5月分）	（105）
転載記事	沖縄タイムスより転載「県薬剤師会から益城町など支援」	（106）
	沖縄タイムス・琉球新報より転載「県薬剤師会が義援金245万円」	（106）
	沖縄県医師会報より転載	
	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動、国際麻薬乱用撲滅デーに寄せて……大城　恭子	（107）
一包一話	のど自慢風景から・・・・……橋　の　下	（108）
会員作品	誌上ギャラリー（裏表紙）について	（110）
編集後記		（110）
お知らせ	学校薬剤師＆学校薬剤を希望の会員の皆様へ……学校薬剤師部会	（51）
	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！	（61）
	第30回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について……学術大会実行委員会	（67）
	県薬が会員に販売している印刷物等	（100）
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について	（105）
	会報原稿募集のご案内	（109）

・表紙

題字：豊平峰雲（とよひらほううん）

「スウェーデンのストックホルムの薬局」

photo by 伊差川 サヤカ（琉球大学医学部附属病院薬剤部）

スウェーデン語で薬局は、Apoteket。スウェーデンの薬剤師さんに聞いたところ、スウェーデンで二番目に古い薬局らしいです。この薬局が建てられたのは1761年（かれこれ、200歳!!）。金メッキのふくろうが入口にいます。

日本薬剤師会有功賞 受賞

おめでとうございます　宜野座 安伸先生　平尾 秀子先生

第74回通常総会懇親会(6月19日)にて
亀谷浩昌会長から伝達授与
受賞の喜びを語る宜野座安伸氏

平尾 秀子氏

那覇市制施行 95 周年記念特別表彰 受賞

おめでとうございます　太田 節子先生　渡嘉敷 見先生

太田 節子氏(左)と 渡嘉敷 見氏(右)

学校薬剤師仲間と記念撮影

第74回 通常総会
会 長 挨 拶

会長　亀谷 浩昌

総会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素より会運営にご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

会長に就任して最初の総会を迎えるにあたり、今日までの1年間に亘る会務について振り返ってみました。心がけた大きな目標は、薬剤師職能を十分に発揮して安心・安全な薬物療法の実現を通して国民の健康・長寿を推進することです。そのためにはやるべきことは多いが、その中で基本中の基本は、薬の専門家としてのスキルを向上させることであります。国の策定した国民の為の薬局ビジョンに示されているように、地域で住民に寄り添い、薬の事は勿論、健康に繋がることは何でも提供できる準備を怠らないことです。そのための講演会・研修会を企画してきました。

次に、国民に薬剤師についてもっと知ってもらい、活用していただくことも大事であると思います。マスコミへの適切な情報提供を始めとして、健康とおくすり相談会、グッジョブ事業などの薬剤師を紹介する企画、老人会に出向いての薬の正しい使い方講演会、その他、健康に関連する地域貢献事業等を行いました。超高齢社会の到来による医療費増大と医療者の疲弊に対して、地域の薬局の果たす役割はますます高まってくると考えています。

また、薬と健康に関連する行政や団体の会議には積極的に参加・出席しました。会長に就任したての頃には、多くの団体・企業の方にお会いし、また、こちらから出かけて関係を深める努力をしました。薬剤師会館に月曜日から金曜日まで、朝の始業時から夜の終業時まで常勤の形をとったことで、多くの会議に出席し、多くの訪問を受け、また、相手を訪ねることができたと思います。

医療の現場で忙しく業務に取り組んでいる個々の薬剤師を代表して意見・考えを関係部署や団体に表明することは、組織としての薬剤師会がなければ困難なことであります。本会への入会を案内する時によく聞かれる入会のメリットには、このことも含まれることを理解して頂きたいと思います。

消費増税が見送られたことで、平成30年に迎える医療と介護の報酬改定は厳しさを増すことが十分想像できます。会員の皆様は、昨年のようなバッシングを招かないよう、国民に対しより良いサービスの提供に努めてください。本会としては組織を強化し、発言力を増すよう努力します。

最後に、本日の総会の議案を慎重にご審議の上、円滑な進行をお願い申し上げ、私の挨拶と致します。

第74回通常総会開催

日時：平成28年6月19日（日）13:30 ～ 16:10
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

川満直紀常務理事の進行で通常総会を開催する旨の案内が定刻の午後1時30分にアナウンスされ開会する。通常総会は、代議員以外の会員が傍聴できる席も特別に用意された。

開会挨拶の前に、会員物故者2氏（池間啓氏、古謝紀和氏）の先生方のご冥福を祈るため、出席者全員が起立黙祷した。

江夏京子副会長が第74回通常総会の開会を告げる。

定款第15条の規定により、議長、副議長を選出。議長に沖縄支部の玉城武範代議員、副議長に那覇中央支部の西川裕代議員が選出された。両氏より挨拶の後、議長が事務局に出席人数を確認するよう指示。事務局より報告を受けた西川副議長が、代議員総数48名に対し出席代議員が40名で、過半数以上の出席により定款第17条の社員総会成立要件を満たしていることが述べられ、総会の成立を宣言した。

宮城敦子常務理事より、同総会の日程の説明がなされ、続いて亀谷浩昌会長が挨拶をされた。

議題に入り、報告第1号から第2号、議案第1号から第3号までの報告と説明を各担当理事及び監事が滞りなく行った。

休憩を挟み、再び議長と副議長が登壇して質疑応答の時間に入った。質疑応答は、前半に地区薬剤師会代表質問、後半に一般関連質問という構成である。

地区薬剤師会代表質問の順番は、去る5月の定例理事会にて地区代表理事によるクジ引きにより決定されたこと、1地区あたりの代表質問は質疑応答を含め計7分であることが議長より説明された。代表質問は、

①中部地区（上原卓朗沖縄支部代議員）
②宮古地区（古謝真己平良支部代議員）
③那覇地区（鈴木一徳那覇中央支部代議員）
④北部地区（屋嘉比康作名護支部代議員）
⑤南部地区（川上雄一朗南風原支部代議員）
⑥八重山地区（山城専石垣支部代議員）

の順で質問演説が行われ、これらの質問に対し各担当理事が順次答弁を行った。

続けて、一般関連質問の時間に入った。同時間は前述の議案及び地区代表質問に関連する質疑応答の時間として設けられている。

これら地区代表質問ならびに一般関連質問の質疑応答内容については後頁を参照いただきたい。

最後に議案第1号から第3号の採決に入った。議長が一議案毎に読み上げ、賛成の挙手にて議決していった。事務局に挙手人数カウントの指示が出されることが無いくらいの賛成の挙手があり、無事に全議案が承認された。

終了予定時刻よりも30分以上も早く、外間惟夫副会長による閉会の辞で第74回通常総会は終幕となった。

（報告：事務局 大城喜仁）

理事・監事席側

＜第74回通常総会次第＞　　司会　常務理事　川満　直紀

1. 開会の辞　　副 会 長　江夏　京子
（議長・副議長選出）
2. 議長・副議長登壇あいさつ　　議　　長　玉城　武範
（点呼、宣告）　　副 議 長　西川　　裕
3. 日程説明　　常務理事　宮城　敦子
4. 会長あいさつ　　会　　長　亀谷　浩昌
5. 議題
報告　第1号　平成27年度会務並びに事業経過報告　　副 会 長　前濱　朋子
第2号　平成27年度会務並びに会計監査報告　　監　　事　友利　弘一
議案　第1号　平成27年度決算承認の件　　常務理事　山里　　勇
第2号　特別会員の変更に伴う定款、会員規程、会費規程の変更について
常務理事　山里　　勇
第3号　賛助会員の変更に伴う会員規程の変更について　　常務理事　山里　　勇
6. 閉会の辞　　副 会 長　外間　惟夫

［第74回通常総会出席者］

敬称略

＜理事・監事＞

○亀谷　浩昌（会　　長）
○江夏　京子（副 会 長）
○前濱　朋子（副 会 長）
○外間　惟夫（副 会 長）
○山里　　勇（常務理事）
○我喜屋美香（常務理事）
○宮城　敦子（常務理事）
○川満　直紀（常務理事）
○成川　賢一（北部地区代表）
○佐藤　雅美（中部地区代表）
○姫野　耕一（那覇地区代表）
○新垣　秀幸（南部地区代表）
○下地　　仁（宮古地区代表）
○幸地　良信（八重山地区代表）
○吉冨　弓江（医療安全担当）
○石川　恵市（青年部会）
○笠原　大吾（保健福祉担当）
○吉田　洋史（災害対策担当）
○荒井　千春（在宅医療担当）
○大城　桂子（監事）
○友利　弘一（監事）

＜代 議 員＞

○玉城　　純（名護支部）
○屋嘉比康作（名護支部）
○福地　健治（うるま支部）
○村田　成夫（嘉手納支部）
☆玉城　武範（沖縄支部）
○上原　盛和（沖縄支部）
○普久原　隆（沖縄支部）
○鈴木　直志（沖縄支部）
○上原　卓朗（沖縄支部）
○長濱　照美（沖縄支部）
○新垣　慶朗（宜野湾支部）
○仲座　方利（宜野湾支部）
○新川　祥平（宜野湾支部）
○武富　弘記（浦添支部）
○日高久美子（浦添支部）
○池間　　正（浦添支部）
○大城　博次（浦添支部）
○比嘉　　保（浦添支部）
○大塚成一郎（首里支部）
○金城　清二（首里支部）
○村上　市子（首里支部）
○狩俣　イソ（那覇北支部）
○鈴木　一徳（那覇中央支部）
○渡慶次全康（那覇中央支部）
◎西川　　裕（那覇中央支部）
○高良　知子（那覇東支部）
○仲村喜久子（那覇東支部）
○比嘉　真三（那覇東支部）
○吉田　將司（那覇東支部）
○國吉　直子（小禄支部）
○具志堅興信（小禄支部）
○上原　陽子（南風原支部）
○川上雄一朗（南風原支部）
○川上　善久（南風原支部）
○知念　正人（南風原支部）
○伊敷松太郎（糸満支部）
○高良　武和（糸満支部）
○小湾　勝敏（糸満支部）
○名嘉　紀勝（糸満支部）
○古謝　真己（平良支部）
○山城　　専（石垣支部）

☆：議長、◎副議長

第74回通常総会

物故会員へ黙祷

あいさつ
亀谷 浩昌 会長

開会の辞
江夏 京子 副会長

議　長：玉城 武範 代議員(左)
副議長：西川　　裕 代議員(右)

日程説明
宮城 敦子 常務理事

報告第1号
前濱 朋子 副会長

報告第2号
友利 弘一 監事

議案第1･2･3号
山里　勇 常務理事

閉会の辞
外間 惟夫 副会長

司　会
川満 直紀 常務理事

代議員側

第74回通常総会

＜懇親会＞

日時：平成28年6月19日（日）16:45 ～ 18:30
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

通常総会を無事に終え、会場を研修室に移し懇親会が催された。司会の佐藤雅美理事により、会が進められた。

江夏京子副会長の開会の辞に続き、亀谷浩昌会長の挨拶、砂川靖沖縄県保健医療部長の代理で阿部義則参事が代読で来賓の挨拶をされ、神村武之前会長の乾杯の音頭で歓談に入った。

歓談が落ち着いた頃、日本薬剤師会有功賞伝達授与と当会職員への永年勤続表彰が執り行われた。日本薬剤師会有功賞は長年に亘る薬剤師会への貢献を称えるもので、宜野座安伸氏、平尾秀子氏が受賞され、出席された宜野座安伸氏より感謝の言葉と、80歳になっても薬剤師という職のおかげで現役で働ける喜びが述べられた。また、永年勤続表彰は、20年勤続表彰として武村博子氏（試験検査センター技師）、10年勤続表彰に松堂恵美氏（事務局）が表彰された。

大いに盛り上がった懇親会は、外間惟夫副会長の挨拶で閉会となった。

（報告：事務局 大城喜仁）

来賓の方々と記念撮影

来賓挨拶
阿部 義則
沖縄県保健医療部参事

乾杯の音頭
神村 武之
前会長

職員永年勤続表彰受賞者
左より　武村 博子 氏 と 松堂 恵美 氏

第74回通常総会資料

報告第1号　平成27年度会務並びに事業経過報告

1. 平成27年度 会員・薬局等の業態現況報告

(1) 会　員　数

平成28年3月末現在

① 正　会　員	1,104 人	(A会員582人、B会員518人、C会員4人)
(内 訳)	総会員数11人減、A会員10人減、B会員増減0人、C会員1人減	
名 誉 会 員	3 人	久場トヨ、中村昌義、金城保景
薬 局 開 設 者	229 人	
一 般 販 売 業	15 人	
卸 勤 務 薬 剤 師	21 人	
勤 務 薬 剤 師	711 人	薬局(637)、病院(72)、製輸(2)、登録販売業(0)
そ の 他	125 人	行政(3)、教研(3)、他職勤務者(15)、無職(104)
② 賛 助 会 員	78 人	
合　計	1,182 人	①(1,104人) + ②(78人)

(2) 薬局開設者等（前年度との比較）

平成28年3月末現在

	平成26年度	平成27年度	増	減
薬 局 開 設 者	237 人	229 人		8 人
一 般 販 売 業	13 人	15 人	2 人	
卸 勤 務 薬 剤 師	23 人	21 人		2 人
勤 務 薬 剤 師	712 人	711 人		1 人
保 険 薬 剤 師	955 人	949 人		6 人
そ の 他	127 人	123 人		4 人

(3) 保険薬局等（前年度との比較）

平成28年3月末現在

	平成26年度	平成27年度	増	減
保 険 薬 局	539 軒	538 軒		1 軒
処 方 箋 応 需 薬 局	522 軒	529 軒	7 軒	

第74回通常総会資料

平成27年度事業経過報告

1. 医薬分業対策

平成27年度は薬局、薬剤師バッシングが吹き荒れ、今一度薬剤師職能を見直す年度であった。薬局と薬剤師のあり方に変革を求める方針が打ち出され、県薬としてもそれを見据えての研修会、講演会等を開催した。

9月には医薬分業対策会議を開催し、県内広域病院薬局長と各地区薬剤師会会長・分業担当者が参加した。テーマを「おきなわ津梁ネットワークの取り組みについて」とし、他職種連携を深めるツールにしていくために沖縄県医師会理事の比嘉靖先生、ワタキュー薬局の砂川香先生にご講演頂き、今後の取り組み等についてディスカッションを行なった。

1月には「日薬ｅお薬手帳及び不動在庫・備蓄ネットワークシステム」の説明会を行い、参加薬局に啓発した。

医薬品等の安全・適正な使用と専門職種等と連携した地域住民の健康維持・増進を支援する機能を有する「**健康サポート薬局**」のあり方が厚生労働省から示され、さらに薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するための「**患者のための薬局ビジョン**」が厚生労働省より示された。これを受けて2月には「健康サポート薬局の実現に向けて」というテーマでSGD（スモールグループディスカッション）を開催した。

休日夜間調剤に取り組む「会営薬局医療センター前」は、開局して7年目が経過した。多くの輪番薬剤師に支えられながら、地域医療参画の実績をあげている。

不動在庫・備蓄ネットワークシステムの運用は6年目になり、現在141薬局が参加している。

2. 生涯学習

平成27年度新任・新人薬剤師研修会は、平成27年7月5日に沖縄県薬剤師会館ホールで開催された。参加者は薬局15名、病薬41名、薬学生14名、その他1名の計71名と多くの参加があった。例年通り研修会開催前に、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局の施設見学を行った。研修会では、最初の「医薬品情報業務について」を沖縄県立中部病院の赤嶺一姫先生が担当し、医薬品の適正使用における情報の入手方法は紙ベースと電子ベースの二通りがあり、それぞれについて具体的な媒体の説明があった。「薬歴の書き方について」は、すこやか薬局グループの坂本政文先生から、薬歴の目的、記録システムPOS、SOAP形式での薬歴の記載方法の説明があった。沖縄県立中部病院の莇由衣先生による「フィジカルアセスメントについて」は、実際に脈拍測定するなど測定のコツ等も伝えたり、具体的な医薬品をあげて何に着眼してフィジカルと結びつけるか等とても有意義な講義であった。さらに、学校薬剤師部会の知名博樹先生から「学校薬剤師部会について」、青年部会紹介では上原卓朗先生から部会紹介の他に薬学生に向けて県内にも良い就職先があるなど啓発をされていた。今年の研修会も若い薬剤師や薬学生の参加が多く、また講師に関しても、講演内容、配布資料、発表において大変素晴らしかったとの声が多数あり、実りのある研修会となった。

また、第29回沖縄県薬剤師会学術大会は、「ちゃーがんじゅー沖縄の実現に向けて～薬剤師の貢献と多職種連携～」のテーマのもと、澄み切った秋晴れの平成27年11月1日（日）に沖縄県薬剤師会館で開催、267名（県薬147名、病薬108名、薬学生12名）が参加された。会員発表の部では

病院診療所部門12演題、保険薬局部門3演題、その他2演題の合計17演題の発表があったが、殆どが時間内での発表でスライドも良くまとめられていた。ランチョンセミナーは協和発酵キリン株式会社との共催で医療法人友愛会南部病院の麻酔科診療部長の笹良剛史先生に「がん患者と何を話すか？緩和ケアにおけるチーム医療とコミュニケーション」というタイトルでご講演頂いた。特別講演は、ファルマメディコ株式会社代表取締役の狭間研至先生に「薬局・薬剤師が変われば地域医療が変わる」をご講演頂いた。医師であり薬局経営者でもある先生からは、地域医療の中でも薬物治療が医療行為の多くを占めており、様々な服薬支援、肝機能・腎機能の低下は処方内容の個別最適化が必要になっている。そのため薬を渡すだけでなく、薬を服用した後の患者さんの薬物治療に医師と協働で関わることへの意義を講演して頂いた。大会奨励賞は、病院診療所部門ではハートライフ病院の仲原大介先生による「貼付剤の剥がれ易さの検討について」が、保険薬局部門ではすこやか薬局の砂川信子先生の「HIV陽性患者への在宅における服薬支援～多職種連携～」が選ばれ、盛会のうちに終了となった。

日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）は平成24年4月からスタートした。過渡的認定でレベル5を取得した会員への対策として昨年度は実践記録の提出に特化した研修会を計6回実施し、更新要件を満たした会員数を期限までに79人に増やすことができた。それでも、多くの会員が降格となったが、今後も必要に応じJPALS利用会員数を増やすべく対策を講じる。

日本薬剤師研修センターの生涯研修受講単位状況は、575名（会員数の52.1％）で、前年度と比較して127名の減。取得目標単位（10単位）取得者は、136名（会員数の12％）で、前年と比較して18名の減であった。また、沖縄県の日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師は認定者が202名で取得率9.9％であり、全国平均の13.9％を下回っている。本制度は平成6年スタートだが、今年度から「かかりつけ薬剤師制度」が開始され、CPC認証の研修認定取得が要件となっており、生涯学習の重要性は益々高まると思う。さらに、JPALSも平成24年4月からスタートし、今年で4年目に入る。

我々薬剤師は、薬の専門家として国民の健康の保持・増進に寄与する責任がある。さらに、最近の薬剤師に対する厳しい非難を解消するめには、薬剤師が「国民の目に見える形」で医療への貢献を示す必要がある。そのためにも、生涯にわたり研修・研鑽に取り組む事は重要である。今後も実りある生涯学習活動を継続していきたい。

3. 医療安全対策

平成27年10月1日から「医療事故調査制度」が施行された。9月に県医師会における協議会に亀谷浩昌会長と吉冨弓江理事が出席し、薬剤師を調査委員の構成員とするよう要請をした。よって10月に沖縄県医師会医療事故調査支援委員会委員の推薦依頼が届き、亀谷浩昌会長と薬事情報センターの吉田典子氏を推薦し、正式に同委員会委員に委嘱された。

平成27年度医療安全講習会を平成28年2月14日（日）に本会館ホールで開催し、講師に会営薬局医療センター前輪番薬剤師の柴田忠佳氏から「会営薬局医療センター前の医療安全対策」の発表があり、特別講師には日本薬剤師会医薬品情報評価検討委員の中村健氏をお招きし、「全日本民主医療機関連合副作用モニターの取り組み～医薬品・医療の評価方法～」の演題で講習を行った。例年通り講習会へ事前参加登録を行った会員には受講認定証を発行した。当日の出席者は123名であった。また、受講した会員が自らの薬局職員等へ伝達講習をするよう促した。

また、厚生労働省の通達を受け、子どもによる医薬品の誤飲防止対策啓発ポスターを作成した。子どもが医薬品を誤飲した際の相談機関として＃8000（小児救急電話相談）を掲載し、会員薬局･

薬店はもちろん、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会、沖縄県保健医療部から名義をいただき、関連施設への掲示を依頼した。

4. 医療保険

平成27年度の個別指導は、集団的個別指導が36件、新規個別指導が35件、既存薬局が20件と例年とほぼ変わりはなかった。個別指導における指摘事項も、薬歴簿の指導要点記載が不十分な例が多く見受けられた。また、誤った調剤報酬請求も散見された。8月には、てだこホールにおいて、保険薬剤師、医療事務を対象に「適正な調剤報酬請求業務について」の研修会を開催した。また、平成28年度は、診療報酬の改定があり、その説明会を3月21日にてだこホールにおいて、九州厚生局の「集団指導」と「平成28年度調剤報酬改定等説明会」を共同で開催した。今年度も、2部に分けての開催としたが、1部には人数制限を設けて約950名、2部に約750名の参加者であった。また、今回は、3月30日に八重山地区（参加人数約60名）、31日に宮古地区（参加人数約20名）についても年度内に改定説明会を開催することができた。

5. 地域保健開局

(1) 自殺予防・対策事業

平成23年度から本会も沖縄県の自殺対策連絡協議会に加わり、5年を経過した。この予防対策事業は平成29年まで予定されている。県内における自殺者は、平成10年以降300人を超える状態が続いてきたが、平成24年度には267人と15年ぶりに一気に300人を下回ることができた。また、同じく平成24年度は全国的にも15年ぶりに3万人を下回り、これらは対策事業の効果ではないかとの評価もあった。しかしその後、県内においては平成25年度に278人、平成26年度に284人、平成27年度281人と微増傾向にあり、沖縄県自殺対策連絡協議会においては今後も取り組んでいく事業として位置づけられている。当初目標とした数値（県内自殺者ピーク時の10％減）は平成24年で達成できたため、平成25年度以降はピーク時の20％減に向けて取り組んでいる。

地域保健開局委員会が取り組んだ平成27年度の自殺予防対策事業は、例年通り、主として会員店舗における自殺予防啓発ポスター掲示と、ゲートキーパーとしてのスキルアップ研修会の開催であった。研修会は平成28年3月6日（日）に26人の参加によって行われ、沖縄県医療保健部健康長寿課精神保健班の本村しのぶ氏による報告、那覇市医師会常任理事の玉井修医師による講演と、約2時間にわたり執り行なわれた。本村しのぶ氏からは、自殺の現状（国・県）、自殺総合対策推進の枠組み（国・県）、県および市町村の取り組みについての報告、説明をいただいた。玉井修先生からは、「自殺対策はスペシャリスト連携で、、、」というテーマでご講演をいただき、スペシャリストの連携もさることながら、基本は誰もが世話焼きおせっかいおばちゃんになり、ひたすら寄り添い「あなたは一人ぼっちではない」と手を握ることだと述べられた。薬局においても薬剤師だけでなく、スタッフ全員誰もが気づいて傾聴し、必要な医療機関へつないで見守ってほしいとのこと。今後はネット攻撃による若年者の自殺者が増えるであろうと警告を発し、その対策の重要性にも言及された。具体的には、ご自身の学校医活動として小学生に命について考える講演を行うなど、学校薬剤師のこれからにも参考になる内容であった。また、東日本大震災被災地での活動とご自身の死生観を交えた講演は、ゲートキーパーとしてのスキルアップに留まらず、各人の心に響く研修になった。

(2) 禁煙事業について

平成19年に発足した禁煙支援薬局・薬剤師の認定制度（3年毎更新）は、現在、認定薬剤師は77名、禁煙サポート薬局は17軒である。以前より、禁煙支援に携わる薬剤師のモチベーションを高く維持するための工夫が必要であることが本年も確認された。また、平成27年度も、禁煙サポート薬局支援継続事業として「第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会」と共同開催で実施した。

第77回九州山口薬学大会（鹿児島）の禁煙協議会においては、①禁煙支援指導者の認定制度に係る単位の他県との相互互換の可能性ならびにその妥当性について、②各県独自の禁煙支援や防煙教育の資料は各県で共有化できるような方向で検討することなど、他県との連携を確認した。

全国での連携としては、日本禁煙科学会学術総会に4年前の沖縄大会から継続して参加しており、全国の禁煙に関わる多職種間での情報交換を本年も行った。

県内における他職種との連携としては、県内に3年前より設立された“こどもの禁煙研究会”への参加があり、同事業の推進に薬剤師会として貢献した。

また、県内の禁煙事業を多職種で集まって報告を行う“沖縄県禁煙協議会総会”に継続して参加し、県薬剤師会の取り組みを報告した。

一方、学校薬剤師を中心とした教育現場における防煙（はじめの1本をすわせない）活動については継続して行われた。これらの活動が小学校～高等学校の児童・生徒に対して継続して展開していることは、喫煙防止に大いに貢献するものである。未成年の禁煙支援に対しては、継続して県に対してその補助事業を申請しているところである。ブリンクマン指数の廃止により、未成年をはじめとしてあまり多くない本数の喫煙者の禁煙治療が、保険を使用できるようになったことの意義は大きいと考える。

(3) フィジカルアセスメント

BLS（1次救命救急）を平成27年度もベーシック、アドバンスの2段階のクラスに分けて、沖縄本島（各2回）、宮古、八重山（それぞれ各1回）の3箇所で実施した。

(4) 地域ケア会議

地域包括ケアに基づく地域ケア会議の専門職メンバーとして、那覇市、沖縄市、宮古島市等に薬剤師の派遣を行った。また、この取り組みについて、佐賀県と共同で、日本薬剤師会学術総会（鹿児島）にて報告した。

(5) 一般用医薬品等

薬剤師のための一般用医薬品研修会（湿疹編）の講演会を行った。当研修会は、今後の健康サポートのための薬剤師の対応研修（仮称）になることを見据えての研修である。

6. 在宅医療

在宅医療を担う薬剤師の養成･支援を目的として､平成27年6月に「在宅医療委員会」を発足し、会員支援として以下の3つの事業を行なった。

(1) 在宅医療支援薬局の啓発活動

県薬剤師会ホームページに在宅医療を支援できる58ヶ所の薬局一覧を地区別に掲載した。在宅担当薬剤師名、受け入れ可能な担当地域、施設（患者宅、介護施設など)、疾病（高齢者、緩和ケア、重度心身障がい児など)、注射薬の無菌調製などと一般の方々にもわかりやすく、細やかな掲載を心がけた。

病院の地域連携室への啓発運動を行なった。

【受入可能な施設】

1）患者宅	56薬局（97%）
2）介護施設	53薬局（91%）
3）グループホーム	52薬局（90%）

【受入可能な疾病】

1）高齢者	53薬局（91%）
2）がん	41薬局（71%）
3）緩和ケア	36薬局（62%）
4）重症心身障がい児	32薬局（55%）
5）ＴＰＮの無菌調製	7薬局（12%）
6）医療用麻薬の無菌調製	6薬局（10%）
7）抗がん剤の無菌調製	1薬局（ 2%）

【医療材料の取扱】　41薬局（71%）

【無菌調製のために設置している設備】

1）クリーンルーム	2薬局（ 3%）
2）クリーンベンチ	5薬局（ 9%）
3）安全キャビネット	0薬局（ 0%）
4）他薬局設備を共同利用	12薬局（21%）

(2) 在宅医療支援のための講演会

まず初めに、小児在宅医療の講演会を実施した。これは、現在の在宅医療支援薬局の約4割が小児の受け入れ不可となっており、また、緩和ケアについても同様に受け入れが困難な薬局が多数みられたため、講演会を実施した。

【薬剤師のための在宅医療教育セミナー】

第1回　10月25日(日)　小児在宅医療　県薬剤師会館　参加者63名

第2回　 3月20日(月)　緩和ケア　　県薬剤師会館　参加者83名

【日本卸薬剤師会沖縄支部】

1月22日(金)　在宅医療支援薬局の普及　スズケン薬品

【南部地区薬剤師会】

1月22日(金)　在宅医療支援薬局の普及　県薬剤師会館

(3) 無菌調製の実践講座

クリーンベンチの設置及び共同利用の推進を目的として、TPN、医療用麻薬注射剤及び抗がん剤の無菌調製の実践講座を開催した。平成24年の調剤報酬改定の際、無菌製剤処理加算の算定要件が緩和され、「無菌製剤処理を行うための専用の部屋」がなくても算定可能になった。

また、無菌調剤室の共同利用に関する省令も改正され、薬局が無菌調剤を行うための環境整備が進められた。現在、県内では7ヶ所の薬局がクリーンベンチを設置しており、その中でも、会営薬局うえはら、北部地区薬剤師会営薬局では共同利用を目的として設置されている。患者さんの要望に応えられるような体制が整いつつある。

【在宅医療支援薬局限定　無菌調製実践講座】

11月19日(木)	TPNの実践講座	県薬剤師会館	参加者12名
11月26日(木)	医療用麻薬の無菌調製	県薬剤師会館	参加者12名
12月 5日(木)	抗がん剤の無菌調製	県薬剤師会館	参加者13名

7. 薬学生実務実習受入

沖縄県薬剤師会としての実習生受け入れは6年目で、1期9名、2期11名、合計20名の実習生を18薬局（指導薬剤師19名）で受け入れた。大学の内訳は以下の通りである。九州保健福祉大学3名、福岡大学2名、第一薬科大学6名、長崎国際大学1名、徳島文理大学2名、日本薬科大学1名、愛知学院大学（新）1名、神戸学院大学1名、名城大学1名、星薬科大学（新規）1名、姫路獨協大学1名。新規で受け入れした指導薬剤師は6名であった。県主催のしごとミュージアム、地区おくすり相談会、「ダメ。ぜッタイ。」普及運動キャンペーン等地域活動に積極的に参加した。また、委員会において地区体制を強化したため、実習サポート体制が充実した。

認定実務実習指導薬剤師養成のための講座開催（2回）、さらに更新事業の初年度として認定実務実習指導薬剤師に対して更新の周知をし、更新講習会を3回行った。予定していた石垣地区での認定実務実習指導薬剤師養成のための講座開催が出来なかったため、次年度に計画することとした。

認定実務実習指導薬剤師の養成のためのワークショップへは例年通り5名派遣した。新コアカリキュラム、ガイドライン周知のための研修会（日薬伝達講習会）を開催した。

8. 災害支援対応

行政から災害対策委員に一人就任。県は本会と連携し災害薬事コーディネーター育成を検討中である。

新型インフルエンザ等対策として、11月10日に県が実施した新型インフルエンザ等対策連絡訓練があり、県からの連絡通知を受け、沖縄県薬剤師会新型インフルエンザ等対策業務計画に沿って、役員・地区薬剤師会会長等への連絡通知や事務局内対応を行った。

災害対策として、事務局・各会営薬局にガスカートリッジ式発電機やヘルメット等の災害時備品を備えた。また大規模災害等発生時の緊急通行車両に公用車5台を登録。沖縄県薬剤師会版災害対策業務継続計画は継続して検討中である。

9. 関連事業

毎年度、継続して行った事業は次のとおりである。

(1)「薬と健康の週間」事業
　　（10月17日～10月23日）
(2) 各種関連協議会への参加協力
(3) 関連機関団体との協議及び懇談
(4) 関係行政当局との定期的連絡協議会
(5) 日薬年金及び賠償責任保険への加入促進
(6) 県薬会報の発行
(7) 求人求職斡旋事業
(8) 麻薬覚せい剤及び
　　薬物乱用防止対策行事への参加協力

10. 健康とおくすり相談会（月例）

回	開催日	担当	開催場所	相談員数	参加者数
第122回	2015/6/28	那 覇 地 区	サンエー那覇メインプレイス	7	30
第123回	2015/8/31	那 覇 地 区	サンエー那覇メインプレイス	8	40
第124回	2015/9/15	南 部 地 区	イオン南風原店	3	56
第125回	2015/10/22	南 部 地 区	パレット市民劇場	5	40
第126回	2015/11/8	宮 古 地 区	宮古島市民球場屋内練習場 (第38回宮古の産業まつり会場内)	8	90
第127回	2015/11/15	那 覇 地 区	沖縄セルラーパーク那覇	9	115
第128回	2015/11/21	中 部 地 区	うるみん健康福祉センター	11	70
第129回	2016/2/7	八重山地区	小浜島公民館	12	14
第130回	2016/2/14	南 部 地 区	糸満市役所	2	40
第131回	2016/2/21	那 覇 地 区	サンエー経塚シティ	6	45

薬事情報センター 平成27年度事業報告

（質問集計については2015. 1. 1 ～ 2015. 12. 31）

1. 情報提供業務

(1) 質疑応答業務（集計内容の詳細は別紙参照）

・調査件数：537件／年（会員299、一般238）45件／月　・質問者数：433人／年　36人／月

(2) WEBサイト（ホームページ）による情報提供

・ホームページ利用状況　アクセス件数:173,159 ／ 6か月（28,859月平均件、1 日平均961件）

（NTT Communications提供、統計ページの改変により6月から新規カウンター設置となりました）

●本年度追加・更新した主な項目

（一般向け）・研修会カレンダー　・薬局マップ　・沖縄県薬剤師会会報

・在宅支援薬局一覧　・臨床検査の基準値　・子どもの誤飲

（会員向け）・ドーピング禁止薬リスト2015　・新聞報道事例集　・安全性情報等　・通知文書掲載

(3) 会報「薬事情報おきなわ」の編集・発行（隔月刊・年6回）No. 231 ～ No. 236を発行

2. 情報収集業務

1. 新規図書総数39冊（購入：6冊）
2. 購読雑誌:20誌
3. 各都道府県薬剤師会機関誌：37誌
4. 業界新聞：4紙　（薬事日報、薬局新聞、薬事ニュース、国保新聞）
5. メーカー・卸機関誌：10誌
6. 厚生労働省および日薬からの各種情報・通知
7. 製薬企業からの情報

3. 情報管理業務

(1) 当センターで独自に入力・管理を行なっているデータベース

1. 沖縄県薬薬事情報センター質疑応答事例(ファイルメーカー Pro)（平成27年12月現在9031件）
2. ドーピング禁止薬リスト　3. 適応外使用情報集

(2) 日薬と共同作成を行なっているデータベース（文献書誌情報検索システム（Bunsaku））

・入力データ：429,298件（作年より13,231件増加：平成27年12月31日現在）

沖縄県薬担当雑誌(「新薬と臨床」「総合診療」「臨床薬理」「おきなわ県薬会報」「産科と婦人科」)

(3) 全都道府県薬の薬事情報センター協同事業：情報バンクへの資料提供

4. 学会・研修会・会議等

(1) キャリア教育講演会（沖縄県雇用政策課、未来の産業人材育成事業）
日時：平成27年10月2日(金)(於：首里中学校)「薬剤師の仕事」について（講演：吉田典子）

(2) 平成27年度都道府県薬剤師会スポーツファーマシスト担当者合同研修会
日時:平成27年12月4日(金)(於:日本薬剤師会)(参加:笠原大吾:推進委員、吉田典子:担当者)

(3) 第2回沖縄県医師会医療事故調査等支援団体連絡協議会及び調査支援委員会
日時：平成27年12月18日(金)(於：那覇市医師会)（出席：吉富理事、吉田典子）

(4) 平成27年度第1回日本薬剤師会　薬事情報センター実務担当者研修会
日時：平成28年2月5日(金)(於：日本薬剤師会)（参加：吉田典子）

5. 沖縄県体育協会関連ドーピング防止関連研修会・会議等

(1)「平成27年度第１回スポーツ医・科学委員会」(於：沖縄県体育協会)
日時：平成27年5月1日(金)（出席：笠原大吾、吉田典子）

(2) 平成27年度文部科学省委託事業　第１回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止講習会
日時：平成27年6月18日(木)（於：ベルサール東京日本橋）（参加：吉田典子）

(3)「ツールドおきなわ大会」ドーピング検査シャペロンスタッフ（於：名護市）
日時：平成27月11日8日(日)（参加：笠原大吾）

(4) JADAの「平成27年度第2回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会」(於：東京)
日時：平成27月12日11日(金)（参加：笠原大吾）

(5) スポーツの価値を基盤とした授業づくりワークショップ（於：東京）
日時：平成27月12日26日(土)（参加：笠原大吾）

(6)「平成27年度　沖縄県競技力向上対策研修会」(於：県立総合教育センター)
日時：平成28月1日28日(木)（参加：吉田典子）

(7) スポーツファーマシストのためのアンチドーピング講習会（於：慶応義塾大学薬学部）
日時：平成28年1月31日(日)（参加：大城恭子）

6. その他

(1) すくすく赤ちゃんねる（RBC）平成27年10月10日、10月17日放送
資料提供及び原稿校正

(2) 琉球新報社発行・新報生活マガジン「うない」の掲載原稿審査
(化粧品、健康食品等の広告表現の審査：薬事法、健康増進法等)
平成27年1月～平成27年12月（61件）

(3) 薬学実習生受け入れ（吉田／大城）　Ⅱ期：平成27年7月16日(3名)

(4) DI業務支援
・大城恭子：平成27年4月～平成28年3月（2～4日／月）(平成27年1月～12月：275時間)
・金城みどり：平成27年4月～平成28年3月（平日：9時～17時）
・赤嶺朝健：平成27年４月～平成28年3月（2～3日／月：1日2時間）

(5) 会営薬局とよみへ出向
・吉田典子（週2回：平成27年4月～平成28年3月）(平成27年1月～12月：512時間)

(6) 引用
・テルモ(株) セミナーへの資料提供「食品と相互作用のある医薬品」(平成27年7月)

2015年（平成27年）：調査件数集計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	(%)
薬剤識別	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3	1.00%
医薬品一般	2	2	5	11	1	3	1	4	2	2	5	2	40	13.38%
安全性情報	1	9	1	0	1	6	3	0	2	1	0	3	27	9.03%
製剤・調剤	0	0	0	0	0	0	5	4	3	3	3	0	18	6.02%
臨床情報	4	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	7	2.34%
漢方薬・民間療法	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.33%
消毒・予防	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.33%
食品・栄養学	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.33%
薬事行政・保険	7	8	14	13	9	4	11	5	14	11	9	3	108	36.12%
文献依頼	2	2	4	2	2	2	2	2	1	2	1	2	24	8.03%
その他	6	11	0	6	2	2	2	7	6	8	3	1	54	18.06%
ＰＬ相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
ドーピング	0	4	0	0	4	0	5	1	0	1	0	0	15	5.02%
合　計	22	38	25	32	19	18	29	24	29	31	21	11	299	100.0%

一般（件数）	22	13	20	12	28	13	14	25	25	21	26	19	238
（ドーピング）	1	1	0	1	1	0	2	12	7	6	7	0	38

2015年：年間総質問件数　537件
2015年：月平均質問件数　　45件

2015年（平成27年）：質問者数集計（質問者別）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	(%)
薬局	12	16	9	18	6	12	10	11	17	19	10	6	146	33.72%
病・医院（薬剤師）	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	4	2	9	2.08%
病・医院（医師）	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	0.92%
病・医院（看護婦・その他）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.46%
卸・製薬会社	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	14	3.23%
行政・団体・他の薬剤師会等	4	2	8	3	3	3	5	9	5	5	3	2	52	12.01%
その他の薬剤師	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4	0.92%
一般	18	12	16	12	20	12	10	23	21	17	22	19	202	46.65%
合　計	36	34	38	35	30	28	27	46	45	44	40	30	433	100.0%

2015年：年間総質問者数　433人
2015年：月平均質問者数　　36人

2015年（平成27年）：一般からの質問の内訳（1月～ 12月）

	合 計	(%)
医薬品一般	72	30.3%
副作用	59	24.8%
相互作用	12	5.0%
妊婦・授乳婦	1	0.4%
健康食品	5	2.1%
漢方薬	5	2.1%
保険薬局関連	6	2.5%
中毒	1	0.4%
公衆衛生	0	0.0%
その他	39	16.4%
ドーピング	38	16.0%
合　計	238	100.0%

平成27年度 試験検査センター事業報告

Ⅰ. 医薬品検査について

1）計画的試験

＊平成27年度の計画的試験の検査については、平成27年12月17日に試験検査センター委員会で討議され、1)アセトアミノフェン錠の溶出試験、2)アセトアミノフェンの定量試験及び3)漢方薬の細菌試験が選定された。検体の提出は183検体であった。

また、漢方薬の細菌試験については第16改正日本薬局方「参考情報」を結果判定の参考とする。

検査対象	検査項目	検体数
アセトアミノフェン錠	溶出試験	137
アセトアミノフェン含有製剤（錠、細粒、カプセル）	定量試験	26
漢方薬	細菌試験	19
アセトアミノフェン含有製剤（坐剤）	定量試験	1
		183

2）統一試験（日薬）；平成27年度医薬品精度管理試験

＊日薬より試験実施要領及び検体がが配布され、下記の試験を行った。

＊アセトアミノフェン及びカフェインの定量試験

（分析法）HPLC法（薬局製剤指針）　平成28年1月25日提出

3）外部精度管理（厚生労働省）；平成27年度登録試験検査機関技能試験

＊国立医薬品食品研究所より検体及び試験法が配布され、下記の試験行った。

＊アセトアミノフェンの定量試験

（分析法）HPLC法　平成28年3月11日提出

4）依頼医薬品・化粧品検査

＊依頼検査の実績は以下のとおりである。

化粧品の細菌検査及び医薬品の規格試験等の依頼を受けた。

	検 査 数	検査料金
依　　頼	5	164,979

Ⅱ. 水質検査について

1）学校関係水質検査

＊学校関係の水質検査は以下のとおりである。

県立学校及び33市町村の水質検査、また、琉球大学附属小学校・中学校等の水質検査を行った。

	検査数		検査料金
	飲料水	プール水	
県立学校	76	74	2,283,012
市 町 村	436	323	8,279,010
その他　琉大附属小学校 等	14	5	237,222
計	526	402	10,799,244

2）依頼水質検査

＊依頼検査は以下のとおりである。八重瀬町営プール等の水質検査等を行った。

	検 査 数	検査料金
一般依頼	75	704,808

Ⅲ. 空気環境検査について

1）ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の検査

＊県立高等学校及び那覇市等より空気環境検査の委託を受け、検体を取りまとめ、財団法人東京顕微鏡院へ分析を依頼した。今年度は3園の認定こども園から依頼を受けた。

ただし、東京顕微鏡院への外注費は、1,977,400円。

	検査数	検査料金
県立学校	77	981,288
那覇市立小・中学校	72	909,792
与那原町立小・中	3	50,544
豊見城市立幼・小・中	19	402,192
浦添市立幼・小・中	27	454,896
その他　国立高専 等	12	213,544
計	210	3,012,256

2）ダニ又はダニアレルゲン検査

＊県立学校、那覇市及び国立沖縄工業高等専門学校の検査を行った。

	検査数	検査料金
県立学校	231	632,016
那覇市立幼・小・中	214	513,216
与那原町立小・中	9	22,680
豊見城市立幼・小・中	41	109,080
浦添市立幼・小・中	59	156,600
その他　国立高専 等	24	64,800
計	578	1,498,392

Ⅳ. 随時の調査等依頼への対応

○学校環境衛生や医薬品等の検査に関する問い合わせについて、下記の事項等について資料提供を行った。

1）飲料水中の鉄さびについて　　など　4件

Ⅴ. 研修

1）日薬技術講習会

講 習 日　平成27年12月10日
講習会場　日本薬剤師会 会議室
出 席 者　小泉　宝之

～研修内容～
1 第17改正のトピック
2 第17改正日本薬局方　化学薬品関連のトピックス
3 日本薬局方 生薬等関連のトピックス
4 医薬品試験委員会報告

講 習 日　平成27年12月11日
講習会場　日本薬剤師会 会議室
出 席 者　小泉　宝之

～研修内容～
1 ジェネリック医薬品品質情報検討会の活動と公的機関における品質評価
2 機能性表示食品制度の発足と現状
－制度をよりよくしていくための課題－

Ⅵ. 試験検査センター委員会

平成27年12月17日（木）19時より本館会議室において試験検査センター委員会を開催した。
会議内容は次のとおりである。

1 報告事項
1）平成26年度実績報告（医薬品検査・水質検査等）
2）平成27年度中間報告（医薬品検査・水質検査等）
2 議題
1）平成27年度計画的試験について
2）平成28年度事業計画（案）について
3 その他（幼保連携型認定こども園と学校環境衛生基準の検査について）

第74回通常総会資料

貸借対照表

平成28年3月31日現在

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	250,809,934	214,140,386	36,669,548
未収入金	321,569,478	267,601,031	53,968,447
商品	84,036,116	70,815,036	13,221,080
立替金	208,361	306,967	-98,606
前払費用	789,835	913,697	-123,862
仮払金	515,031	441,869	73,162
貸倒引当金	-3,510,000	-2,900,000	-610,000
流動資産合計	654,418,755	551,318,986	103,099,769
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	77,525,921	81,039,013	-3,513,092
九山積立預金	11,614,292	11,612,353	1,939
法務対策積立預金	5,002,427	5,001,592	835
会館修繕積立預金	32,747,574	29,742,607	3,004,967
災害対策積立	3,001,578	3,001,076	502
移転積立預金	20,002,452	10,001,000	10,001,452
特定資産合計	149,894,244	140,397,641	9,496,603
(3) その他固定資産			
建物	153,061,995	158,200,455	-5,138,460
造作	3,122,527	3,542,572	-420,045
建物付属設備	17,659,458	21,057,684	-3,398,226
構築物	7,590,043	8,903,290	-1,313,247
車両運搬具	4	629,878	-629,874
什器備品	8,013,822	11,612,188	-3,598,366
土地	157,097,850	157,097,850	0
電話加入権	2,765,413	2,765,413	0
ソフトウェア	5,543,618	5,778,908	-235,290
敷金	1,250,000	1,250,000	0
差入保証金	5,081,850	5,081,850	0
その他固定資産合計	361,186,580	375,920,088	-14,733,508
固定資産合計	511,080,824	516,317,729	-5,236,905
資産合計	**1,165,499,579**	**1,067,636,715**	**97,862,864**

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	235,838,341	167,309,934	68,528,407
未払金	22,055,652	18,282,159	3,773,493
前受金	350,000	400,000	−50,000
前受会費	32,500	15,000	17,500
預り金	1,354,595	1,693,524	−338,929
賞与引当金	5,266,355	5,145,455	120,900
未払法人税等	12,894,300	8,116,300	4,778,000
流動負債合計	277,791,743	200,962,372	76,829,371
2. 固定負債			
長期借入金	129,195,000	139,191,000	−9,996,000
退職給付引当金	70,803,306	70,700,000	103,306
固定負債合計	199,998,306	209,891,000	−9,892,694
負債合計	**477,790,049**	**410,853,372**	**66,936,677**
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地方公共団体補助金	24,168,078	26,857,357	−2,689,279
寄付金	8,084,809	8,470,870	−386,061
指定正味財産合計	32,252,887	35,328,227	−3,075,340
2. 一般正味財産	655,456,643	621,455,116	34,001,527
（うち特定資産への充当額）	72,368,323	59,358,628	13,009,695
正味財産合計	687,709,530	656,783,343	30,926,187
負債及び正味財産合計	**1,165,499,579**	**1,067,636,715**	**97,862,864**

第74回通常総会資料

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	23,322	20,250	3,072
特定資産受取利息	23,322	20,250	3,072
受取入会金	730,000	620,000	110,000
受取入会金	730,000	620,000	110,000
受取会費	100,396,686	96,294,799	4,101,887
正会員受取会費	51,161,950	50,340,800	821,150
賛助会員受取会費	49,234,736	45,953,999	3,280,737
事業収益	1,820,401,842	1,638,340,455	182,061,387
出版物事業収益	4,354,025	6,174,508	−1,820,483
広告料事業収益	620,000	741,120	−121,120
その他事業収益	10,058,859	9,216,978	841,881
調剤報酬収入	1,567,758,639	1,392,589,534	175,169,105
一部負担金収入	192,830,871	182,034,313	10,796,558
小分治療剤収入	15,272,452	14,666,736	605,716
保険外	9,790,295	9,676,797	113,498
受取手数料	4,680,022	4,435,624	244,398
保険等調整増減	−3,742,533	749,796	−4,492,329
新規契約賦課金	40,000	70,000	−30,000
利用契約金	2,670,000	2,730,000	−60,000
医薬品検査手数料	55,080	227,930	−172,850
水質検査手数料	12,049,020	10,900,655	1,148,365
空気検査手数料	3,965,112	4,126,464	−161,352
受取補助金等	4,622,279	3,913,624	708,655
受取地方公共団体補助金	1,933,000	292,000	1,641,000
受取補助金等振替額	2,689,279	3,621,624	−932,345
受取寄付金	486,061	775,074	−289,013
寄付金収入	100,000	400,000	−300,000
寄付金等振替額	386,061	375,074	10,987
雑収益	4,856,253	3,380,351	1,475,902
受取利息	45,882	41,268	4,614
雑収入	701,550	466,740	234,810
事務受託金収益	4,108,821	2,872,343	1,236,478
経常収益計	**1,931,516,443**	**1,743,344,553**	**188,171,890**

科目	当年度	前年度	増減
(2) 経常費用			
事業費	1,850,253,851	1,681,590,988	168,662,863
期首棚卸高	70,815,036	77,520,031	-6,704,995
仕入高	1,517,048,594	1,324,665,465	192,383,129
期末棚卸高	-85,904,907	-72,025,341	-13,879,566
役員報酬	3,627,940	3,273,940	354,000
給料手当	102,185,851	106,444,072	-4,258,221
雑給	59,602,883	58,806,930	795,953
賞与	18,653,203	17,715,596	937,607
退職給付費用	5,282,734	7,157,302	-1,874,568
法定福利費	24,194,433	24,041,250	153,183
福利厚生費	1,058,635	1,114,471	-55,836
会議費	2,581,054	2,596,708	-15,654
旅費交通費	15,859,228	15,526,239	332,989
通信運搬費	5,811,712	6,383,233	-571,521
減価償却費	16,603,864	19,234,287	-2,630,423
消耗品費	12,902,872	9,231,075	3,671,797
修繕費	727,468	304,956	422,512
研修費	6,000	113,610	-107,610
出版物印刷費	9,650,011	8,837,428	812,583
地代家賃	21,849,007	21,889,392	-40,385
光熱水料費	6,047,080	6,086,325	-39,245
賃借料	4,748,835	2,505,312	2,243,523
広報費	4,842,480	5,518,182	-675,702
保険料	1,096,076	910,231	185,845
諸謝金	628,210	628,063	147
租税公課	3,350,245	3,250,242	100,003
支払負担金	1,379,309	1,530,979	-151,670
支払補助金	6,000,000	6,000,000	0
支払寄附金	83,000	133,000	-50,000
外注費	2,151,576	2,051,568	100,008
支払手数料	6,269,396	9,022,470	-2,753,074
交際費	190,828	124,247	66,581
管理維持費	5,626,941	7,069,209	-1,442,268
新聞図書費	460,436	343,604	116,832
貸倒引当金繰入	610,000	230,000	380,000
支払利息	2,000,280	2,142,827	-142,547
商品廃棄損	1,868,791	1,210,305	658,486
雑損失	344,750	3,780	340,970
管理費	34,366,761	34,593,034	-226,273
役員報酬	1,459,060	1,306,060	153,000
給料手当	6,387,033	6,887,735	-500,702
退職給付費用	239,678	353,010	-113,332
法定福利費	1,083,276	1,179,676	-96,400

科目	当年度	前年度	増減
福利厚生費	30,820	28,824	1,996
会議費	627,043	863,481	-236,438
旅費交通費	3,183,766	3,227,531	-43,765
通信運搬費	609,004	486,522	122,482
減価償却費	1,440,160	1,553,634	-113,474
消耗品費	443,238	458,773	-15,535
出版物印刷費	102,000	0	102,000
光熱水料費	502,118	552,614	-50,496
賃借料	325,938	114,651	211,287
保険料	99,131	114,799	-15,668
諸謝金	129,600	129,600	0
租税公課	457,905	455,976	1,929
支払負担金	13,550,950	12,969,540	581,410
支払寄附金	3,000	70,000	-67,000
支払手数料	2,696,996	1,942,110	754,886
交際費	381,439	820,795	-439,356
管理維持費	326,238	768,784	-442,546
支払利息	288,368	308,919	-20,551
経常費用計	**1,884,620,612**	**1,716,184,022**	**168,436,590**
評価損益等調整前当期経常増減額	46,895,831	27,160,531	19,735,300
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	**46,895,831**	**27,160,531**	**19,735,300**
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	4	30,244	-30,240
什器備品除却損	4	30,244	-30,240
経常外費用計	4	30,244	-30,240
当期経常外増減額	-4	-30,244	30,240
税引前当期一般正味財産増減額	46,895,827	27,130,287	19,765,540
法人税等	12,894,300	8,116,300	4,778,000
当期一般正味財産増減額	34,001,527	19,013,987	14,987,540
一般正味財産期首残高	621,455,116	602,441,129	19,013,987
一般正味財産期末残高	655,456,643	621,455,116	34,001,527
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	412,000	-412,000
受取寄付金	0	412,000	-412,000
一般正味財産への振替額	-3,075,340	-3,996,698	921,358
一般正味財産への振替額	-3,075,340	-3,996,698	921,358
当期指定正味財産増減額	-3,075,340	-3,584,698	509,358
指定正味財産期首残高	35,328,227	38,912,925	-3,584,698
指定正味財産期末残高	32,252,887	35,328,227	-3,075,340
Ⅲ　正味財産期末残高	**687,709,530**	**656,783,343**	**30,926,187**

第74回通常総会

議題審議及び質疑応答の概要

＜議題の審議＞

報告第1号　平成27年度会務並びに事業経過報告について

前濱朋子副会長が、(1)平成27年度会員・薬局等の業態現況報告、(2)会議等の開催状況、(3)講演会・研修会等の開催状況、(4)公的機関等の会議・公的活動、(5)各種委員会等の開催状況、(6)会報取材状況、(7)公的機関への協力、(8)地区・支部・部会活動について配布資料に基づき報告した。引き続き、本会の平成27年度事業経過報告、「薬と健康の週間」行事、生涯研修の受講状況、試験検査センター事業報告、薬事情報センター事業報告までを報告書に沿って報告した。

報告第2号　平成27年度会務並びに会計監査報告について

友利弘一監事より、昨年の就任以来、大城桂子監事とともに会計、事業の監査を行い、上半期監査を平成27年11月27日、年度末監査を平成28年5月10日に行った。定例理事会には相互で出席したことが述べられた。平成27年4月1日から平成28年3月31日までの沖縄県薬剤師会の予算の執行を監査した結果、事業報告の内容は会の状況を適切に示しており、また、収支計算報告の内容は、会の活動及び収支状況を正しく示しているものと認めた、との報告がなされた。

議案第1号　平成27年度決算承認の件について

山里勇常務理事より、配布資料に基づき、法人全体の合算で貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の大科目について順次説明し、公益事業にあたる実施事業等会計、会営薬局うえはら・とよみ等にあたるその他会計、薬剤師会本体の管理にあたる法人会計に仕訳された合算内訳について述べられた。

議案第2号　特別会員の変更に伴う定款、会員規程、会費規程の変更について

山里勇常務理事より、薬剤師業務に携わっていない高齢者の会員に対して会費負担を軽減することを目的に、これまでの特別会員A「年齢が満80才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者。但し沖縄県薬剤師会の会員資格のみ有する」とは別に、特別会員Bとして「年齢が満75才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者」を設けたい。これまでの特別会員Bは特別会員Cに変える。

また、日本薬剤師会が薬学生会員枠を設けて会費を無料にしたことから、本会も統一をはかるために、会費を無料化したいことが述べられた。

以上のことに関係する定款・会員規程・会費規程の変更が提案された。

第3号　賛助会員の変更に伴う会員規程の変更について

山里勇常務理事より、薬学生会員について、これまで特別会員と賛助会員の両方で謳われていたため、特別会員に統一したいことが述べられた。

それに関係する会員規程の変更が提案された。

＜地区薬剤師会代表質問＞

中部地区薬剤師会

上原 卓朗 代議員質問①

現在、県薬から会員への連絡事項・案内等はFAX送信がメインとなっているが、会員によってはFAXでのやり取りを不便に感じている方もいると思われる。今後、電子化が進む事も考慮して、電子メールでの案内等を県薬として考える予定はあるか？

入会申し込み時や年間会費の支払い時等に、メールかFAXを選択できるようにしたらどうか？

姫野 耕一 理事答弁

IT化を推進する中、会員等からの要望もあるためメール配信を検討中である。手始めに、週1回のウィークリーニュースから手掛けて発展させていきたい。導入スケジュールとして、8月中にメール配信の希望を募り、会員個人のメールアドレスを収集し、9月にテスト等を重ね、10月頃から本番稼働していく。メール配信を希望しない会員については、これまで通りFAX送信する。

上原 卓朗 代議員質問②

現在、活動している学校薬剤師の中には5～6校を受け持っている方が多数いらっしゃると聞いている。今回、かかりつけ薬剤師の施設基準に「医療に係る地域活動の取り組みに参画していること」との条件が入ったので、これを機会に多くの方に学校薬剤師になっていただいたらと思うのだが、学校薬剤師部会としてはどうお考えか？

前濱 朋子 副会長答弁

部会でも希望者が増えるであろうと期待している。その反面、同許可申請の一要件としてのみとらえた薬剤師が増えるのではないかと懸念している。部会としては、これまで同様、会報誌面での薬剤師募集を行う。また、学校薬剤師活動の周知のため、学校薬剤師部会主催の研修会への参加案内を全会員に行っていきたいと考えている。学校薬剤師を希望する会員については､随時、ウェイティングリストへ登録し、委嘱までの期間は研修会へ参加してもらい、3月までに学校側とマッチングを行っていく。

複数校担当している学校薬剤師については、遠隔地、離島で学校薬剤師のなり手のいない地域を担当してもらっている現状がある事もご理解いただきたい。また、配置される学校は本人の希望通りといかないことも申し添え、学校薬剤師活動に真摯に取り組んでくれる希望者が増えることを期待する。

上原 卓朗 代議員質問③

「医療に係る地域活動の取り組みに参画していること」の要件について、主体的・継続的に参画していることと謳われているが、その申請・許可が下りた後の事がよくわからない。数年後に更新手続き等があるのか？

川満 直紀 常務理事答弁

九州厚生局に受理されれば、更新手続きは必要ない。今年度末日まで有効である。しかし、その間は主体的・継続的に参画することを望む。

宮古地区薬剤師会

古謝 真己 代議員質問①

災害時の電力復旧の優先に調剤薬局も入れて欲しい。

現在、国の災害時の電力復旧（復電）の優先順位の基本的な考え方は、病院、交通、通信、報道機関、水道、ガス、官公庁等の公共機関、避難所、その他になっており、その中に調剤薬局が入っていない。宮古島では過去の台風災害時に応需薬局の電力復旧が遅れた事で、患者に負担を掛けた経緯もある。病院を優先順位にあげるのであれば、医薬品の供給を担う調剤薬局を優先順位の中に入れる事で、災害時により迅速な医療提供が出来るのではないかと考える。

吉田 洋史 理事答弁

平成15年の宮古島での台風14号の被害では電柱が何百本も倒された。私自身身も体験しており、1週間ほど電力が復旧しないことも理解している。そのため、調剤や医薬品の供給が遅れ、地域住民へ迷惑を掛けた。災害時の電力復旧の優先順位には、調剤薬局に限定することなく、薬局全体を含めて、優先できるように県や国に要望していく。その際には協力をいただきたい。なお、この件に関して、本会から渡嘉敷奈緒美衆議院議員へ陳情した経緯がある。

古謝 真己 代議員質問②

管理薬剤師の他薬局での勤務を可能にして欲しい。

薬事法第7条には「薬局管理者はその薬局以外の場所で薬事に関する実務に従事する者であってはならない」と定められており、管理薬剤師は非番日でも勤務できないことは周知のことである。しかし、国の地域医療のビジョンにおいて、薬局の開局時間の拡大が求められる中、薬剤師不足の地域では勤務シフト作成に困難をきたしている。医師や歯科医師が医療安全の確保及び適正な医療提供という理由において、非番日に勤務ができることを鑑みると、管理薬剤師であっても非番日に兼務を認める事は人材の有効利用や地域医療において必要な事ではないかと考える。

江夏 京子 副会長答弁

沖縄県、特に離島に於いては薬剤師不足が切実な問題になっている。厚生労働省から打ち出された「健康サポート薬局」でも土曜日か日曜日の開局の条件があり、今後の薬剤師に対する期待が高まる中、管理薬剤師が非番日に兼務ができないというのは、人材の有効利用、地域医療に大きな損失であると思う。それには薬事法第7条を改正する必要がでてくる。これについて、去る6月18日に渡嘉敷奈緒美厚生労働副大臣との意見交換会の際に要請した。これこそ政治力をもって働きかけなければいけない事項だと思う。そのためにも、私たちの代表である藤井基之氏を是非当選させ頑張ってもらおうではないか。

※三つ目の宮古地区質問は設定時間を超過したため、一般質問の時間で行うこととした。

那覇地区薬剤師会

鈴木 一徳 代議員質問①

沖縄県薬剤師会館の建設費用の借入金利について、より金利の安いものに借り換えができないか。

山里 勇 常務理事答弁

沖縄銀行から2億円を20年払いの10年固定金利1.7％で借入している。10年固定終了まで3年残している現状である。その現状を鑑みて、10年未満解約の違約金と他行への借り換えを比較し検討している。その結果を理事会で協議していただく。現在、琉球銀行、沖縄海邦銀行、鹿児島銀行と相談中である。

鈴木 一徳 代議員質問②

沖縄県病院薬剤師会と沖縄県薬剤師会を一本化できないか。

亀谷 浩昌 会長答弁

上部組織である日本薬剤師会と日本病院薬剤師会の間では一本化の話は未だない。質問は沖縄県病院薬剤師会の会員が本会にも加入する形の一本化と理解している。本会としては、病院薬剤師会会員が多数入会することを望むが、病院薬剤師会会員へのアンケートの結果によれば、本会会費と入会のメリットについて理解を得ることが難しい状況である。本会の会員種別を増設し、病薬会員の支払う本会会費を新たに設定する案を検討中である。但し、これらの設定には時間がかかるであろう。

鈴木 一徳 代議員質問③

会費支払いを薬局経営者が負担している場合、薬局宛の領収書が発行されているが、基本的には会員宛の領収証発行ではないのか。会員の獲得、自覚の問題が出てくるのではないか。

江夏 京子 副会長答弁

現在、基本的には会員個人宛に請求書等を送付しているが、経営者が支払いをしていることで、その要望に応じて経営者に請求書等を発行している状況である。経営者が会費を納入することで会員の資格を得る薬剤師もいるので、その点では質問のとおり会員獲得のメリットになり、また会員の自覚という点では経営者が支払うにしても会員個人に請求書ならびに領収書を発行することで、会員の自覚を改めて意識してもらうことは大切な事だと思う。基本的な考えのもと質問のとおりに対応していきたいと思う。

北部地区薬剤師会

屋嘉比 康作 代議員質問①

決算報告書において、賛助会員受取会費49,234,736円と前年度に比べて3,280,737円増額している。保険薬局部会を廃止して開局委員会に統合されている現在、保険薬局に対する沖縄県薬剤師会の活動状況が分かり難い。平成27年度はどのような活動（会費を納めている保険薬局に対する会員支援）が行われたのか。具体的な事業を教えていただきたい。

笠原 大吾 理事答弁

保険薬局部会の仕事は、開局委員会と重なることが多かったため委員会・部会の再編に伴い、平成27年度より新委員会体制になった。地域保健開局委員会という名称で、保健福祉委員会、開局委員会、自殺予防対策委員会、スポーツファーマシスト委員会等が合併した委員会として誕生した。一方で、在宅医療に関係する部分は、在宅医療委員会が新委員会として誕生した。地域保健開局委員会の活動内容は、本日提示されている事業報告にあるとおりである。

廃止となった保険薬局部会の平成26年度の事業内容は、平成27年度では全く同じ内容ではないものの事業内容によって、地域保健開局委員会だけではなく、医薬分業対策委員会、在宅医療委員会、医療安全対策委員会など、各委員会の活動となって行われたと思われる。

これらのことから、保険薬局に対する本会の活動は、同じ内容を各部会、各委員会が重なって行うことなく、各委員会が分担して取り組むように役割を明確化した。さらに、昨今の国の方針である「地域における薬局・薬剤師の活用」「患者のためのかかりつけ薬局」といった新しい内容への対応といった、以前より保険薬局にも求められる内容が増えてきた。そこで、効率よく講習会・研修会を実施する必要も出てきていることを理解していただきたい。これらの活動行事は、

全て保険薬局の会員に周知されているため、時間と関心によって選択して参加いただきたいと考えている。さらに開催の希望の内容があれば、要望を出していただきたい。

屋嘉比 康作 代議員質問②

決算報告書において、税引前当期一般正味財産増減額が46,895,827円、法人税等を12,894,300円納めている。中間決算もしくは、12月の第3四半期決算の時点で、これだけの法人税を支払うことが予想できたと思うが、賛助会員B会費や支部活動費の見直しについて検討はされたのか。又は、その対応策として何か理事会で議論はされたのか。

山里 勇 常務理事答弁

法人全体合算の正味財産増減計算書内訳表は、本決算を終えた後に作成される。第3四半期の段階では、法人税等、正確な数字はつかめない。指摘の通り、ある程度の予測はできるので、会費額や地区活動費等の検討はするが、平成28年度は、診療報酬改訂を控え、今後の見通しが不透明であり、前年度では収益事業部、特に会営薬局とよみでの薬剤師不足については会員有志の協力支援を頂き運営され、また事務局では、専務理事、事務局長が空席のまま職員一丸となっての運営で人件費を抑えた分、黒字となった。今回は、これらの事情から、会費額や地区活動費等については現状維持とし、理事会で承認を頂いている。

南部地区薬剤師会

川上 雄一朗 代議員質問①

サポート薬局やかかりつけ薬剤師などで、地域への貢献が条件として挙げられている。各地区薬剤師会でも地域貢献などへの取り組みを行うかと思うが、沖縄県薬剤師会としても何らかの事業展開を考慮しているか。

川満 直紀 常務理事答弁

地域への貢献活動は、地区薬剤師会が主体となって行うべきものだが、「地域への貢献」という項目について、会員がその要件を満たすための県薬としての支援事業のことを言われていると理解した。県薬としては、「ダメ。ゼッタイ。」事業におけるビラ配り等の啓発活動や、なごみ会主催県民健康フェアにおける「健康とおくすり相談会」などが地域貢献活動になると考えている。地域貢献とあるので、県薬が主催してこの種の相談会事業を行うにしても、開催場所が地区薬の担当地域と重なる。本会としては地区薬の活性化を図る上からも開催主体は地区薬とし、地区薬だけでは開催が困難であれば県薬が協力する仕組みをとる。

健康サポート薬局については、多職種連携や行政との連携も関係し、関連する研修会に関しても、地域保健開局委員会で企画し展開していきます。

川上 雄一朗 代議員質問②

地区薬剤師会の在り方について、沖縄県内の6地区薬剤師会は、法人格を持っている会とそうでない会があるが、この状況を県薬はどうとらえているか。当会も法人格を取得すべきか。その是非について相談できる機会を設けてほしい。背景として、FAXコーナー担当者の雇用や社会保険、会費の口座名義などに影響が出ている。法人格を有して運営する必要性があるか、現在、南部地区薬内で検討されている。社会保険関係の担当者によれば、法人格がない南部地区薬は実体の無い団体とみなされている。

これをクリアするためには、次の2項目を提案するがいかがか。

①　運営実体を県薬とし、当会は地区活動とみなす。
②　南部地区薬で法人格を取得し、運営方法等で懸念があれば、例えば中部地区薬などと合同で法人団体を新設し、協力し合っていけないか。法人化するにあたって、必要手続きや先の運営費などをこの場で議論しないが、南部地区が抱えている問題点を解決できる知恵を貸してほしい。

亀谷 浩昌 会長答弁

法人格取得に対する県薬の考え方を質問されているが、地区薬の諸事情もあると思われ、取得に際しては地区薬の判断に任せる。ただ、法人格の取得が地区薬の運営にどう関わってくるかについては将来的な見通しも含めてよく検討して頂きたい。法人格を持っていない中部地区薬及びその他の地区薬といろいろと相談してみることを勧める。

地区薬が活動をするに際し、法人格の取得は絶対条件とはなっておらず、法人格を取得していない中部地区薬を始めとするその他の地区薬では大きな支障もなく活動を行っている。地区薬の区分けをした際には、医療圏を参考にしている。他の医療団体との整合性及び地区同士の地理的事情も考えなければならない。

これらについて、県薬としては相談する機会はいくらでも設ける。

FAXコーナー設置に関する県薬と地区薬との間の当初の話し合いでは、地区薬の自主的な活動を推進するとの考えの中、運営は各地区薬が独自に行うに至った経緯がある。他の地区薬においては創意と工夫によってFAXコーナーの運営ができている。県薬としては先ず南部地区薬内で良く検討して運営をしていただきたいと考えている。

川上 雄一朗 代議員質問③

会営薬局とよみの慢性的な人手不足は聞いているが、会員の薬局でも調剤の自動化等で、薬剤師、事務員の労力を軽くする努力をしている。会営薬局とよみの薬剤師不足の対応について、会員の薬局では導入できない全自動の機器の導入を検討はしていないのか。あと、当面の対策はどうなっているのか。

我喜屋 美香 常務理事答弁

現在、軟膏混合器、散薬・錠剤全自動分包機等はフル活用して大変助かっている。全自動機器「PTPシート全自動薬剤払出器」は、採用品目が1,300を超える会営薬局とよみでは多額のコストがかかり難しく、「水剤定量分注機」や「散薬調剤ロボット」は、水剤、散剤の調剤件数から導入による業務の即時軽減化が現在のところ見られない。しかし、これらの機器の導入は検討の余地があるので、前向きに検討したい。機器導入も踏まえ、これらをマネージメントする人材を増やし、業務の効率化を図り、そして南部地区薬と連携・協力し、処方箋を面に広げる方向で考慮している。

川上 雄一朗 代議員質問④

最近、日薬会員が減ってきていると聞いている。県薬では、どのような年齢構成になっているか聞きたい。これからどのようになるのか、会員獲得のためにどのような活動をしていけばよいか等、提示いただきたい。

前濱 朋子 副会長答弁

別紙の参考資料を参照頂きたい。平成28年6月1日現在の県薬会員数は1,109名となっている。会員の年代別構成は人数の多い順にあげると、60代26%（291名）、40代21.1%（235名）、50代

17.8%（198名）、30代17.4%（193名）、70代11.6%（129名）、20代3.7%（42名）、80代1.6%（18名）、90代0.2%（3名）となっている。20～30代21％（235名）、40～50代39％（433名）となり、20～50代が県薬会員の60％となっている。

県薬としては、非会員の掘り起こしも含め、会員には身近にいる非会員に本会活動を紹介し、入会を促していただきたい。県薬としては、会員のニーズ、時代に合った情報の提供や研修会の開催を各担当委員会を中心に実施していきたいと考えている。

八重山地区薬剤師会

山城 専 代議員質問①

求人求職斡旋事業に関して、昨年度の取り組みと実績を示してほしい。要望として、民間の人材紹介会社並みの活動をしてほしい。会員（薬局）側は、経営面だけでなく心理面でも負担が軽くなり、また応募する側も直に薬局側と交渉する必要がなく、安心して就職活動ができると思う。事務局は今まで以上に負担がかかるので、職員が必要となり、人件費等の支出が増えると考えられるが、全県的な薬剤師不足であるから検討して頂けないか。

宮城 敦子 常務理事答弁

本会薬剤師無料職業紹介所の平成27年度求人求職実績は、常用求人数100人で有効求人数は92人、新規求職申込人数18人で有効求職者数は0人であった。昨年度の取り組みとして、「薬学部に出向いてのU・Iターンガイダンス」、「しごとミュージアム」や「グッジョブ・サマースクール」等での薬剤師職能ＰＲ活動、薬剤師・薬学生のための情報誌への求人広告の掲載などを行った。更に、厚生労働省が創設した「医療提供体制改革のための新たな財政支援制度（基金）」における「医療従事者等の確保・養成のための事業」において、本会は「薬剤師の確保」を示し、先程の事業項目等を同事業費にあてた。同計画の有効性としては、年間数名程の薬剤師を確保し、養成して就職に至るまでの達成を目標にしている。

紹介所を訪れた求職者は、求人情報を閲覧し情報を持ち帰り、大半が個人で求人者と交渉をしている。少数ではあるが、求人者との交渉を苦手とする求職者に対しては、紹介所担当職員が就職の成立まで責任をもって仲介、交渉を行っている。仲介、交渉を要望される求職者に対しては、今後更に、就職成立まで懇切、丁寧に行う。

山城 専 代議員質問②

災害対応医薬品供給車両（MP）を県からの補助等を利用して導入できないか。今年4月に起きた熊本地震でも有効活用されており、救護所等急場しのぎで作られた様な場所での調剤と違い、衛生的で断水や停電などの影響も受けない。既に宮城、大分、広島、和歌山の各県薬が保有している。本県でも万が一に備えて保有できれば、宮古、石垣や他の離島でも活用でき、平時には県や市町村での防災訓練、薬と健康の週間、健康とおくすり相談会等の各種イベントに利用したり、模擬調剤もできることから、薬剤師の職能をPRできる。検討いただきたい。

吉田 洋史 理事答弁

熊本地震では、支援に入った薬剤師はもちろん、後方支援や義援金への協力に感謝する。モバイルファーマシー（MP）の活躍はメディアやマスコミでも多く取り上げられ周知の通りである。キャンピングカーを改造したMPは約1,300万円かかり、各県600万円ほどの補助金を使い整備したようである。沖縄で災害が発生した時は、他府県からの支援を受けることに時間がかかることを考えれば、活用できる補助金があれば積極的に検討していきたい。

山城 専 代議員質問③

賛助会員B会費の未納薬局に対して、昨年度の取り組みと回収実績を提示頂きたい。

山里 勇 常務理事答弁

昨年度は、電話による呼びかけで新規薬局の納付が多くなり、薬局526軒中、納付薬局453軒、納付新規薬局25軒、500円以下の薬局13軒、未納薬局35軒となっている。今年度は、未納薬局に対して7月中旬頃から直接出向く予定である。

＜一般質問＞

（地区代表質問の時間内に質問できなかった宮古地区質問）

古謝 真己 代議員質問③

県薬のホームページから重要な講習会についてはビデオ配信して欲しい。例えば、「診療報酬改定」など、本島で行われる重要な講習会を録画し、県薬のホームページで配信し、いつでも観られる環境を作ってもらえる事で、内容を再確認でき、かつ疑問点を纏める事ができる。これは本島での講習会後に離島などで開催される際に、質問事項を準備、整理するのに役立ち、より成果のあるものにする事ができると考える。

外間 惟夫 副会長答弁

ビデオ配信については、薬剤師会としても今後前向きに検討したい。現在でも重要な講習会、例えば地域薬局拠点事業研修会や県薬学術大会については、亀谷会長の意向もありDVDで提供しているところである。既に薬剤師会の担当職員が技術的な検討を開始しており、具体的にはこれまでDVD録画した画像を利用し、現状の県薬ホームページの容量および会員の視聴環境（PC性能やネット回線速度）を考慮し、動画サイズや画質等を検討している。運用上の問題では、動画コピーを許可するのか、或いは制限（技術面）するのか、また演者の許諾やスライド著作権などもあるが、可能な限り対応して会員の生涯学習の支援や業務に必要な情報等をタイムリーに提供できるよう、要望のある研修会から提供を検討していきたいと考えている。

福地 健治 代議員質問

県薬主催の研修会に、非会員が参加する場合には、1万円の参加費を徴収しているようであるが、現状をお聞かせ頂きたい。

亀谷 浩昌 会長答弁

県薬会員としてのメリットおよび非会員との差別化として、非会員から1万円の参加費を徴収している。考え方や金額については、妥当と考える。また、研修会によっては、病院薬剤師会との共催およびこれまでの経緯を踏まえた上で、非会員の参加費を調整することもある。

比嘉 真三 代議員質問

議案第2号の特別会員の変更に伴う定款、会員規程、会費規程の変更について質問する。高齢者の会員の会費負担の軽減のための措置とのことで特別会員Bを設けているが、この内容だと75才以上で特別会員Bになると年齢制限がないため、80才以上が対象である特別会員Aにはなれないことになる。特別会員Bの内容を75才以上80才未満の年齢制限を設ける必要があると考えるがいかがか。

山里 勇 常務理事、亀谷 浩昌 会長、山城 英人 事務局次長答弁

今回提案した特別会員の扱いとして、特別会員Bに年齢制限を設けない理由は、まず年齢が満

75才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない会員に対して、特別会員B（年額会費17,000円、資格：日薬会員、県薬会員）として扱い、年齢が満80才になった年度の初めに特別会員A（年額会費10,000円、資格:県薬会員のみ）になることをその会員に伺い、それを望まなかった場合は、継続で特別会員Bとして扱うことになる。

屋嘉比 康作 代議員質問

かかりつけ薬局・薬剤師の機能を有する上で患者情報の一元化が求められる中、電子お薬手帳の活用が考えられるが、県薬が推奨する電子お薬手帳は日薬ｅ-お薬手帳であるのか。また月額費用を県薬が一部負担していただけるとさらに推進できるのではないか。

吉田 洋史 理事答弁

算定要件を満たしている各社からの電子お薬手帳は20件程ある。その中、県薬は日薬ｅ-お薬手帳を推奨していきたい。費用負担について、現在は考えていない。今後の課題としたい。

＜採決＞

玉城武範議長が、議案第1号、第2号、第3号の各件について挙手による承認を求め、それぞれ賛成多数で、承認された。

＜地区薬剤師会代表質問 演説＞

上原 卓朗
沖縄支部代議員(中部地区代表)

古謝 真己
平良支部代議員(宮古地区代表)

鈴木 一徳
那覇中央支部代議員(那覇地区代表)

屋嘉比 康作
名護支部代議員(北部地区代表)

川上 雄一朗
南風原支部代議員(南部地区代表)

山城　専
石垣支部代議員(八重山地区代表)

＜地区薬剤師会代表質問 答弁＞

姫野 耕一 理事
(IT化推進関連質問答弁)

吉田 洋史 理事
(災害対策関連質問答弁)

笠原 大吾 理事
(地域保健開局関連質問答弁)

我喜屋 美香 理事
(会営薬局関連質問答弁)

山城 英人 事務局次長
(会員規程関連質問答弁)

災害対策　熊本地震における沖縄県薬剤師会の対応

災害対策委員会
委員長　吉田 洋史

熊本地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復興、復旧をお祈り申し上げます。

今回の地震に対し、沖縄県薬剤師会では、日本薬剤師会、熊本県薬剤師会、九州各県をまとめる福岡県薬剤師会と連携し必要な対応を行って参りました。別表にて簡単ではありますが時系列に県薬の動きを挙げております。

ひとつひとつの行動には多くの人の知恵と会長の判断、協力で成り立っております。特に裏方として朝から深夜まで山城次長を中心とした事務局の皆さんの協力には感謝いたしております。

沖縄県薬剤師会では、東日本大震災後に災害対策委員会が設置された経緯があります。今回、災害対策マニュアルが整備されていたことや5年前の記憶もまだ残っていたことがあり、初動は全国同様に早かったように感じました。ただ、改めてはっきりと浮かび上がった課題もあるので、今後の活動に活かしていきたいと思います。

短い期間ではありましたが、会員、薬局の皆様から245万1,155円もの義援金が寄せられ、日本赤十字社沖縄県支部へお届けすることができました。少しでも早く平穏な暮らしを取り戻すことができればと祈念致します。

県薬の支援の下、大きな余震が残る中で被災地に入って頂いたボランティア薬剤師5名の皆様には心より感謝するとともに御礼申し上げます。しかしながら、一人薬剤師や薬剤師不足のために現地活動ができず悔しい思いをした方の話を何人も聞きました。災害現場ではなくても出来る活動はたくさんあるということも理解いただきました。そして、物心両面から様々な支援をいただいたことへも心から感謝致します。

マスコミでも大きく取り上げられていたモバイルファーマーシー（MP）の活躍ぶりを御覧になったでしょうか？災害の現場で調剤された薬を受け取った方の安心した顔と言葉に強く胸を打たれました。本県でもMP導入の必要性を感じました。

最後になりますが、災害が起きてしばらくは災害対策に意識が行くのですが、しばらくすると地元では起きないだろうとか、何とかなるさぁと段々緊張感が無くなってきてしまいます。日々、リスク管理と併せて防災意識を持続していきたいものです。

吉田 洋史 委員長

坂本 俊一 氏

喜久山 有沙 氏

我喜屋 美香 氏

姫野 耕一 氏

司会 藤原 明人 委員

熊本地震支援薬剤師情報報告会

日時：平成28年5月9日（日）19:30 ～ 21:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

支援薬剤師の坂本俊一氏、喜久山有沙氏、我喜屋美香氏、姫野耕一氏（DMAT派遣）から報告があった。

＜御寄付者一覧＞

（個人名義）

池間　記世　池村政次郎　池村由美子　石垣　満子　石川　元信　今井　忠子
上原　　学　上原　陽子　宇良嘉代子　大城　　香　大城　桂子　大城　輝子
大城　浩子　太田　節子　大見　博志　大見　洋子　大山　茂昭　小渡　　睦
嘉数　和子　嘉手納秀子　兼島　静江　神田香代子　神村　武之　神村　康江
神村　友理　神山　朝喜　川畑　洋子　金城　　強　金城　保景　国吉　礼子
酒井　明子　﨑山　慶子　島袋　七恵　下野　明子　城間　盛光　城間　盛伸
鈴木　聡子　平良由紀子　高嶺　絵里　高良　武和　武富　弘益　玉澤真理子
玉那覇昌保　田盛マールタ　知念　正宜　津波　高徳　照屋　秀子　照屋　有紀
渡久山京子　富村みどり　永迫　洋子　仲村すがよ　仲村　英和　西平　克子
西平　守明　浜元　朝孝　林　　信嘉　日高久美子　平田　順子　普久原　隆
藤田　和哉　藤田　睦子　普天間公子（はづき薬局）　前濱　朋子　宮里　晄子
屋宜　昌幸　山城　　専　山城　恵子　吉田　典子　吉田　久子　與那嶺朝子

（薬局・薬店・法人・団体名義）

㈲アールエイチ　アイアイ薬局　あおぞら薬局　あかみち薬局　㈲アクセスオー
あすなろ薬局　㈲アミティ　池宮薬局　㈲伊祖薬局　上地薬局
㈲エーワイ・ファーマシー　㈱SD　㈲オーエムファーマシー　ひまわり薬局
大北薬局　オレンジ薬局　㈲カヨウ　かんな薬局　がんじゅう薬局
きずな薬局 桑江店　キセ薬局　くはら薬局　クララ薬局ウェルビー
クローバー薬局（北谷）　㈲コジャ　㈲寿　㈲古波蔵薬品　㈲さわやか薬局
㈾伸成　㈱たいよう薬局　たくし薬局　たんぽぽ薬局　とくりん薬局 南風原店
ともよせ薬局　仲真薬局　仲村薬局　名護薬局　名護中央薬局　那覇センター薬局
ハイジア薬局　㈲白寿　はるな薬局　ひなた薬局　平田薬局　ぴぃぷる薬局 与儀店
二巴薬局　㈲フレンド　辺土名薬局　ミッキー薬局　ミドリ薬局 美里店
屋嘉比薬局　やぎ薬局　山城薬品　㈱ユース　㈲レ・ネット

日本赤十字社沖縄県支部へ義援金245万1155円を託した（平成28年5月19日(木)）

沖縄県薬剤師会熊本地震対策時系列

4月14日（木）

21:26　震度7を観測する熊本地震発生（後に前震と呼ばれる）

4月16日（土）

1:25　マグネチュード7.3の震度7が再度発生し本震となる

9:00　日薬常務理事の田尻泰典先生から沖縄県薬へ支援薬剤師の派遣準備をお願いされる

9:00　県医師会事務局より、いつでも対応できるようにJMATを待機させている。携行する医薬品は医師会では購入できないため会営薬局からの調達をお願いされる。

10:00　卸5社に医師会からのリストに基づく医薬品を発注

13:00　会員あてに支援薬剤師募集FAX一斉同報配信

4月17日（日）

12:00　九州各県の支援状況確認、20日（水）までの目処は付いている

18:00　県医師会事務局より、明日夕方JMAT初陣が出発予定なので医薬品を明日午前中に受け取りたい。要請ではないが初陣に薬剤師が参加可能であれば助かる。

4月18日（月）

9:00　医師会から初陣ではなく第2陣に参加して欲しいと。

12:00　県医師会へ医薬品引渡し

19:30　災害対策委員会緊急招集(委員＋会長、副会長)

4月19日（火）

9:00　JMAT第2陣への参加を待たずに現地への派遣を決定

10:00　被災者に係る被保険者証等の提示等についてFAX一斉同報配信

15:00　支援薬剤師募集FAX一斉同報配信（再送）

4月20日（水）

7:00　那覇港よりフェリーにて坂本俊一先生出発27日(水）帰沖

4月21日（木）

17:00　義援金募集についてFAX一斉同報配信

4月22日（金）

我喜屋美香先生、喜久山有沙先生の二人は福岡県薬スキームに合わせて出発28日(木)帰沖

4月25日（月）

16:00　義援金募集振込手数料についてFAX一斉同報配信

4月26日（火）

12:00　義援金募集振込手数料手続完了についてFAX一斉同報配信

5月2日（月）

16:00　支援薬剤師第2次募集FAX一斉同報配信

18:00　熊本地震の情報報告会案内FAX一斉同報配信

5月9日（月）

19:30　熊本地震の情報報告会～熊本地震支援から帰沖して～

5月11日（水）

13:00　熊本地震への義援金募集お願いFAX一斉同報（再送）

5月12日（木）

玉城和子先生、喜納みゆき先生の二人は福岡県薬スキームに合わせて出発18日(水)帰沖

5月20日（金）

11:00　熊本地震災害支援へのご協力についてお礼FAX一斉同報配信

会員・関係者各位

義援金等、物心両面からの様々なご支援に感謝申し上げます。

皆様の「あたたかい気持ち」は、被災して困っている方々に確実に届きます。

熊本災害派遣報告

おもろまちメディカルセンター
我喜屋 美香

わかっていたはずだったが、東日本大震災から5年の月日はやはり当時の感覚を呼び起こすにはあまりにも長い時間だった。熊本地震が起こった日から、何か悶悶としたものがあった。今回、私の背中を押したのは、熊本県薬の方々（2年前熊本県薬からよばれて禁煙の講演をしたことがある）の顔、東日本大震災で石巻で同時期に支援した同志K氏（昨年没）からの声等々であった。K先生ならどうしただろう。きっと真っ先に動いただろう･･･思った瞬間、いてもたってもいられなくなった。準備にあわてた。

4月22日福岡県薬で予定されていた実務実習の会議終了後、沖縄から到着した喜久山先生と合流し福岡県薬から車と必要な情報を得、一路熊本へ。

高速は植木インターより先は通行止めとのこと。しかし、災害用のライフジャケットを着ていたためにそのまま通過でき、2つ先の熊本・益城インターで降りる。福岡から高々1～2時間、陸続きならではの温度差に違和感を感じる。本当に同じ九州か？信号機は折れ曲がり送電線も垂れ下がっている。マンホールの管が持ち上がり（いや、道路が陥没か？）暗くなると運転も危険極まりない。熊本県薬の先生より「連日の地震で地盤が緩くなっているので少しの雨でも危険。躊躇せずに避難せよ」と忠告メールを受ける。熊本県薬を経由して益城町総合体育館到着。沖縄県から先に到着していた坂本先生と言葉をかわすや否や行き先変更の指示があり、空港近くの益城町エミナースへ向かう。日赤チームと同行するミッションを与えられた。（このように数時間後には指示は変わることはよくあることである。）

それからの行動をまとめると以下のようになる。

地震発生当時、熊本県内には600か所あまりの避難所があった。益城町は、震源地震度7を観測している。家々はとても住める状態ではない。しかし、いままでの大事な生活はその中にある。さぞかしつらいことであったろう。（建物に赤い紙が貼られたら、倒壊の危険にて入ることもできない）

①　保健師からのSOSがきた。支援物資のOTC薬が配布できない。薬剤師が必要と･･確かに体育館の片隅にOTC薬は置かれている。隣りの西原村の避難所（小中校･･･3校あわせて1500名ほどの避難者）でOTCの相談配布を開始した。OTCに関しては薬剤師トリアージの要素がある。これは薬剤師であれば身に着けておかなければならない技術である。緊急性を要するものは診療チームだが、OTCで対応できる場合が何と多いことか。適切な対応が必要だ。受診勧奨後応急措置で使用し翌日の診療にもつなげられる。そして薬剤師は進化する。我慢強い熊本県の住民からニーズを聞きだし、対応する薬剤師も出てきた。昨日の薬はよく効いた、ありがとうと報告にくる住民･･薬剤師冥利に尽きる。

②　エミナースは一時期、車中泊も入れると2000名の避難者がいた。仮設診療室は10時～16時は日赤医療チームが入るが、薬剤師は24時間体制の医療相談を行ったのである。OTCで対応するが診療時間外で毎日15～20件ほどあった。長引く避難生活の中で訴えは尽きない。四肢・体部の痛み、不眠、便秘、PTSD（心的外傷後ストレス障害）‥車中泊も多い中、エコノミークラス症候群には注意を要した。このエミナースチームは常時薬剤師10～12名で動いていた。24時間体制を確保するために、宮崎県薬剤師会より夜間用として毎日交代で各4名の薬剤師が来ていた。毎晩のミーティングで状況報告と翌日のシフトを決める。沖縄県の私は一番長く（7日間）いたので現場リーダーを任された。毎日の問題点・マネジメント‥申し送りしても翌日はメンバーが変わる。やはり薬剤師の支援業務・最低3日は必要か？

③　医療チームとの活動

診療チームへの薬剤師の必要性は先の震災でも言われていたのに、今回はいやというほど感じた。必要な処方提案ができるのは薬剤師、限られた診療時間でのスムーズな対応ができると喜ばれ、診療チームから同行要請がきた。今回は、学校避難所から手書き処方せんを薬剤師が写メってライン送信し、エミナース仮設薬局で調剤し、住民の手元に届けた。避難所を巡回する救護チームより発せられた処方せんの調剤にもあたった。ある時、医師から‥患者が3日前に処方された薬がよく効いたと、前の医療チームは何を処方したのか？と問い合わせがあった。調べると医師の処方でなく薬剤師の勧めたOTC薬であった。恐るべしOTC。

④　立ち上がった医療機関・保険薬局への働きかけ

慢性疾患を持っているにもかかわらず、放りだされた人は多い。通院医療機関が崩壊し他院では在宅自己注の管理料が算定できないとのことで、血糖測定もせず自己感覚でインスリンスライディング法を行っている人、高額な肝炎治療薬を切らしてしまった人、‥災害医療の周知がなされていない現状があった。行政と共にできるだけ医療機関につないだ。処方箋も地域の薬剤師会と連携し、在庫を確保し処方を応需してもらった。

⑤　対外的対応

厚労省の視察・熊本県の行政の視察・感染チームとの対応を行った。特に感染チームとして益城町に入った神戸大学の岩田先生と会えたのは感動だった。

⑥　公衆衛生‥避難所の衛生状態の現状把握と管理である。当時、南阿蘇地区でのノロウィルス発生は避難所に衝撃を与えた。毎日、消毒剤の補充点検、掃除ボランティアへの指導等が必要だった。帰る2日前よりハエの発生があり、岡山県の薬剤師の情報から東日本大震災でも使用したハエトリ秘密兵器を作った。

⑦　リーダー的に動いていたため、今回は区長・消防団・行政（役場・県庁支援）保健師等の接触も多かった。夜間と早朝避難所内を巡視した。医療的な相談はほぼ薬剤師に向けられた。

⑧　支援薬剤師の指揮統括

熊本県薬の当エミナースの指揮官である中村先生、県薬剤師会で陣頭指揮をとられていた幸田先生のご尽力は計り知れないものがあった。いざ沖縄県でこのような事態が生じたら本当に動けるのだろうか？　訓練の必要性を感じた。

まだまだ、伝えたいことは山ほどある。

支援3原則‥‥①無理しない、②地元主、③被災者優先

喜久山有沙氏(左）と一緒に

朝方はやはり寒かった。4月の後半だが、気温が10度を下回った。初めて寒さで思わず胃袋を手で握りしめた。体に血液が循環するのか、意外と暖かくなるもんだ。支援者の体調管理は絶対だ。

また、東日本大震災の時、ほとんどの薬剤師は「自分は何ができるのだろう」といったスタンスで来ていたが、今回は何かちがった。すべて自信をもって迷わず動いている。（当時、現地に行かなかった人も疑似体験で動けている）

宮城県石巻の丹野先生（東日本大震災時石巻での司令塔・私とは入れ違いで熊本入りしている）の言葉をかりると、‥「東日本大震災の時と大きく違うのは初動の早さ。先の震災での活動を検証し、災害対策の計画を立て、研修・訓練を重ねた組織の対応は目を見張るばかりである。しかし、被災者の避難所での生活は阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災のときと殆ど変化がない。それ故、過去の災害を他人事と思わず、常に自分の身に降りかかる災いに備えを忘れてはいけない。」‥まさにそのとおりである。実感している。今、必要なのは訓練である。意識である。人としての行動、薬剤師としての行動、支援に来た薬剤師を効率よく動かす方法、事務的な対応、必要なものは沖縄にあるのか？県薬剤師会、地区薬剤師会、自薬局、自病院でのシミュレーションは今こそ必要である。

熊本県の復興を、心から祈ります。

トイレでみつけた。住民の誰かが貼ったのだろう。
力強さを感じる。

徳島・宮崎・熊本・沖縄のチーム

熊本地震活動報告

吉原東洋薬局
坂本 俊一

4月14日の前震、16日の本震と震度7の地震が2回続き、避難者の数が10万人を超え、なおも余震が続いている状況で、支援薬剤師の必要を感じた。

16日に県薬より支援薬剤師募集のFAXがあり参加を決める。

18日、災害対策委員の緊急召集があり参加、その時点では日薬からは待機の指示。

19日、県薬から参加要請あり、20日の出発を伝える。

20日、早朝、吉田副会長、事務局の山城さんの見送りを受け鹿児島にフェリーにて出発。21日朝９時鹿児島着、九州自動車道で熊本に向かう。高速道路は、熊本の手前で寸断されており、八代からは一般道。道路は救援のトラックなどで大渋滞。ブルーシートで覆われた屋根が目立つ。13時頃、熊本県薬剤師会に到着。益城町総合体育館への派遣が決まり出発。16時着。途中、道路の亀裂、波打ち、不通区間多数。建物の損壊が非常に多い。4月21日の時点で避難者の方は、体育館内に約600名、隣接するミハルカスという施設に260名、屋外で車中泊の車が350台、約900名。全体で約1800名の方が避難されていた。

電機は復旧していたが、上下水道不通。水は自衛隊の給水車が1台、トイレは屋外に和式タイプの簡易トイレが約50台。使用済みの紙は流せない為、備え付けのビニール袋に入れる。

館内は、通路の両側にも毛布を敷いて横になっている状態。プライバシーは無い。その状況で食事もしている。そこを土足で人が歩いている。中越地震の時の小千谷体育館を思い出す。体育館の裏に日赤救護所のテントが2つあり、1つは診察用、1つは物資集積所として使用されていた。そこに薬剤師会も間借り。救護所は、24時体制で1日約200人の受診者があった。救護テント内に調剤スペースがあり、薬剤師は受付後より診察時まで、患者1人に対し薬剤師1名が同行し、持参薬鑑別、薬に関して医師からの質問に答えたり、処方へのアドバイスを行う。

参加ボランティアの全体ミーティングは、朝7時と夜9時の2回。現状での問題点、明日の行動予定確認。関連する団体との細部の打

合せ。4月22日午後より、リーダーとしての活動。調剤業務・環境衛生・相談コーナー対応の3チームを編成。それぞれにリーダーを置く。

調剤業務では、24時間体制のシフト作り、薬品の発注、管理。環境衛生は館内のCO2濃度、照度、浮遊粉じんの計測、ノロウイルス対策。相談コーナー担当は救護所への案内。OTCでの対応、熱中症、エコノミー症候群の予防啓発に取り組む。活動の中で重点をおいたのは、エコノミー症候群とノロウイルス対策で、22日時点でエコノミー症候群の患者15名、又、南阿蘇村の避難所でノロウイルスの発生の報道があったため、益城町総合体育館でも、いつ発生しても不思議ではない状況であり、予防対策は急務だった。エコノミー症候群対策では、館内、車中泊の人にチラシを配りOS-1の配布を行った。ノロウイルス対策は、次亜塩素酸ソーダにより、簡易トイレの消毒、食事前のアルコールスプレーによる手の消毒、ドアノブ、手すりの消毒などを、一般ボランティアの人達にも協力してもらって実施。滞在中、発生を見なかった事は今でもホッとしている。

4月25日、12時。活動終了。次のリーダーに引継ぎ、帰路に着く。途中人吉にて一泊、26日夕方、鹿児島よりフェリー、27日夜7時沖縄着。

＜一緒に活動した他府県薬の薬剤師＞

4/21　福岡3人　久留米3人　筑豊3人
　　滋賀3人
4/22　福岡3人　久留米3人　遠賀中間4人
4/23　福岡3人　久留米3人　北九州3人
　　山口3人
4/24　福岡3人　久留米3人　滋賀3人
　　北九州3人　鹿児島1人　山口3人
4/25　福岡3人　久留米3人　北九州3人
　　山口3人　宮城3人　鹿児島1人

熊本地震災害対策活動報告

喜納 みゆき

DMAT（災害派遣医療チーム）という名称を聞いた事があるだろうか？熊本県滞在7日目、災害対策活動への参加が終盤に差しかかった頃、私は1日だけ、兵庫県DMATと行動を共にし、大規模災害の際の急性期医療対応の現場に触れる貴重な体験をさせてもらった。活動内容としては、訪問医療・看護レベルと大差ないものの、診察から、処方、調剤、投薬といった一連の医療行為が、パッケージでその都度処置され、完結するものであった。

平成28年5月11日から7泊8日の日程で、私は熊本地震の被災地に向かった。平成23年3月に発生した東日本大震災は、私に非常に強い衝撃を与えたが、同時にすぐに駆け付けられない、もどかしさも与えた。そして、「今度同様な機会があれば何かの役に立ちたい」と漠然と思っていた矢先に、この度の沖縄県薬からの熊本派遣スタッフ募集の声がかかり、躊躇なく応募した。

派遣先は、熊本地震で最も被害の大きな益城町。空路福岡入りし、熊本の現地へ向かう電車や公民館へ向かう車の車窓から、目的地に近づくにつれて、全壊、半壊、一部損壊等、ブルーシートの掛った家並みが徐々に広がり、被害の深刻さに胸が締め付けられた。

現地での業務は特別なものではなく、これまでの調剤・投薬、OTCや学校薬剤師での経験が役に立った。新たな経験としては、体育館横に設置されたテント張りの薬局での業務。調剤・投薬に際して目にした「災害時医薬品交付依頼書兼授与記録」、「災害時処方せん」、「災害診療記録」、「災害用緊急薬袋　おくすり袋」のフォーマットの使用。益城町保健福祉センター（以下「センター」）横に駐車された、MP（モバイルファーマシー、国内に4台あるうちの1台「大分号」。調剤に使用し、投薬はセンターの建物内。初日は宿泊施設としても使用。）での業務。DMAT兵庫県の巡回診療への随行。被災者の避難先となる、センターや体育館、テント暮らしの通称「テント村」や、ペットと飼い主がテントで暮らす通称「ペット村」に看護師や保健師に同行したことが挙げられる。これらの支援活動の経験は、薬剤師としてとても勉強になり、大変貴重な時間を過ごす事ができた。また、他県からの薬剤師ボランティアの仲間にも助けられ、時には励まされ、何事にも変えられない絆を実感する事ができた。

熊本県薬事務局の皆さん、特に災害薬事コーディネーターとして活躍された小林先生には、1月半の長きに亘り、薬剤師活動全体を指揮して来られ、ただただ頭が下がる思いであった。その真摯な取り組みは、被災県出

「災害時処方せん」「災害時医薬品交付依頼書兼授与記録」「災害診療記録」「災害用緊急薬袋 おくすり袋」

熊本県薬剤師会モバイルファーマシーとその内部

身という強い責任感があったものと思われる。

幸い、現地の地域医療機関も復旧し、一連の災害対策活動のミッションも5月29日をもって終了の日を迎え、通常医療に移行した。徐々にではあるが、復興が進んでいることを嬉しく思う。今回の震災をきっかけに、多くの薬局が在宅対応の意向を示しているとのことであった。

被災地の一日も早い復興と、県薬、熊本市薬会員の皆様の益々のご活躍を心から祈念致し、結びとします。

＜主な活動＞

5月11日：沖縄から空路福岡入り。

5月12日：夜勤の指示を受け、2時間の仮眠後、センターに移動。大分県チームと合流し、沖縄チーム2名と3人で翌朝の9時まで夜間勤務。

5月13日：モバイルファーマシーでの調剤やセンター内での投薬、館内放送にてお薬相談の実施案内、CO_2他の環境検査。看護師に随行し各避難部屋の巡回。

5月14日：センターでの調剤と投薬、合間にお薬相談。体育館やテント村及びペット村内を保健師に随行し巡回。

5月15日：通常業務の他、薬局移動のための引っ越し作業。

5月16日：通常業務の他、大雨の対策にも追われる。センターに移動し水溜りの消毒、調剤及び投薬。在庫整理しながら規模を縮小。

5月17日:DMAT兵庫県チームに同行して、午前・午後、2回の回診（津森公民館、福田分館）に参加。メンバーはドクター2名、看護師、薬剤師各1名。

5月18日：通常業務後、後任チームへ業務を引継ぎ帰沖。

薬局とその内部

熊本地震における支援薬剤師の活動報告書

玉城 和子

活動時期　2016年5月12 ～ 18日
（第2次スキーム第2 ～ 4班）
活動場所　熊本県益城町保健福祉センター
益城町総合体育館

仕事を辞め海外休暇中、ネットのニュースで、熊本地震を知った。震度7。まさか同じ九州で！「私にできること」をしよう。

地震の報道もNHKで1回しか見ることができなかったが、携帯でFacebookやネットなどから情報を拾い、支援薬剤師の登録をした。

活動日前日、沖縄から福岡へ。当日、新幹線で博多駅より熊本駅へ。更にローカル線を乗り継いで南熊本駅下車。熊本県薬は、駅から歩いて10分。県薬に用意されたレンタカーに乗り込み避難所に出発。出発後すぐに夜勤シフト変更への連絡を受け、県薬で仮眠。夕方、改めて避難所へ。途中、熊本市内は、瓦屋根が落ちたり、ヒビが入った家はまばらだが、益城町に入ると景色が一変する。大きくペシャンコに倒壊した家々。災害がひどいエリアは限局的だった。

避難所「益城町保健福祉センター」は、益城町避難所の拠点で、全体ミーティングでは、他の避難所のリーダーや、外を巡回する日赤、DMAT、JMAT、薬剤師、保健師など多数集まる。駐車場にトレーラーハウスが5/17に設置され、介助が必要な方などへの福祉避難所となる予定。

喜納みゆき氏(左) と出発

私達薬剤師会の薬剤師は、11人前後。業務は、処方せん調剤、OTC相談、巡回(センター、エミナース)、環境衛生(CO2測定、足洗い場消毒)、館内放送。

館内救護所へは、処方可能医薬品リストを毎日更新しお渡し。同成分での変更は、疑義照会なしで可能と取り決めあり。5/10より24時間診療を終了、DMATチームが10-18時、地元の医師が18-20時を担当。薬局は5/13で24時間を終了し、10-20時対応となった。

調剤：施設横のモバイルファーマシーで調剤後、救護所近くのカウンターで投薬。処方箋は3日分まで、湿布も袋でなく枚単位。

無料巡回バスが5/13より開始。周辺の医療機関も幸い倒壊した所はほとんどなく、復旧が早く、5/29または5/31に薬剤師も含めた早期の医療班撤退が決定。その後は、受診困難者は地域での在宅対応と方向付けられた。

初期と違い、医療ニーズはすでに低い。震災より丁度1ヶ月だが、予想より早くフェードアウト時期に入り、処方せん枚数は5/13に15枚　、5/17に5枚。薬剤師も簡単に医薬品、OTCをお渡しせず、地域のかかりつけにスムーズに戻すため、定期薬の希望が来ても、かかりつけ医の再開日一覧と残薬を確認し、処方が必要か判断した。

また、眠剤の頻繁処方の患者情報があり、県薬よりカルテに注意書きと、避難所間、地域薬局で患者名を情報共有すると連絡があった。

OTC相談：3-5件/日　内服2日分、湿布1-2回分で小分けしてお渡し。風邪薬、痒みなどへの軟膏、住環境の変化による腰痛などでの湿布、転倒ですりむいたためのマキロンなどでの消毒希望など。撤退に向け、種類・数を縮小した。

巡回：避難者は日中仕事や片付けで外出するため、この時期は巡回には反応がほとんどない。保健師からハイリスク患者を3-4名見てほしいとリクエストがあり対応。鉄剤によると思われる気分不良の訴えやワーファリンの相談など。

環境衛生：CO_2が1500ppmを上回ると換気が必用と判断。足洗い場、排水溝など水が溜まっている所には、ボウフラ予防に、ハイターを原液で撒き対応。

撤退に向けた準備：撤退後、残った医薬品は廃棄となる。その廃棄を減らすため、体育館も含めた過剰在庫を5/17にセンターに集約。問屋発注もセンター、体育館で別個発注から今後は相互で確認してからとなる。また、地域薬局へ医療班撤退後、在宅が応需可能か聞き取りしリスト作成も行っていた。

モバイルファーマシーについて、今回の災害では、全国都道府県で所持している4県4台中、宮城県以外の3台が駆けつけた。寝床、トイレ、シャワーも付いたキャンピングカーで、ライフラインが断たれた被災地でも自家発電で自己完結の活動ができる。一晩夜勤で泊まったが、寝心地はそれほど悪くない。寝袋を使用し、2-3人宿泊可能。300-500品目の錠剤棚に、水剤用シンク、保冷庫、電子天秤、散剤分包機(21包)と、一通りの調剤が出来る。パソコンも使用可能。医師、歯科医などの見学も多く、関心が高かった。

避難所「益城町総合体育館」は、1500人ほどの大型避難所で、収容人数も3-4倍。体育館など室内だけでなく、某アルピニスト発案の競技場に作ったテント村もあり。テント村だけでも600人ほど。ペット同伴もあり。車も横付けできる。昼間は暑く、熱中症の注意が必用。テント村を5/28に閉鎖し、天井破損で未使用のアリーナを補修し収容。センター周辺より倒壊家屋が多い。施設内のアスファルトの隆起が酷く、夜は懐中電灯がないと転倒の危険性あり。薬剤師は、10人程。業務は、処方箋調剤、OTC相談、巡回、環境衛生(CO_2、粉塵、騒音、照度)、館内放送(熱中症対策など)。

薬局は、駐車場横の日赤テント隣接のテントで、処方箋調剤とOTC 相談を行う。救護所へは、処方可能医薬品リストを毎日更新しお渡し。処方箋枚数、OTCニーズはセンターと同様。既に医療ニーズは低く、5/29または5/31に、薬剤師も含めた医療班撤退を決定。5/15敷地内で救護所と同時に場所を移動した。同日、トレーラーハウス2機も近くに設置、感染症が発生していたため、隔離部屋として使用。

一部の施設管理団体に医療チームの巡回を阻まれたため、日赤が屋外で救護所を開き診療する形。医療チームの巡回が出来ないため、衛生状態の悪化等懸念あり。薬剤師単独での巡回は可能。薬の相談自体はほとんどないが、保健師からのハイリスク患者情報を元に巡回。古い飲食物は廃棄し食中毒を予防するよう呼び掛けを行う。テント村など熱中症予防のためのOS-1や冷ピタのニーズあり。5/17より管理団体との話し合いがうまく行き、医療チームが巡回出来るようになった。

最後に、東日本で課題と感じていた災害後廃棄医薬品対策や被災者を不安にさせずにフェードアウトをスムーズに行う工夫がされていた。また、東日本と違いDMATなどに薬剤師同行が多く、処方がスムーズに感じた。お薬手帳については、広範囲で流出した東日本と違い紛失は少なく思えた。災害前からのお薬手帳を持参している方は、やはり状況を把握しやすかった。

被災地支援は、人のためだけではないと感じた。今後、もし沖縄で災害が起きた時、どう動くのか？に繋がるのでは。色々な方に積極的に経験してほしい。普段、調剤業務が出来れば誰でも大丈夫。支援に行く人のカバーに入ることも支援の一つ。機会がある時は、自分の出来る事で関わってみてほしい。

熊本地震支援薬剤師活動報告/今後の災害対策

豊見城中央病院
喜久山 有沙

活動期間：2016年4月22日（金）出発 ～ 4月28日（木）帰沖
派遣先（避難所）：益城町エミナースホテル・西原村
（西原中学校・山西小学校・河原小学校）
同 伴 者：我喜屋美香先生

今回、災害時の派遣は初めての参加だったので、出発前までは不安でした。しかし、現場では薬剤師がとても必要だ！と実感しました。
以下に、時系列に報告致します。

【4月22日（金）：移動日】
那覇空港発、福岡空港着、福岡県薬剤師会にてレンタルカーを借用し、高速道路で熊本県薬剤師会へ向かった。高速道路は、一部通行止めとなっており、緊急車両のみ通行可能となっていた。福岡から約3時間走行し、熊本県薬剤師会へ到着した。そこで、被災地の現在の状況を聞いた後、益城町総合体育館への派遣が決定した。しかし、到着してすぐに連絡が入り、益城町エミナースホテルへ行って欲しいとの依頼あり、その足ですぐに向かった。エミナースホテルに到着すると、ホテル内に救護所が設置されており、日本赤十字の診察（10時～ 16時）と、薬剤師による24時間体制の薬局が稼働していた。その薬局では、日勤帯3 ～ 4人、夜勤帯2人で運営していた。赤十字の診察時には、災害処方箋に基づく調剤、医師がいない時間にはOTC薬での対応とともに、衛生環境整備も行っていた。到着したのは21時頃で、すぐにエミナースホテルにおける薬剤師活動の状況把握と、明日からの活動予定を立てた。その日を通して感じたことは、薬剤師の各拠点で情報が錯綜しており、共有がなかなか難しい状況だった。今後、タブレット端末等を用いた、タイムリーに情報共有ができるシステムを構築すると良いと感じた。

エミナースホテル内薬局

【4月23日（土）：活動1日目】
＜拠点＞益城町エミナースホテル（熊本空港近く、建物内約500人避難、車中泊も多数）
＜活動場所＞西原村役場、河原小学校、山西小学校
＜移動手段＞車
「薬剤師さんが欲しい！」と、西原村の保健師から声があり、エミナースホテル配置の薬剤師から、隣の西原村へ沖縄班2人が西原村へ展開していくこととなった。朝9時に西原村役場で、西原村支援団体の全体ミーティング（毎日2回開催）へ参加し、薬剤師は河原小学校へOTC薬で被災者への支援をすることになった。エミナースホテルにて、ダンボールにOTC薬を入れ、薬剤師用問診票を作成し、河原小学校へ出発した。15 ～ 20分で到着予定だったが、山道で道路通行止めが多く、迂回経路で約40分もかかった。土砂崩れや道路がボコボコとしており、とても冷や冷やした。河原小学校へ到着し、体育館内に小さな机と腰掛2脚の「薬剤師ブース」を設置した。そして、館内放送で薬剤師ブース設置を知らせ、被災者からの相談を受け、OTC薬で対応し相談記録をとっていった。より詳細に聞きたい時は、作成した問診票を使用した。ブース設置してまもなく、岡山県薬剤師2人が河原小学校に到着したので、この場を引継ぎ、沖縄

県薬剤師2人は山西小学校へ。河原小学校と同様に薬剤師ブースを設置し活動を開始した。18時には西原村役場にて再度、西原村支援団体の全体ミーティングへ参加し、本日の活動報告とともに情報共有を行った。終了後、エミナースホテルに戻って、薬剤師ミーティングを行い、本日の活動の報告、明日の活動予定、人員配置を話し合った。その他、明日からの資料作成、OTC薬準備なども念入りに。

＊役場ミーティング参加者・団体＊

役場職員、保健士、DMAT、日赤医療チーム（急性・慢性）、DPAT、阿蘇広域災害医療チーム（ADRO）、JRAT、看護協会派遣看護師、県薬剤師会派遣薬剤師

【4月24日（日）：活動2日目】

【4月25日（月）：活動3日目】

＜拠点＞益城町エミナースホテル

＜活動場所＞西原村役場、河原小学校、山西小学校、西原中学校

＜移動手段＞車

4月24日（日）は、さらに西原中学校へ活動を拡大した。4月25日（月）も前日同様の活動を行った。人員配置と活動内容は下記に示した。24日からは、我喜屋先生はエミナースホテルのリーダーに任命されたため、私は西原村派遣チームの中心を担った。

●河原小学校　岡山チーム（2名）

AM　日赤巡回　　PM　お薬相談

●山西小学校　沖縄チーム（1名）＋徳島チーム（1名）

AM　お薬相談　　PM日赤巡回

薬剤師ブース

作成した問診票

問診表

日時	4/24 10:40　場所 山西小学校
氏名	松岡 義則
性別	男
年齢	70-80代
体重	
アレルギー歴	なし
副作用歴	
併用薬	・カロビックス　胃もたれ ・プラビックス　胃潰瘍なし
既往歴	
主訴	胃もたれ
薬剤師トリアージ	1 医師の診察へ紹介　2 薬剤使用、処置　3 薬剤・処置なし
フリースペース	使用した薬剤、処置した内容など 胃の心窩部　痛み・張り(−)、下痢(−)　食欲(+) 便通：普通　ストレス　睡眠なし しいてはつくしA が飲んでいる。使用薬との相互作用の可能性 使用薬の変更。 → 大の胃腸 胃もたれ で下痛い。のちに良くなりました。 使ったら、良くなったらなる時は。 Dr. 診察よりも 嬉しかった。
記載者	吉田

●西原中学校　徳島チーム（2名）

AM　お薬相談　　PM　日赤巡回

＊赤十字巡回班の処方支援について＊

エミナース在庫薬品一覧を作成し、その一部の医療用医薬品を避難所に持っていき、赤十字診察に同席し、処方提案をした。持参していなかった薬剤に関しては、災害処方箋をエミナースホテルに画像送信、あらかじめ調剤し準備してもらい、赤十字巡回終了後、エミナースホテルに薬剤を取りに行き、再度被災者（避難所）へ薬剤を届けるという体制をとった。薬剤を届ける際に大切だったのが、被災者は日中仕事へ行ったり、自宅の整理をしたりしているため、被災者の現在いる場所（薬剤を届ける場所）や、電話番号を聞くことだった。

西原村支援団体の全体ミーティング

支援薬剤師

【4月26日（火）：活動4日目】

徳島チームが西原村以外にも医療を必要としている場所があり、さらに展開していく必要があると訴えていた。一方、西原村での薬剤師の活躍が隣の大津村に伝わり、保健士から大津村への薬剤師支援の依頼があり、双方の考えが合致したことで、本日より徳島チームの大津村への派遣が決定した。私は、前日と同じ山西小学校で活動をしていたが、設置タイプのブースから、体育館内巡回へ変更した。巡回時、ある高齢者が、「いつも飲んでいる血圧の薬が昨日から無いんだよ」と･･･。残薬やお薬手帳、薬剤情報書もなく、また、かかりつけ医院も倒壊して、情報が全く分からない状況だった。そこで、赤十字回診へお連れし、アムロジン2.5mgが開始となった。初回服用のため、避難所に常駐の保健士、看護師に申し送り、2日間の血圧フォローと、近医紹介を依頼した。この件で感じた事は、「支援している様々な職種・団体との協力が大切！」ということだった。

【4月27日（水）：活動5日目】

急性期から慢性期へきており、被災者は地域へ戻っていく時期となっていた。そのため、日中は避難所に被災者がほとんどいなくなっていた。避難所に残っている方で、薬剤師ブースまで歩いて行くのが困難な方がいるとの情報があり、ブース配置は撤去し、体育館や校舎巡回へ転向した。

活動最終日のため、申し送りの資料作成を行った。（薬剤師お薬相談記録・問診票・処方箋記載の見本、西原村3か所の避難所の地図や簡単な活動マニュアル作成など）

避難所の掲示

【今後の災害対策】

今回支援薬剤師として参加し、今後の災害対策として考えた事を以下に述べる。

まず、同職種での連携が大切だと感じた。沖縄からの薬剤師派遣として、DMATやJMAT、県薬剤師会、病院薬剤師会などがある。それぞれの隊員の連携や情報共有ができるようになると、これまでよりもスムーズな情報のやりとりができるのではないかと考える。また、病院薬剤師、薬局薬剤師、保健所で働く薬剤師、学校薬剤師など、多くの場所で活躍する薬剤師がおり、県内全体のとして連絡先・連絡網を作成。県薬剤師会と病院薬剤師会が共同で災害対策部門等を設置し、県内での災害時にはそれぞれの薬局や病院の被害状況や開局時間などを一か所に集約できるシステムを構築するのはどうであろうか。

また、沖縄県内で薬剤師の災害訓練や勉強会の必要性を感じた。まず、災害支援の経験がある薬剤師が集まり、訓練や勉強会として開催したほうがいい内容をピックアップし、役割分担をして運営するのはどうであろうか（例えば、地図を用意し展開していくノウハウ、必要物品の調達、薬剤請求の仕方や、薬局（地域の）薬剤師ができる事など）。勉強会に関しては、講師召喚も良いと考える。

対策を立てる際には、①沖縄（本島）での災害時、②離島における災害時、③他県での災害時の薬剤師派遣、と3パターンに分けるのはどうであろうか。

最後に、沖縄でもいつ地震や大規模災害が起こるかはわからない。だからこそ早急に対策を推進していくことを切望する。

学薬部会

学校薬剤師会部会研修会に参加して

日時：平成28年4月10日（日）13:00 ～ 15:00
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

学校薬剤師
勝連 貴子

「学校薬剤師をしてみませんか？分かりやすく職務内容もお教えしますから、きっと大丈夫ですよ。」とおっしゃる前濱朋子副会長の後押しもあって、お引き受けした私は緊張した日々を送っていました。すると、研修会の連絡が届き、講師名を見て胸がときめきました！私の母校である岐阜薬科大学から、永瀬久光教授をお迎えしての研修会とのことでした。恩師の講義を20数年ぶりに受講できるという、またとない機会！大学卒業以来の恩師との再会により、私は再びエネルギーを頂くことができました。

研修会では、「薬剤師は地域保健の活動に積極的に参画しましょう。また、その一つに学校薬剤師業務があります。」というお話しから始まりました。薬剤師は調剤業務が先行しがちですが、学校薬剤師は分析、保健衛生、化学物質管理の分野で知識を習得した専門家でもあることを再認識させられました。

現在、大学では6年制薬学教育となり、コアカリキュラムの到達目標が明確に提示されているそうです。そして薬剤師国家試験については、4年制時代の240問から、現在は345問となり、近年では学校薬剤師に関連した実務内容も出題されていることを挙げられ、実際の過去問題の提示もありました。

これからの学校薬剤師の役割としては、学校保健安全法第24条の「健康相談に従事すること」「保健指導に従事すること」のみならず、「シックハウス（室内空気汚染）問題」「微小粒子状物質（PM2.5）」「受動喫煙防止対策」「食物アレルギー」「農薬使用」に関しての更なる情報提供が求められるようです。

PM2.5については、今のところ学校基準に項目はないそうですが、インターネットなどを利用して注意喚起情報提供をすることによって、学校との信頼関係を築くことができるとのこと。また、最大のPM2.5問題が受動喫煙である、と指摘されていました。

講演の最後では、「安心して過ごせる学校環境を整えることができる、顔が見える学校薬剤師を目指していきましょう。」と締めくくられました。

この日以外にも、5月に行われた学校環境衛生研修会を受講し、学校環境衛生基準に基づいた検査項目内容、手技確認などを学びました。そこでも、学校薬剤師の活動によって子供たちが薬剤師を身近に感じ、未来の薬剤師を目指す子供達の模範として、学校薬剤師活動の重要性を感じました。

今後は、学校薬剤師としても業務に励み、研鑽を積みたいと思います。

「学校薬剤師が行う学校環境衛生の実際～指導・助言のポイント～」
講師：永瀬 久光 先生（岐阜薬科大学生命薬学大講座衛生学研究室教授）

学薬部会

平成28年度 学校薬剤師新任研修会報告

日時：平成28年5月1日（日）・8日（日） 10:00 ～ 12:30
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

会営薬局うえはら
上里 美矢子

＜式次第＞
開会あいさつ　学校薬剤師部会会長　村田 成夫
講義 1. 学校薬剤師の役割について　5月1日：笠原 大吾　5月8日：知名 博樹
2. 学校環境検査について：飲料水・プール水の水質検査・照度・騒音・教室の空気等
5月1日：笠原 大吾　5月8日：知名 博樹
3. 検査結果に基づく報告書の書き方　5月1日：笠原 大吾　5月8日：知名 博樹
4. 薬の正しい使い方と薬物乱用防止教室の進め方
5月1日：笠原 大吾　5月8日：知名 博樹
5. 検査方法の実務に関して　5月1日・8日：試験検査センター主任技師　小泉 宝之
※講師：笠原大吾（学校薬剤師部会副会長）
知名博樹（学校薬剤師部会、試験検査センター運営委員）

去る5月8日（日）、平成28年度学校薬剤師新任研修会に参加してきましたのでご報告致します。本年度は、多くの方が参加できるよう5月1日（講師：笠原大吾先生）と5月8日（講師：知名博樹先生）の2回開催されました。

学校薬剤師としては、私自身2年目になりますが、受け持ちの学校が新たに一校加わり、本年度から2校を担当することになり新任同様、新たな気持ちと身の引き締まる思いで研修会に参加させていただきました。

本年度の沖縄県の学校薬剤師状況は、学校数503校（昨年487校）に対し、学校薬剤師数は171名（昨年165名）。市町村立学校で学校薬剤師の配置がないのは、北・南大東村立の学校のみとなっています。昨年に引き続き一人あたり平均3校を担当している状況は変わっていません。特に北部や離島に関しては人手が足りず、1人5校担当している薬剤師もいるということで厳しい状況です。

さて、本題の研修内容に入りたいと思います。主な内容として
1. 学校薬剤師の役割について
2. 学校環境衛生における定期検査・日常検査について
3. 薬の正しい使い方と薬物乱用防止のすすめ方
の3項目に分けて講義が行われました。

1. 学校薬剤師の役割について

(1) 学校薬剤師とは

大学を除く幼稚園、小学校、中学校、高等学校には、学校医、学校歯科医と共に学校薬剤師を必ず置くことになっています（学校三師とよばれます）。学校の非常勤職員となっています。

(2) 学校薬剤師の主な職務

①学校保健計画・学校安全計画の立案に参与
②学校環境衛生基準に基づいた学校の飲料水、プール水、照度、空気、換気、騒音などの検査

③学校環境衛生について指導と助言を行う（保健委員会に参加）
④学校で使用する医薬品について指導と助言を行う
⑤学校、地域社会において、「薬物乱用防止の活動」、「喫煙・飲酒防止教育」、「アンチドーピング」、「医薬品の適正使用（くすり教育＝薬育）」の啓発に協力する
⑥健康相談に医師や歯科医師とともに関わること

2. 学校環境衛生における定期検査・日常検査について

特に重要な検査「基本３検査ならびに騒音測定」について、ポイントを押えながら詳しく教えていただきました（下記①～④）。それに加えて試験センターの小泉宝之先生には、検査キットの実物を用いての実演・説明をしていただき、プール水の採水時などのイメージができ、わかりやすく教えていただきました。

また、学校での職務に従事した際は、必ず「学校薬剤師執務記録簿」に検査結果や内容を記録し、検査日から5年間保存すること。毎授業日に行う日常点検の記録に関しては3年間保存することとなっています。記録内容は、検査結果のみならず、検査結果の評価と指導・助言が求められています。

①空気（含揮発性有機化合物、ダニ又はダニアレルゲン）
②採光及び照明
③水質（飲料水、プール水）及び施設・設備
④騒音

3. 薬の正しい使い方と薬物乱用防止教室のすすめ方

今まで「薬物乱用防止」と「医薬品」はひとくくりの内容でしたが、新学習指導要領に基づく「くすり教育」では切りはなされて考えられており、医薬品は、地域の保健・医療機関の活用と共に学ぶことになっています。中学校では2012年から、高等学校では2013年から実施されています。従来、高等学校で学んでいた内容を中学校で学ぶことから、高等学校ではこれまでの教育内容が一新され、医薬品の製造や販売にあたっての規制などより専門的な内容になってきています。

また、学校薬剤師に期待される役割としTeam Teaching:T.T、授業支援者（サポーター）として教師や養護教諭と連携し、授業に携わることなど今後の課題を実感しました。

薬剤師の行う薬物乱用防止教室（たばこや薬物関連内容）に対しても積極的に関わり、青少年の育成や地域にも貢献できるよう職務に遂行していきたいと思います。

このような有意義な講習会を企画していただいた関係者各位に感謝致します。

お知らせ

学校薬剤師＆学校薬剤師を希望の会員の皆様へ

学校薬剤師部会では、学校薬剤師の配置等の再確認を行っています。新たに学校薬剤師を希望する会員の方、現在の担当校について（変更等の）、ご相談を考えておられる学校薬剤師の先生は、学校薬剤師部会まで連絡下さい。

（連絡先）学校薬剤師部会　　TEL 098-963-8930

女性薬部会

女性薬剤師部会通常総会報告

日時：平成28年4月17日（日）13:00 ～ 15:30
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

女性薬剤師部会
会計　草壁 瑞恵

総会は狩俣イソ副部会長の司会で進行されました。

始めに、亀谷浩昌会長の挨拶で、漢方の勉強会を継続しているのは女性薬剤師部会だけであり、一つのことを続けることは力につながるので是非続けて下さいと、力強い激励の言葉を頂きました。参加人数は28名でした。議事の進行を村田美智子部会長より進めていきました。

1．平成27年度事業報告
（狩俣副部会長より報告）

(1) 女性薬剤師部会総会
平成27年8月23日（日）
沖縄県薬剤師会館ホール　参加者19名
講演：沖縄の野菜「クヮンソウ」の効果と商品開発の意義について
講師：株式会社ソムノクエスト代表取締役
京都大学医学部非常講師
薬剤師・薬学博士　江口直美 先生

(2) 漢方講座
①平成27年11月8日（日）
沖縄県薬剤師会館ホール　参加者39名
講師：佐賀県 清水医院
院長　清水正彦 先生
②平成27年12月2日（水）
沖縄県薬剤師会館ホール　参加者70名
講師：Naoko女性クリニック
院長　高宮城直子 先生

(3) なごみ会主催県民健康フェア
（健康とおくすり相談会）
平成27年8月9日（日）
沖縄コンベンションセンター 展示棟

(4) 薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング
平成28年2月21日（日）
沖縄県薬剤師会館ホール　参加者45名
講師：ちばなクリニック
神経内科部長　比嘉秀正 先生
豊見城中央病院
腎臓・リウマチ・膠原病内科
上地英司 先生
サンド株式会社開発医薬情報部
河島浩明 氏
琉球大学保健管理センター
准教授　崎間 敦 先生
こころクリニック
精神科医　二木志保 先生

(5) 役員会　年10回

(6) 薬草園の手入れ　隔週土曜日午前

(7) アンケートの調査　平成27年9月～ 10月
地域の保育園児・幼稚園児保護者に対するアンケート調査・発表

(8) 日本女性薬剤師会　定期社員総会
参加：村田美智子
平成27年6月27日（土）

(9) 日本女性薬剤師会学術大会
参加：村田美智子
平成27年6月27日（土）

(10) 日本女性薬剤師会移動セミナー
参加：与儀和子・草壁瑞恵
平成27年9月26・27日（土・日）

(11) 日本薬剤師会学術大会
参加：村田美智子
平成27年11月22・23日
（ランチョンセミナー司会：村田美智子）

(12) 日本女性薬剤師会会長会議
　参加：村田美智子
　平成28年2月7日（日）
(13) 沖縄県女性の翼の会　海外研修
　参加：村田美智子
　平成28年10月5日～10日
　「沖縄県女性の翼の会」研修旅行参加報告を村田美智子女子部会長は発表。

2. 会計報告

平成27年度の会計報告を詳細に報告されました。しかし、予算がオーバーしたままの報告をしたところ再検討するよう指導され、5月22日の漢方講座の日に会計報告書を再度提出し承認を得ました。

平成28年度は県薬より5万円上げて頂き50万円の予算で活動していきます。

3. 平成28年度事業計画案

①一般社団法人日本薬剤師会研修講座
　平成27年度薬剤師継続学習通信教育講座の斡旋とスクーリングの実施
②漢方講座の定期的継続開催　年3回
③沖縄の薬草への知識を深める活動
④県薬会報誌連載「くらしの中の薬草学」の継続
⑤ミニ薬草園の充実
⑥地域貢献活動として、行政主催の「乳幼児健診」参加に向けて取り組む
⑦「妊娠・授乳と薬」についての定期的勉強会の開催と情報収集
　（奇数月の第4火曜日　19:30～21:00）
⑧病院薬剤師会「妊娠・授乳婦と薬」分科会との連携活動
⑨なごみ会主催「健康とおくすり相談会」への参加
⑩その他「沖縄県女性の翼の会」活動に参加し、沖縄県の他女性団体との連携を図る。

役員改選の年で、立候補、推薦をつのったのですが、現状での役員を承認されました。以上で、総会を終了しました。

総会後、沖縄科学技術大学院大学（OIST）副学長のマチ・ディルワース先生をお招きし、「OISTにおける男女共同参画および地域連携への取り組み等について」と題して講演を行いました。OISTの学内環境や地域に開かれた大学を目指しての取り組みを現状を踏まえて、お話していただきました。英語ができないといって尻込みする日本人が多いことも指摘されました。沖縄に世界の最先端の研究ができる大学院があることは、とても誇らしいことなのですが、まだ隔たりを感じる県民が多いいことも確かでありますが、県内の高校、大学生を対象にいろいろな取り組みをおこなっており、一般の方の見学も自由に受け入れているようです。先生のお話を聞いて見学に行きたくなった方もたくさんいらしたことだと思います。今回の講演でOISTを身近に感じることができました。実際、日本人は20％で、募集は年に2回、書類審査を行い4日間招待して決定するそうです。地域枠はないそうです。

講演終了後、クララ薬局の宮城敦子先生の協力のもと、プロのエステティシャンの方々に手のマッサージをして頂き、日頃の疲れをとってもらい、気持ちよく帰って頂きました。感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

地区だより

第14回 北部地区薬剤師会定時総会報告

〔式次第〕

1. 出席人員確認・宣言	報告	第1号	平成27年度会務並びに事業経過報告
2. 開会の辞		第2号	平成27年度会計監査報告
3. 会長あいさつ	議案	第1号	平成27年度決算承認の件
4. 議長選出		第2号	平成28年度事業計画案の件
5. 議　　題		第3号	平成28年度予算案の件
6. 閉会の辞		第4号	平成28年度借入金最高限度額承認の件

平成28年6月25日、19時よりホテルゆがふいんおきなわに於いて、第14回北部地区薬剤師会定時総会が行われ、平成27年度の事業経過報告・決算報告、平成28度事業計画・予算案等の報告議案が審議されました。

冒頭では浅沼会長より、前会長の神山えり子先生よりバトンを引き継ぎ、無事に今年度も定時総会を迎えることができました。調剤報酬改定では、新たに「かかりつけ薬剤師・薬局」が評価され薬剤師に求められている業務も対物から対人へ変わってきており、積極的に地域に出て活躍することを期待されている。在宅分野を含む地域の中での役割が求められており、医療用医薬品、一般用医薬品の知識だけではなく、健康食品等の知識も活用するために必要な研修会を開催等企画していき、北部地区薬剤師会の活動を会員並びに一般の方々に広く知ってもらうため、ホームページの充実、会報誌の発行を行います。若い執行部で至らない点等多々あるかとございますが、精一杯頑張っていきますので、今後

共ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げますと挨拶されました。

平成27度事業経過報告では、会員が地域医療の中で薬局・薬剤師の職能を通し地域貢献できるよう支援事業も行ったと報告されました。

さらに、生産性向上設備投資促進税制という、質の高い設備投資について一括で特別償却できる制度を利用して、会営薬局へ錠剤自動払い出し機・一包化錠剤鑑査システムおよびピッキングサポートシステムを導入し、業務の効率化、正確性の向上を図り、会営薬局の機能充実を行った。

また、備蓄センターの配送車両1台にラッピングを施し、北部地区薬剤師会、お薬手帳等の広報活動の宣伝に繋げた。そして最後に、会館建設費の返済も資金計画どおり実行し、一部繰り上げ返済も実行したとの報告がされました。

平成28年度事業計画では、今年度も会員支援事業を継続し、学術研修会の開催のみならず、平成28年度調剤報酬改定で示された「かかりつけ薬剤師・薬局」として会員一人一人が地域において活躍できるように支援を行っていくことといたしました。決議事項につきましては、審議の結果、議案の全て満場異議なしで承認されました。

また、総会終了後には懇親会が行われ、多くの会員の先生方が参加しました。

そこで、平成28年春の叙勲において、旭日双光章スポーツ振興功労を大見薬局大浜店の大見博志先生が受章されたとの報告がありました。

また、平成15年より会営薬局の医療事務として勤め、北部地区薬剤師会に大いに貢献いただきました、医事課 主任 大城和音さんの永年勤続表彰の報告が行われました。

参加者の皆様からあたたかいご祝辞をいただき、和やかな雰囲気で全日程を終了いたしました。

大見博志先生の旭日双光章受章を祝い花束を贈呈
総会に出席した大見洋子氏（奥様）

永年勤続表彰
医事課　大城 和音 主任

（報告・写真：北部地区薬剤師会事務局）

地区だより

平成27年度 中部地区薬剤師会総会報告

日時：平成28年6月12日（日）15:00 ～ 17:30
会場：沖縄市福祉文化プラザ

まごころ薬局 山内店
高木 英子

朝から小雨が降る6月12日、初めて中部地区薬剤師会総会に顔を出してみました。少し早めに行ったつもりでしたが、意外にも駐車場はいっぱいでした。実を言うと、中部地区薬剤師会の存在すら知らなかった私です。今回、調剤報酬改定で「かかりつけ薬剤師」の施設基準である「医療にかかわる地域活動」の条件を満たすことができる活動ができていなかったため、途方にくれていました。ところが、中部地区薬剤師会の方から6月26日にイオンモール沖縄ライカムで健康とおくすり相談会があるので参加してみませんかとの声をかけていただきました。困った時に手を差し伸べてもらったからには、一度くらい顔を出さなくてはという思いで、平成27年度中部地区薬剤師総会に参加してみました。

総会は、開会挨拶に続き、伊佐常隆中部地区薬剤師会会長が挨拶、来賓で亀谷浩昌沖縄県薬剤師会会長からも挨拶を頂きました。議長が選出された後、平成27年度活動経過報告・会計報告が行われ、承認されました。最後に、平成28年度事業計画と予算計画の発表があり、承認されました。

総会終了後は、特別研修会として中頭病院薬剤科の島袋朝太郎先生よる講義を受けました。島袋先生は、難関である緩和薬物療法認定薬剤師を取得されており、「医療用麻酔薬

講師：**島袋 朝太郎** 氏
（中頭病院薬剤科）

『医療用麻薬の基礎知識
～オピオイド製剤の特徴と服薬指導のコツ～』

＜式次第＞　司　会　福地　健治

1. 開会
2. あいさつ　会　長　伊佐　常隆
3. 来賓あいさつ　沖縄県薬剤師会会長　亀谷　浩昌
4. 議長選出
5. 議題
   - 第一号　平成27年度活動経過報告　副会長　仲座　方利
   - 第二号　平成27年度会計報告　理　事　平田　明子
     - 会計監査報告　監事　新城 光枝
   - 第三号　平成28年度事業計画(案)　副会長　普久原　隆
   - 第四号　平成28年度予算(案)　理　事　平田　明子
6. 閉会　理　事　福地　健治

の基礎知識」という演題で緩和ケアにおける基本的な考え方、NSAIDs・オピオイド鎮痛薬の特徴、オピオイドをどのようにスイッチングするか、レスキュードースの設定や量の計算方法、オピオイドの副作用といった内容をQ&Aをはさみながら分かり易く講義してくれました。

研修会終了後、沖縄市泡瀬にあるビストログランシャリオというレストランを貸し切っての懇親会が開かれました。初めて参加したにもかかわらず、先輩薬剤師の先生方をはじめ、若手薬剤師の先生方からもお声かけいただきました。先生方の薬剤師業務に対する熱い思いや中部地区薬剤師会の歴史等の話をお聞きしました。美味しいフランス料理とお酒で、すっかりうちとけ楽しい時間を過ごすことができました。

「かかりつけ薬剤師」は賛否両論もある中「かかりつけ薬剤師」をきっかけに、今まで会う事はあっても、話す事ができなかった先生方に近づけた事、中部地区薬剤師会の存在を知ることができた事、とても親しみやすい中部地区薬剤師会の薬剤師の先生方に感激し、今回の参加は、むしろ総会に参加したことより、中部地区の先生方にお会いできた事の方が収穫だったのではないかと感じました。しかしながら、これからは一薬剤師としていろんな活動を通して何らかの協力ができたらと思います。

総会の報告というより、私個人の感想となってしまいましたが、平成27年度中部地区薬剤師会総会の報告とさせていただきます。

地区だより

一般社団法人那覇地区薬剤師会 第3回通常総会

日時：平成28年5月15日（日）14:00 ～ 17:30
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール・研修室

＜式次第＞	司　会　廣川　直子
1. 出席人員確認・宣言	
2. 開会の辞	副会長　姫野　耕一
3. 会長挨拶	会　長　川満　直紀
4. 議長選出	
5. 議事録署名人の選出	
6. 議題	
報告第1号　平成27年度会務・事業経過報告	副会長　鈴木　一徳
第2号　平成27年度監査報告	監　事　具志堅興信
議案第1号　平成27年度決算承認について	副会長　渡具知一枝
第2号　理事選任について	議　長　西川　　裕
報告第3号　平成28年度事業計画について	会　長　川満　直紀
第4号　平成28年度予算について	副会長　渡具知一枝
7. 閉会の辞	副会長　吉田　洋史

平成28年5月15日（日）沖縄県薬剤師会館において、第3回通常総会が開催されました。

姫野耕一副会長の開会宣言で始まり、続いて川満直紀会長の挨拶では冒頭、熊本・大分地震で被災された方々へのお見舞いの言葉を述べました。その後、今回の調剤報酬改定の件にふれ「患者が“かかりつけ薬剤師･薬局”のメリットを実感できる内容になっている。薬剤師・薬局は患者本位の“かかりつけ”に再編し、あらゆる対応が出来るように努めなければない」と述べました。

議事は、西川裕氏を議長として進行され、まず報告第1・2号の報告がなされ、報告第2号では具志堅興信監事より「今後FAX送信料の減収が予想される時代の趨勢の中、現在、収益の82％を占めるFAX送信料に頼らない収益確保を講じなければ、健全な会の運営は見込めない、との危機感を覚える。執行部、会員皆様の斬新なアイディア、英知を出し合って運営にあたることを期待している」と所感を述べました。

続いて議案第1・2号が審議され、賛成多数により承認されました。また、報告第3号では、健康とお薬相談会の開催について、会員より「最近の事情により、参加会員が増えてきていると思う。その参加資格について中部地区では条件づけしているそうだが、那覇地区では､どういった方針で選定しているのか」との質問があがりました。これに対し川満直紀会長より「那覇地区でも、会員であることや会費を支払っていることを条件にする予定である。また、相談員の募集については、初め担当支部へ参加の呼び掛けをし、参加が少ない場合は､那覇地区全体へ呼び掛けていく」と説明がありました。

最後に報告第4号の報告を終え、全ての報告・議案が滞りなく終了し、吉田洋史副会長の挨拶で通常総会は閉会いたしました。

総会終了後には、オフィスキャリエール代表の小那覇りな氏による「接遇マナー」についての特別講演会が開催され、実践を交えながら分かりやすくご講演くださいました。

講演会終了後には懇親会が行なわれました。来賓代表として、那覇市特定健診課参事の仲宗根正様、浦添市医師会会長の池村剛様のお二人よりご挨拶を賜り、沖縄県薬剤師会の亀谷浩昌会長の乾杯の音頭で開会しました。終始和やかな雰囲気の中で意見交換や歓談がなされ、無事に全日程が終了いたしました。

（報告・写真提供：那覇地区薬剤師会事務局）

【特別講演会】

演題：**「接遇マナー講座」～感じの良い対応をしよう～**

講師：オフィスキャリエール代表

ビジネスマナーティーチングマスター　**小那覇 りな** 氏

地区だより

平成28年度 宮古地区薬剤師会総会報告

日時：平成28年5月28日（土）17:00 ～ 17:30
会場：宮古地区薬剤師会事務所（シモジ薬局2階）

宮古地区薬剤師会
下地 睦夫

初夏を思わせる陽射しがまだ衰えない時間、非力なクーラーの唸る事務所で、汗をかきかき今年の総会が始まりました。

まず始めに、先月逝去された古謝紀和先生を偲んで1分間の黙祷が捧げられました。その後、報告事項、議案審議と進み、特に主だった異議も無く全議案とも全会員の承認を得ることが出来、総会は滞りなく約30分で終了しました。

議案の中には、FAXコーナーの運営上から、FAX負担金値上げの可能性についての話もありましたが、今年度も何とか1枚90円でやりくりする事に決まりました。

今年度は国の「地域包括ケアの推進」という医療改革を受け、在宅医療やかかりつけ薬局・薬剤師の重要性が高まり、それに伴い調剤報酬制度も大きな転換期を迎えています。会員の資質向上は勿論、会としてもこれまで以上に医療機関や他業種との連携を深め、「健康とおくすり相談会」など、地域活動に努める必要があるという認識を新たにしました。

最後に、亀谷浩昌県薬会長より、薬剤師会を取り巻く情勢についてお話があり、会の盛衰にはどうしても政治力が大きく関るとの事で、来る参議院選挙に向けて会員の協力を求められました。

総会終了後は、場所を移し、酒と共に情報交換を深め、総会宴の一部が終了する頃には日付けは変わっていました。

物故会員へ黙祷

亀谷浩昌県薬会長も参加された

懇親会

地区だより

南部地区薬剤師会総会報告

日時：平成28年6月26日（日）
10:00 ～ 12:00
会場：株式会社アトル 会議室

南部地区薬剤師会
会長　新垣 秀幸

去る6月26日に、株式会社アトル会議室にて南部地区薬剤師会の遅い総会が開催されました。

川上喜久先生の司会により、総会は進められました。地区会長である私新垣の挨拶に始まり、名嘉紀勝先生が担当の平成27年度南部地区薬剤師会事業報告、高良武和先生が担当の決算、平成28年度の予算、議案ともに満場一致で採決されました。

今年は、6月末の忙しい開催にも当たり、出席者が少ない寂しい総会となりました。会場探しについては、どこも空きがなく、川上雄一郎先生をはじめ株式会社アトルさんのご厚意により、日曜日に会場を貸してもらい総会開催にこぎつけました。御出席された会員の皆様ご協力ありがとうございました。

平成27年度 八重山地区薬剤師会総会報告

日時：平成28年4月15日（金）
20:30 ～ 22:00
会場：大濱信泉記念館

八重山地区薬剤師会
会長　山城　専

○平成27年度収支決算報告
会計　宮良　善朗
○平成28年度予算案
会計　宮良　善朗
○ＦＡＸコーナー平成27年度収支決算報告
ＦＡＸコーナー担当　金城　智史
○平成28年度事業計画　　会長　山城　　専
・沖縄県立八重山病院との定期的な分業連絡協議会開催
・健康とおくすり相談会の開催（秋頃：名蔵公民館で予定）
・石垣市主催健康福祉まつりへの参加（12月予定）
・実務実習指導薬剤師養成講座開催
・救急救命やバイタルチェック等の講習会開催

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。
是非“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

月例相談会

第132回健康とおくすり相談会報告

日時：平成28年5月29日（土）10:00 ～ 16:00
場所：イオンモール沖縄ライカム
担当：中部地区薬剤師会

オレンジ薬局
諸見里 めぐみ

イオンモール沖縄ライカムにおいて「健康とおくすり相談会」（以下相談会と略）が開催されました。薬剤師56名が参加し、2時間／1クール3グループで接客対応して大盛況でした。相談会の来客数は85名でした。

下記の内容で相談会は行われました。

①体組成成分分析器によるInBody
②電子血圧計による血圧測定
③動脈硬化測定器による血管の弾力性チェック
④簡易血液分析器によるHbA1c測定(cobas b101)
⑤管理栄養士による栄養相談
⑥薬剤師の相談窓口

薬剤師は、日常業務で追われているのが現状です。相談会は、調剤業務以外の検査やゆっくりと話せる相談窓口など、「顔の見える薬剤師」そのものでした。処方箋に検査値が記入される様になり、我々薬剤師は検査値も読めなければならない昨今となりました。患者様のアドヒアランスを高めるような意識付け・生活習慣改善や専門職種（栄養相談や社会福祉士等）へ連携が取れたならば素晴らしいと思います。

今回の血糖値・HbA1c・血圧・動脈硬化測定等は、投薬の合間や予約制にする事が可能であれば画期的だと考えます。理由は、患者様個々の結果が数値で動向が見え、指導・支援を更に深く繋げることが可能だからです。病医院での測定結果を忘れた時やこれまで測定した事はないが「薬局」なら･･･と、気軽に飛び込んで来てくれたら幸いではないでしょうか．患者様からの信頼・安心感も上がるでしょう。

病院薬剤師・開局薬剤師もおくすりの専門家です。「薬剤師」という職業は技術職であり、知識の引き出しが多いほど他職種との連携が密に取りやすくなると期待します．地域包括事業に取り残されないように、薬剤師は積極的に活動の場を広げていくタイミングではないでしょうか。これからの沖縄県の薬剤師育成と地位確立の為に、現役薬剤師が力を注ぐ時期だと痛感します。それらが、「お薬手帳」「実習指導薬剤師」「かかりつけ薬剤師」「健康支援薬局」「フィジカルアセスメント」や「在宅薬剤管理指導」などです。

私はこれまで病院薬剤師勤務が長かったため、地区薬剤師会主催の相談会は初参加でした。地域の方にとって〝健康とおくすり〟に関心があるからこそ今回の相談会が大盛況に終わったのです。患者様と薬剤師の距離を縮めませんか。そして、一緒に「顔の見える相談のしやすい薬剤師」を目指し、研鑽を積んで出来る事から努力して参りましょう。

＜健康とおくすり相談会に参加して＞

あかみち薬局
渡久地 愛

平成28年5月29日、イオンモール沖縄ライカムにて、健康とおくすり相談会が開催されました。午前9時から午後5時までの予定で、薬剤師の参加人数が56人でしたので、3班に分けて行われました。相談者は、家族連れや友達同士など、年齢層も幅広く、参加者は85人でした。場所はカフェの一部のブースを借りていたので、相談後はお茶を飲みながら、寛いでいる様子も見受けられました。

相談会では、InBodyという体成分分析装置を使っての測定、血糖値や血圧、動脈硬化度の測定、そして開催の広報のためにチラシを配付するなど、担当の振り分けをし、ローテーションで行っていきました。

測定の流れは、まず体成分分析（体重測定）から始まり、血圧、動脈硬化度、血糖値測定。その後結果シートが発行され、それを基にして健康管理のアドバイスなどを行うというものです。体成分や部位別の筋肉や脂肪量のバランス、動脈硬化度などは、日常生活ではなかなか測定できるものではないと思います。今回、結果を目にして、自分の生活習慣や食生活の見直しの必要さを改めて気付かされた方々が多かったのではないでしょうか。

私も空いた時間にHbA1cなどの測定をして頂きました。相談会開始前には、先輩方のご指導を受けながら、検査値などの再確認もでき、自分自身の健康管理の在り方を改めて考えさせられました。ここで得た知識など、普段の業務でも活かせていければと思います。

今回は、かかりつけ薬剤師の要件を満たすための地域活動の一つでしたが、様々な方々に健康管理の大切さを意識付けるためにも、今後もこのような活動が必要ではないかと感じました。

最後に、おくすり相談会を企画して頂いた関係者の皆様、そして会場提供やチラシ作成など、広報もして頂いたイオンモール沖縄ライカムの方々に、感謝申し上げます。貴重な時間をありがとうございました。

HbA1c測定

イオン特製案内ポスター（上）

◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○神元　繁守　○飯田　友美　○飯田　友美　○伊藤　夕紀　○宮里　政宏　○西平　守明
○島里　善晴　○島里　篤弥　○伊藤　綾子　○橋本　正嗣　○照屋林一郎　○大城　英恵
○上間　秀子　○米倉　美帆　○新江　裕貴　○當真　房子　○安次富　唯　○小嶺　幸徳
○唐木　清野　○宮里　彰子　○高木　英子　○比嘉真寿美　○砂川　香　○福田　篤
○島袋　悦子　○仲村　静佳　○江夏　恭範　○福間　猛史　○照屋　洋子　○崎山　慶子
○豊里　恒　○花城　幸夫　○池間　記世　○樋山　裕子　○大城　健夫　○沖山　尚美
○韓　明姫　○江夏　京子　○福地　健治　○莇　初子　○平田　明子　○普久原　隆
○佐藤　雅美　○玉城　武範　○伊佐　常隆　○仲座　方利　○新城　光江　○金谷　智尋
○又吉　拓舟　○砂川　秀樹　○上原　美樹　○金城　耕晴　○屋良　愛　○比嘉　朋子
○比嘉　浩一　○仲宗根晴美　○金城奈々美　○佐久川　碧

月例相談会

第133回健康とおくすり相談会報告

日時：平成28年6月12日（日）13:00 ～ 16:00
場所：サンエー那覇メインプレイス3階
担当：那覇地区薬剤師会
相談者数：58名

とまり薬局　鈴木 聡子

6月12日（日）、サンエー那覇メインプレイス3階のエレベータ横のスペースで健康とおくすり相談会が開催されました。

2016年度の調剤報酬改定で新設された､「かかりつけ薬剤師」の要件1つとして「医療に係る地域活動の取組」というのがあるため、今回から参加された薬剤師も多く、最初に測定器の使用方法や測定結果の見方などのオリエンテーションもあったので、初参加でも安心して相談会に参加できたと思います。（かくいう私も約8年ぶりの参加になるので測定器の扱いや結果の見方の説明が最初にあって助かりました･･･）

血圧計、動脈硬化測定、体脂肪計測定の結果をもとにした健康相談。測定する係の薬剤師と相談係の薬剤師に分かれ、相談員は測定結果の説明と結果をもとにした健康相談、さらに服薬中の薬やサプリがあればその飲み合わせや、これから取ろうと思っている健康食品に関しての相談を主に受けました。

相談内容の例を下記に示します。

〇60代女性：併用薬に降圧薬やロトリガ粒状カプセル、アトルバスタチン、チラーヂンSを服用中。測定結果では動脈硬化の年齢の平均より進んでいるという結果でしたが、現在は血圧コントロール良好で服薬状況もよく、服用によりコレステロール数値も基準内になっているようなので、動脈硬化の要因になる高血圧、高脂血症の基準内維持が大事であることをお伝えし、これまでどおりしっかり服用続けるようにお話しました。体成分分析では骨格筋量が少なかったので、脂身の少ないササミなどの良質なたんぱく質をとって、適度な運動をこころがけ、筋肉量をつけるようアドバイスをしました。

〇40代女性：普段からダンササイズなどの有酸素運動をしている。健康のことに関心があり、成分分析をしてみた。薬の服用などはしていないが、今後より良く体を維持するにはどうしたらいいか。測定結果では思ったより体脂肪が多く、骨格筋量が少ない。これまで通り体脂肪燃焼のためのダンササイズもしつつ、骨格筋をつけるような筋トレも取り入れてみたらどうかとお話しました。

無料測定とのポスターやチラシ配りの効果もあってか、測定器には列ができるほど人が集まり、測定終えた方が結果説明を聞くため相談員の前に並ぶほど大賑わいでした。毎週やってほしいなど、開催を喜ぶ声も多く、参加してよかったと思いました。

普段の薬局での業務は、問診、処方せん、薬歴の情報があり、患者さんとの会話は、薬の内容に関することが多いですが、今回は問診、測定結果などの情報から体調維持や生活習慣病の予防について話すことが多かったので、いつもの業務と一味違って新鮮でした。

これまで病院にあまりかかったことがなく、処方薬もない方は、薬局で薬剤師と話す機会がなかったので、こうして相談会に脚を運んでもらうことで、健康、体力維持に関心をもってもらい、薬剤師が健康相談相手になれると知ってもらえるいい機会になったと思います。今後、薬剤師が県民の生活習慣病予防の面でも活躍できる場がこうして広がっていければいいなと思いました。

◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○鈴木　聡子　○仲宗根かおり　○西平　克子　○槇原　真紀　○西川　　裕　○翁長　詩織
○小那覇幸子　○仲村喜久子　○萩原　涼子　○山道　峻也　○屋宜　信秀　○姫野さやか
○平良　栄子　○古堅　直也　○普天間公子　○姫野　耕一　○吉田　洋史　○渡具知一枝

啓発・普及活動

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動
6.26ヤング街頭キャンペーン

日時：平成28年6月25日（土）16:00 ～ 17:00
場所：イオン名護店前
　　北谷町美浜多目的広場
　　マックスバリューとよみ店前
　　サンエー那覇メインプレイス・イベント広場
　　サンエーショッピングタウン宮古島店前
　　サンエー石垣店前

6月26日は「国際麻薬乱用撲滅デー」です。1987年6月26日にオーストリアのウィーンで国連主催による関係閣僚会議の終了日を記念して、この日を麻薬乱用撲滅デーとその年の国連総会で制定され、1988年から全世界でキャンペーンが実施されています。

投稿

第39回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ

「ハッピーサマークラブ」に薬剤師ボランティアとして参加してみませんか？

琉球大学医学部附属病院
薬剤部　砂川 智子

小児糖尿病サマーキャンプは、沖縄県では「ハッピーサマークラブ」の名称で開催され、今年で39回目の開催を迎えます。県内各地に点在し、直接会うことがまれな患児にとってサマーキャンプは貴重な交流の場となります。また、参加する私たちにとっても大人への指導とは異なる小児への実践的な指導を経験することができます。

私の所属する病院薬剤師会糖尿病分科会では、昨年のキャンプ期間中に、参加患児とその保護者を対象とした「外出先での注射と使用済み針の自宅や外出先での管理方法と廃棄方法に関するアンケート調査」を行いました。その結果は、使用済み針の管理と廃棄に関する医療者側からのはたらきかけは弱く、薬剤師からの指導に関しては、1度のみであるという結果でした。また、外出時の注射針や穿刺針などの廃棄に苦慮していることが伺えたため、今年のキャンプでは、携帯用の使用済み針などの廃棄容器をみんなで作成しようと計画しています。

少しだけ様子を見てみたい！、1泊だけならOK!など、普段のお仕事に支障がない範囲での参加も可能です。興味のある先生は、ぜひ、下記へご連絡ください。多くの先生方の参加をお待ちしています。

第39回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ
「ハッピーサマークラブ」
期日：平成28年8月3日(水)～6日(土)(3泊4日)
場所：沖縄県立玉城青少年の家

＜問い合わせ先＞
沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ
薬剤師チーム事務局
(琉球大学医学部附属病院内薬剤部)
外間 登・砂川智子　TEL 098-895-3331

第30回沖縄県薬剤師会学術大会の演題の募集について

会　　員
部 会 長　　各 位
地区支部長

沖 縄 県 薬 剤 師 会
学術大会実行委員会

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記の学術大会を来る**平成28年11月6日（日）沖縄県薬剤師会館**に於いて開催することになりました。

つきましては、下記により演題を募集致しますので、多数の申込を頂きますようお願い申し上げます。

但し、原則として1施設1演題とします。

記

1. 演題募集部門名：①保険薬局部門　②学校薬剤師部会　③女性薬剤師部会　④公衆衛生部門
⑤行政薬剤師部会　⑥病院診療所部会　⑦卸勤務薬剤師部会　⑧青年薬剤師部会
⑨OTC・健康食品部門　⑩医薬品情報部門　⑪試験検査部門　⑫地区・支部・他職種連携
2. 発 表 時 間：一題　10分（発表8分、質疑応答2分）
①発表は口演（パワーポイント）発表を主とします。
②演題の応募状況によっては、発表時間を調整させていただくことがあります。
3. 演題申込締切：平成28年**9月9日（金）**
4. 講 演 要 旨：A4版縦用紙1枚程度（1200字以内）にまとめ郵送またはメールで送付下さい。
（作成要領は裏面をご参照下さい。）
5. 要 旨 締 切：平成28年**10月7日（金）**
6. 申　込　先：〒901-1105　沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10　沖縄県薬剤師会館内
第30回沖縄県薬剤師会学術大会準備委員会
TEL（098）963－8930　　FAX（098）963－8932
E-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

＊大会プログラム及び大会参加申込書は、後日お知らせ致します。

平成28年　　月　　日

第30回沖縄県薬剤師会学術大会　演題申込書

発表施設名 or 地区・支部・委員会・部会名＿＿＿＿＿＿＿＿

演　題＿＿＿＿＿＿＿＿

所　属＿＿＿＿＿＿＿＿　電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿

発表者（フリガナ）
（連名のとき演者に○印を）＿＿＿＿＿＿＿＿

所要器具（必要なものに○印を）

1. Power Point（パソコンプロジェクターは1台用意）
2. その他

※講演要旨作成要領は裏面に記載されています。

講演要旨作成要領

沖縄県薬剤師会学術大会実行委員会

1. 原稿をそのままオフセット印刷にかけて学術大会要旨集を作成しますので、次の要領で原稿を作成して下さい。

2. 講演要旨はA4版用紙を使用し、ワードで作成して下さい。(A4用紙1枚にまとめて下さい。)

3. 演題、所属、氏名は下記の「作成見本」を参照して下さい。

4. 文字書体はMS明朝、文字大きさは11ポイント、英数字は半角でお願いします。

5. 演題、所属、発表者氏名の欄は写植印刷致します。最上部の行から記入して下さい。演者の氏名には、先頭に○印を付けて下さい。

6. 作成見本

薬事情報おきなわ No.239
2016年 5・6月号 ： Vol.31 No.3
薬事情報センター TEL：098-963-8931
FAX：098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品　平成28年5月25日付

区分	販売名 (　)内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内用薬	サブリル散分包500mg	500mg1包	1,487.00	サノフィ	**ビガバトリン：**抗てんかん剤（点頭てんかん）（新有効成分）
	フィコンパ錠2mg (∈275)	2mg1錠	189.70	エーザイ	**ペランパネル水和物：**抗てんかん剤（他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の下記発作に対する抗てんかん薬との併用療法 部分発作（二次性全般化発作を含む）強直間代発作）（新有効成分）
	フィコンパ錠4mg (∈277)	4mg1錠	310.20		
	シクレスト舌下錠5mg (5)	5mg1錠	274.00	Meiji Seika ファルマ	**アセナピンマレイン酸塩：**抗精神病剤（統合失調症）（新有効成分）
	シクレスト舌下錠10mg (10)	10mg1錠	411.00		
	イムブルビカカプセル140mg (ibr140mg)	140mg1カプセル	9,367.00	ヤンセンファーマ	**イブルチニブ：**抗悪性腫瘍剤（ブルトン型チロシンキナーゼ阻害剤）（再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）（新有効成分）
	ジカディアカプセル150mg (NVR LDK 150MG)	150mg1カプセル	6,297.00	ノバルティスファーマ	**セリチニブ：**抗悪性腫瘍剤／チロシンキナーゼ阻害剤（グリゾチニブに抵抗性又は不耐容のAL融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非少細胞肺癌）（新有効成分）
	タグリッソ錠40mg (AZ40)	40mg1錠	12,482.50	アストラゼネカ	**オシメルチニブメシル酸塩：**抗悪性腫瘍剤／チロシンキナーゼ阻害剤（EGFRチロシンキナーゼ阻害薬に抵抗性のEGFR T790M変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌）（新有効成分）
	タグリッソ錠80mg (AZ80)	80mg1錠	23,932.60		
	タフィンラーカプセル50mg (GS TEW 50mg)	50mg1カプセル	4,860.60	ノバルティスファーマ	**ダブラフェニブメシル酸塩：**抗悪性腫瘍剤・BRAF阻害剤（BRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な悪性黒色腫）（新有効成分）
	タフィンラーカプセル75mg (GS LHF 75mg)	75mg1カプセル	7,156.50		
	メキニスト錠0.5mg (GS TFC)	0.5mg1錠	7,731.70	ノバルティスファーマ	**トラメチニブ ジメチルスルホキシド付加物：**抗悪性腫瘍剤・MEK阻害剤（BRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な悪性黒色腫）（新有効成分）
	メキニスト錠2mg (GS HMJ)	2mg1錠	29,021.00		
	プリマキン錠15mg「サノフィ」 (@P97)	15mg1錠	2,211.80	サノフィ	**プリマキンリン酸塩：**抗マラリア剤（三日熱マラリア及び卵形マラリア）（新有効成分）
	マラロン小児用配合錠 (GX CG7)	1錠	161.50	グラクソ・スミスクライン	**アトバコン／プログアニル塩酸塩：**抗マラリア剤（マラリア）（新用量・新剤型）
注射薬	ヌーカラ皮下注用100mg	100mg1瓶	175,684	グラクソ・スミスクライン	**メポリズマブ（遺伝子組換え）：**ヒト化抗IL-5モノクローナル抗体（気管支喘息（既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る）（新有効成分）
	カヌマ点滴静注液20mg	20mg10mL1瓶	1,277,853	アレクシオンファーマ	**セベリパーゼ アルファ（遺伝子組換え）：**ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症治療剤（ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症（コレステロールエステル蓄積症、ウォルマン病）（新有効成分）
	ゾーフィゴ静注	1回分	684,930	バイエル薬品	**塩化ラジウム：**放射性医薬品・抗悪性腫瘍剤（骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌）（新有効成分）
	アディノベイト静注用500	500国際単位1瓶 (溶解液付)	59,372	バスクアルタ	**ルリオクトコグ アルファ パゴル（遺伝子組換え）：**遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子製剤（血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者における出血傾向の抑制）（新有効成分）
	アディノベイト静注用1000	1,000国際単位1瓶 (溶解液付)	110,104		
	アディノベイト静注用2000	2,000国際単位1瓶 (溶解液付)	204,184		

区分	販売名 (　)内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
注射薬	コバールトリイ静注用250	250国際単位1瓶 (溶解液付)	26,680	バイエル薬品	**オクトコグ ベータ(遺伝子組換え)：**遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子製剤(血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者における出血傾向の抑制)(新有効成分)
	コバールトリイ静注用500	500国際単位1瓶 (溶解液付)	49,477		
	コバールトリイ静注用1000	1,000国際単位1瓶 (溶解液付)	91,753		
	コバールトリイ静注用2000	2,000国際単位1瓶 (溶解液付)	170,154		
	コバールトリイ静注用3000	3,000国際単位1瓶 (溶解液付)	244,197		
外用	マーデュオックス軟膏	1g	231.00	中外製薬	**マキサカルシトール・ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル：**尋常性乾癬治療剤(尋常性乾癬)(新医療用配合剤)

●報告品目・新キット製品一覧　平成28年5月25日付

区分	販売名 (　)内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内用薬	レメロン錠30mg (MSD TZ5)	30mg1錠	281.00	MSD	**ミルタザピン：**ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤(うつ病・うつ状態)(再審査期間中の規格追加)
	リフレックス錠30mg (MS M29)	30mg1錠	282.00	Meiji Seika ファルマ	
	エフィエント錠20mg (エフィエント 20)	20mg1錠	1,150.20	第一三共	**プラスグレル塩酸塩：**抗血小板剤(経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される下記の虚血性心疾患 急性冠症候群(不安定狭心症、非ST上昇心筋梗塞、ST上昇心筋梗塞)安定狭心症、陳旧性心筋梗塞)(再審査期間中の規格追加)
	ボノサップパック400	1シート	733.80	武田薬品	**ボノプラザンフマル酸、アモキシシリン水和物、クラリスロマイシン：**＜適応菌種＞(アモキシシリン、クラリスロマイシンに感性のヘリコバクター・ピロリ)＜適応症＞胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリ感染症、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎(再審査期間中の剤形追加)
	ボノサップパック800	1シート	884.00		
	ボノピオンパック	1シート	654.60	武田薬品	**ボノプラザンフマル酸、アモキシシリン水和物、メトロニダゾール：**＜適応菌種＞アモキシシリン、メトロニダゾールに感性のヘリコバクター・ピロリ＜適応症＞胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリ感染症、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎(再審査期間中の剤形追加)
	コロンフォート内用懸濁液25%	25%32mL1瓶	501.60	伏見製薬所	**硫酸バリウム：**大腸CT用経口造影剤(腸内容物の標識による大腸コンピューター断層撮像の補助)(新効能医薬品、新用量医薬品、剤型追加にかかる医薬品(再審査期間中でないもの))
注射薬	インスリン　グラルギンBS注キット「FFP」	300単位1キット	1,528	富士フィルムファーマ	**インスリングラルギン(遺伝子組み換え)[インスリングラルギン後続2]：**持効型溶解インスリンアナログ製剤(インスリン療法が適応となる糖尿病)(バイオ後続品：新キット製品)
	オレンシア皮下注125mg オートインジェクター1mL	125mg1mL1キット	28,233	ブリストル・マイヤーズ	**アバタセプト(遺伝子組み換え)：**T細胞選択的共刺激調節剤(関節リウマチ(既存治療で効果不十分な場合に限る)(新キット製品)
外用薬	ニュープロパッチ18mg	18mg1枚	1,017.20	大塚製薬	**ロチゴチン：**ドパミン作動性パーキンソン病治療剤、レストレスレッグス症候群治療剤(パーキンソン病)(再審査期間中の規格追加)
	エリクラ400μgジェヌエア60吸入用	60吸入1キット	6,224.40	杏林製薬	**アクリジニウム臭化物：**COPD治療剤(慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎、肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解)(新有効成分)

●新医薬品　平成28年6月29日付

区分	販売名 (　)内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内用	ゲンボイヤ配合錠 (GSI-510)	1錠	6,942.10	日本たばこ産業	**エテビテグラビル/コビシスタット/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩：**抗ウイルス化学療法剤(HIV-1感染症)(新有効成分・新医療用配合剤)

●後発医薬品　平成28年6月17日付

収載されたのは52社の49成分87規格271品目。初の後発品収載は、抗精神病薬「オランザピン」、気管支喘息治療剤「モンテルカスト」など8成分145品目だった。新規収載希望が10品目を超えた内用薬を先発品薬価の「0.4がけ」とするルールは、「オランザピン」の1成分95品目に適用された。

Medical News

●せき止め薬、適正量の10倍投与…病院側に60万円支払い命令～島根（読売新聞　4月28日）

2012年に島根県東部の80歳代の男性が松江医療センターに入院中、投薬ミスで抗がん剤治療が受けられず、死亡時期が早まったなどとして、遺族が独立行政法人・国立病院機構に約2640万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が25日、松江地裁であった。男性は12年7月に入院中、薬剤師らのミスで適正量の10倍のせき止め薬を20日間近く投与された。その後、男性は全身の状態が悪化し、予定されていた抗がん剤治療が中止され、同年12月、肺がんのため82歳で死亡した。判決では、投薬ミスと死亡などとの因果関係は認めなかったが、薬の過剰投与が原因で幻覚などが生じる「せん妄」状態になり、看護師らに体を拘束される等精神的な苦痛を受けたと認定した。

●薬剤過剰投与で死亡と提訴　北海道士別市に賠償請求（共同通信　5月23日）

士別市立病院で手術を受けた女性（当時87）が2014年に死亡したのは、薬剤の過剰投与が原因として、遺族が市に約3千万円の損害賠償を求めた訴訟の第1回口頭弁論が20日、旭川地裁で開かれ、市側は治療行為は適切だったとして請求棄却を求め、争う姿勢を示した。訴状によると、女性は14年8月19日、総胆管結石の摘出手術を受け、同日中に死亡。精神安定剤などの薬剤が過剰に投与されたため呼吸が停止し死亡したと主張し、手術のリスクや必要性の説明を怠る説明義務違反もあったとしている。

●大阪の薬局経営者ら逮捕　調剤報酬1430万円詐取（毎日新聞　5月25日）

調剤報酬約1430万円を詐取したとして、大阪府警生活環境課は25日、薬局経営者と同薬局営業部長を詐欺容疑で逮捕した。逮捕容疑は2012年12月～15年2月、奈良県内の二つの病院に計24回通院し、「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に感染した」などと偽り、抗生物質560錠分（計730万円相当）、漢方薬約2万1300ｇ分（計780万円相当）の処方箋を病院側に作成させた。漢方薬は処方通り飲むと、65年分の量に当たるという。

●HIV沖縄27人、全国3位「早期発見で発症抑えて」～沖縄県（琉球新報　6月2日）

2015年に県内でエイズウイルス（HIV）に感染した人が27人、うち初めて感染が発覚した患者は10人だった。東京都、大阪府に次いで全国3位。沖縄は特にエイズ発症により感染発見となる割合が高い傾向があり、問題視されている。

●肺炎で入院、1歳児の加湿器に水と間違え消毒液（読売新聞　6月9日）

名鉄病院で先月、肺炎で入院した男児(1)の酸素テントの加湿器に、精製水と間違えて消毒液を入れるミスがあった。男児は今月2日に退院。現在までに健康被害などは出ていないが、同病院では医療ミスと認め、患者側に謝罪した。同病院によると、男児が先月24日夜に入院した際、治療のために入った酸素テントの加湿器に、看護師が誤って、主に洗浄に使う消毒液40mLを入れた。精製水と消毒液のボトルはともに乳白色の500mL入りで、同じ棚に保管されており、確認不足のまま使われたという。その後、加湿器への注水も怠り、治療が終わった27日にミスに気付いた。

●生活保護受給者への適正受診指導強化へ　厚労省・ケースワーカー（CW）と薬局の連携を促進（薬局新聞　6月16日）

厚生労働省は生活保護受給者への適正受診指導等の強化に向け動いている。具体的な取組みとして、「薬局の薬剤師と連携した服薬指導による適正化等」を掲げ、不適切な処方について、適正受診指導を実施するほか、複数薬局を1カ所へ整理することを働きかけ、重複投薬、多剤併用、併用禁忌等の解消が期待されている。また、薬局・薬剤師とCWが連携により、アレルギー等の理由以外で先発医薬品を服用している者に対しても「後発医薬品への切り替え指導」が想定されている。」

●糖尿病の外来医療費、広島が最高…最低沖縄の1.7倍～厚労省調査（読売新聞　6月23日）

糖尿病の外来医療費を都道府県の住民1人あたりで比べると、最大1.7倍の開きがあることが厚生労働省の分析で分かった。2013年10月分のデータでは、最高は広島県の5050円で、最低は沖縄県の2960円だった。分析は診療報酬明細書のデータベースを使って行われた。糖尿病以外の病気も調べており、全54種類の外来医療費の合計は、最高が島根県の1万5240円、最低は沖縄県の1万60円と1.5倍の開きがあった。

●院外処方箋の全面発行中止－関西医大総合医療センター（大阪府）（薬事日報　6月23日）

関西医科大学総合医療センターは5月6日の新本館開院に伴い、院外処方箋の全面発行を中止、外来患者の調剤を原則院内で行う方針に改めた。患者の費用負担を軽減し、利便性を向上させて、病院の全体的な評価を高めることが目的。約16年間全面発行を続けてきたが、そのメリットを十分に感じられなかったという。現在は、京阪電車滝井駅と同センターを結ぶ100㎡にも満たない道路沿いなどに7軒の薬局が林立。院長の岩坂氏は「門前の薬局は夜間や休日には店を閉め、日用雑貨などもあまり置いていない。あれだけたくさんある薬局が住民の役に立ってない。」と嘆く。門前薬局に対する不満が年々強まっていたという。

●漢方薬と偽りウーロン茶処方、338万円詐取容疑で逮捕　（朝日新聞　6月30日）

市販のウーロン茶を高額の漢方薬と偽って患者に処方したとして、大阪府警は30日、大阪市で薬局を経営する男性薬剤師(65)を詐欺容疑で逮捕した。「簡単な方法で大金が手に入ると思った」と容疑を認めているという。生活環境課によると、容疑者は2013年10月～15年8月、白内障と診断された患者3人に、漢方薬「サフラン」を装ってウーロン茶を渡し、大阪市から22回にわたり計338万円の調剤報酬を詐取した疑いがある。記録などから13～15年、同様に67人から計約2200万円を詐取したとみている。

●20製品22例の不適切事例－製薬企業の情報提供活動～日本製薬医学会年会（薬事日報　7月6日）

医療用医薬品の広告規制のあり方が問い直される中、2日に東京大学で開催された日本製薬医学会年会で、医療従事者が製薬企業の不適切な情報提供活動を報告する「広告監視モニター制度」のパイロットスタディの結果が発表された。約5カ月間で報告を受けたのは16社が販売する20製品22事例で全て新製品の薬剤だった。最も多かったのが、院内の製品説明会で12件。続いて、MRの情報提供活動が7件、企業主催の学術講演会が2件。事例の内容に関しては「有効性にかかわるもの」が9件、「安全性にかかわるもの」が3件、「適応外の行動にかかわるもの」が2件となった。

医療事故情報収集等事業 医療安全情報　No.114　2016年5月

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療 安全情報

No.114　2016年5月

抗凝固剤・抗血小板剤の再開忘れ

観血的医療行為のために中止していた抗凝固剤または抗血小板剤の再開を忘れた事例が4件報告されています（集計期間:2012年1月1日～2016年3月31日）。この情報は、第34回報告書「個別のテーマの検討状況」（P135）で取り上げた内容を基に作成しました。

観血的医療行為のために中止していた抗凝固剤または抗血小板剤の再開を忘れたことにより、患者に影響があった事例が報告されています。

主な薬効	薬剤名	再開忘れに気付いた時期	背景
抗凝固剤	ワーファリン錠	観血的医療行為の17日後	抗凝固剤の再開可能な時期になっても再開について検討されなかった。
	ワーファリン錠	観血的医療行為の10日後	「薬剤全て再開」と指示したため、手術直前まで内服していた薬剤のみ再開し、それより前に中止していたワーファリン錠は再開されなかった。
	プラザキサカプセル	観血的医療行為中止の14日後	腎生検が中止になった際、中止していたプラザキサカプセルの再開を忘れた。
抗血小板剤	バイアスピリン錠	観血的医療行為の9日後	「手術翌日よりバイアスピリン錠再開」の指示があったが、指示を見落とした。

医療事故情報収集等事業　医療安全情報　No.114　2016年5月

抗凝固剤・抗血小板剤の再開忘れ

事例1

医師は手術のため、患者の抗凝固剤（ワーファリン錠）を中止した。術後出血のリスクを考え、抗凝固剤の再開時期を遅らせる予定であったが、そのまま再開していなかった。術後17日目、医師が患者に声をかけると反応がなかったため頭部CT検査を行ったところ、脳梗塞を認めた。

事例2

手術の1週間前より抗血小板剤（バイアスピリン錠）を中止した。医師は入院時指示に「手術翌日よりバイアスピリン錠再開」と記載したが、看護師は指示を見落とし再開していなかった。術後9日目、患者が傾眠傾向であったため頭部MRI検査を行ったところ、多発性の脳梗塞を認めた。

事例が発生した医療機関の取り組み

- 術後指示に抗凝固剤や抗血小板剤の再開日の記入欄を追加する。
- 病棟薬剤師は、術後の抗凝固剤や抗血小板剤の内服状況について、医師に情報提供する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
http://www.med-safe.jp/
※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/

医療事故情報収集等事業 医療安全情報　No.115　2016年6月

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

2012年から2014年に提供した医療安全情報

No.115　2016年6月

2015年にも再発・類似事例が発生しています

◆医療安全情報No.62～97の再発・類似事例件数です。
◆再発・類似事例が5件以上報告された医療安全情報は、事例を掲載しています。

番号[1]	タイトル	2015年の報告件数
No.62	患者の体内に植込まれた医療機器の不十分な確認	2件
No.63	画像診断報告書の確認不足	11件

5年前、腹部大動脈瘤に対しステントグラフト内挿術を施行し、以後心臓血管外科で評価のためのCT検査を行っていた。心臓血管外科の医師は、画像診断報告書が報告される前にCT画像を見て結果を患者に説明し、診察後に画像診断報告書を確認しなかった。その後、呼吸器内科で患者に肺がんが発見された際、過去のCT検査の画像診断報告書を確認したところ、3年前に気管分岐部食道近傍に腫瘤影が指摘されていたことがわかった。（他10件）

No.65	救急カートに配置された薬剤の取り違え	3件
No.66	インスリン含量の誤認（第2報） 第1報：医療安全情報No.1	3件
No.68	薬剤の取り違え（第2報） 第1報：医療安全情報No.4	4件
No.69	アレルギーのある食物の提供	1件
No.71	病理診断報告書の確認忘れ	5件

医師は、患者の定期診察を行った際、1年前の内視鏡検査の病理所見で早期胃癌を指摘されていたことに気付いた。今回の内視鏡検査で胃癌は増大しており、早急に治療が必要な状態であった。（他4件）

No.72	硬膜外腔に持続注入する薬剤の誤った接続	1件
No.73	放射線検査での患者取り違え	2件
No.75	輸液ポンプ等の流量と予定量の入力間違い	1件
No.77	ガベキサートメシル酸塩使用時の血管炎（第2報） 第1報：医療安全情報No.33	2件

医療事故情報収集等事業
医療安全情報
No.115　2016年6月

2012年から2014年に提供した医療安全情報

番号[1]	タイトル	2015年の報告件数
No.78	持参薬を院内の処方に切り替える際の処方量間違い	4件
No.80	膀胱留置カテーテルによる尿道損傷	10件

膀胱留置カテーテルを抵抗なく挿入できたが、尿の流出はなかった。看護師は、患者が処置直前にトイレで排尿を済ませていたので膀胱内に尿が溜まっていないと考え、バルーンに蒸留水10mLを注入した。患者が痛みを訴えたため、膀胱留置カテーテルを抜去した。その後、排尿時に尿道から出血があったため、泌尿器科医師が診察し、尿道損傷による出血と診断された。（他9件）

No.81	ベッド操作時のサイドレール等のすき間への挟み込み	2件
No.82	PTPシートの誤飲（第2報） 第1報：医療安全情報No.57	11件

看護師は、PTPシートを1錠ごとにはさみで切り、患者に配薬した。その後、患者より1錠だけPTPシートごと薬を飲んでしまい、つかえ感があると話があった。ごみ箱を確認すると、夕食後の薬のうちロキソプロフェンのPTPシートだけがなかった。（他10件）

No.83	脳脊髄液ドレナージ回路を開放する際の誤り	1件
No.85	移動時のドレーン・チューブ類の偶発的な抜去	7件

術後、患者を手術台からベッドに移動した際、右内頸静脈に留置中の中心静脈カテーテルがスライディングボードに引っ掛かり、13cm固定から6cmまで引き抜かれた。中心静脈カテーテルよりドブポンを投与しており、一時的に血圧が60mmHg台に低下した。（他6件）

No.86	禁忌薬剤の投与	1件
No.92	人工呼吸器の配管の接続忘れ	1件
No.94	MRI検査室への磁性体（金属製品など）の持ち込み（第2報） 第1報：医療安全情報No.10	4件
No.95	セントラルモニタの送信機の電池切れ	2件
No.97	肺炎球菌ワクチンの製剤の選択間違い	1件

1)の番号は、医療安全情報の提供番号を示しています。

◆医療安全情報No.1～97の再発・類似事例につきましては、平成27年年報に掲載いたします。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/

4〜5月に薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。

薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

【質問】キサラタン点眼液とジェネリック医薬品（ラタノプロスト点眼液）の保管方法は？（薬局）
【回答】キサラタン点眼液は開封前は遮光下2－8℃保管となっており、冷蔵庫保管が望ましい。開封後は30℃４週間経過で含量低下はわずか、未開封のものと差はなかったとのデータがあり、常温での保管で問題ない。現在多くのジェネリック医薬品があるが、開封前後常温可能なものと、キサラタン点眼液のように開封前は冷所保管とする製品があるため、添付文書等での確認が必要である。

【質問】幼稚園の砂場の消毒についてハイターをまく・・・などの方法はどうか。（学薬）
【回答】学校などでの砂場の消毒については日本学校薬剤師会等が以下の方法を紹介している。
消毒薬を使用する方法としては、次亜塩素酸ナトリウム（100〜200mg/L）を散布し1〜2日程度放置する。プール水の消毒薬等を利用してもよい。その他、抗菌砂、加熱処理（業者委託）といった方法もある。消毒中は子どもが消毒液や砂場にふれないよう十分注意を払う。また、砂場にペットなどの侵入を防ぐ構造や覆うなどし、かつ、遊んだ後などは手洗いを励行し清潔に心がける。
参考：日本薬剤師会ＨＰ、仙台市薬剤師会：学校保健部「砂場の消毒について」

【質問】歯周病にジスロマック（アジスロマイシや抗真菌薬を用いることはありますか？（行政）
【回答】まず、歯周病原菌細菌に対する抗菌薬治療としてはニューキノロン系抗菌剤やセフェム系などが高い抗菌力を示す。特に、アジスロマイシンは、感染局所での滞留時間が長く、免疫賦活作用やバイオフィルムへの浸透性があるという特徴がある。また、１回飲みきり型製剤は投与初期より高い薬剤濃度が得られるため早期の効果発現が期待され、耐性菌発症防止、服薬遵守の意味でも有用である。また、口腔内からは、*Candida albicans* をはじめとする真菌が、宿主免疫能の低下症例で検出されている。過去に*C. albicans* の存在と免疫不全患者の歯周病悪化の関連性を示唆した報告もある。これに対して日本歯周病学会は、抗真菌剤が歯周治療の新しい治療薬として新聞，雑誌等に取り上げられ、臨床の場で混乱を招き，歯周治療がゆがめられ，国民の口腔保健をも脅かす事態となっているとして、2010年に抗真菌剤の利用を批判する見解を出している。その中で、抗真菌薬が歯周治療に利用できるとする科学的根拠はなく、また仮に科学的根拠があり、充分検証された薬物であっても、その使用に際しては、副作用はもちろんのこと、薬効を期待する場（歯周ポケット）における薬物動態の特徴をも考慮し、投薬方法が適切であるかなど、よく検討しておかなければならないと結論づけている。
参考：歯科におけるくすりの使い方2011-2014（デンタルダイヤモンド社、歯周治療ガイドライン（1996）、正しい歯周治療の普及をめざして　抗真菌剤の利用を批判する（日本歯周病学会ポジションペーパー）

【質問】化学療法中でバクタを服用中。手術のためニューキノロン系抗菌薬を使用したい。（薬局）
【回答】バクタは抗がん剤や免疫抑制剤などの使用により発症するニューモシススチス肺炎（カリニ肺炎）の発症予防のため少量投与で使用されることがある。尿路感染症の場合にもキノロン系薬剤などが併用されるが、化学療法治療中の好中球減少に伴う発熱患者で細菌感染のリスクが高い場合にも、バクタに加えニューキノロン系抗菌薬の短期間投与は有用であるとされている。
参考：G-CSF適正使用診療ガイドライン（日本癌治療学会）

【質問】酸化マグネシウムとオフロキサシンの併用はどのくらい時間をあければよいか。（薬局）
【回答】ニューキノロン系抗菌剤と金属カチオン含有製剤の同時服用は、難溶性のキレート体を形成するため、抗菌剤の吸収が減少し抗菌作用が減弱する。ニューキノロン系抗菌剤の最高血中濃度到達時間は投与後約１〜２時間であり、金属カチオン含有製剤は胃・腸管から殆ど吸収されず消化管内に長く残る事から、先にキノロン系抗菌剤を投与し、２時間後に金属カチオン含有製剤を服用、その後３時間以上あければ、消化管内での両薬剤の接触を避けることができる。
参考：ニューキノロン系薬剤と金属カチオン含有薬剤との相互作用：医薬ジャーナル37（12），2001

【質問】当帰芍薬散を耳鼻科領域で使う理由は？（薬局）
【回答】当帰芍薬散は通常女性特有の症状に広く使用されるが、耳鼻科領域においては嗅覚障害に使用される。中でも、感冒罹患後嗅覚障害に対しては治癒率が54%、外傷性嗅覚障害症例においては当帰芍薬散または加味帰脾湯の６か月投与で、治癒率23%、軽快率39%だったとの報告がある。当帰芍薬散の作用機序としては，血中エストロゲンを増加させ，NGF活性を上昇させることが嗅覚改善に関与しているとも考えられている。
参考：三輪高喜：嗅覚障害に対する漢方薬の効果（漢方医学39（4），2015）

【質問】ナゾネックス点鼻薬は禁止薬物ですか？（薬局）
【回答】モメタゾンはドーピング禁止物質だが、鼻の疾患に対する局所作用は禁止されない。（糖質コルチコイド：経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。）
参考：2016年禁止表国際基準「S9.糖質コルチコイド」

沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

4〜6 月の「おくすり相談室」受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●安全性情報●

【質問】血液をサラサラにするバファリンを飲み始めてからしばらくして、足の爪2本が剥離し小豆色になった。初めは靴のせいかと思っていたが、最近右手の４本の爪がめくれてきて、親指には黒い筋が入ってきた。処方元の内科医には、皮膚科に行くように言われた。皮膚科では水虫でもなく、バファリンの副作用だろうと言われた。バファリンをやめた方がいいですか。（女性）

【回答】アスピリンの出血しやすくなるといった副作用の兆候として、歯磨き時の出血が止まらない、青あざができやすくなった等が見られることがありますが、今の症状も副作用の可能性は否定できません。バファリンは、脳梗塞の再発予防の為の大切な処方ですので、自己判断で中止せず、主治医に相談してください。別の医師に意見を求めるのもいいでしょう。症状が進行しているので早めの受診を勧めます。

【質問】乾癬で治療中。ミューズという消毒石鹸を使っている。他の石鹸よりいいみたいですが、大丈夫ですか？（女性）

【回答】通常、乾癬に使用される外用薬としては、ビタミンＤ剤、ビタミンＡ剤、サリチル酸などがある。お尋ねのミューズの主成分はサリチル酸であり、作用としては皮膚の表面の角質を溶かし，鱗屑を柔らかくし，鱗屑の除去を促進して，他の外用薬の吸収を高めるとされています。また、頭皮の鱗屑は非常に厚いことから、特に頭皮用治療薬の成分として特に有用とされています。担当医と相談しながら使用してください。

参考：メルクマニュアル日本語版

【質問】４ヶ月の子がB型インフルエンザで小児科を３カ所回った。タミフルの１歳未満投与は国からのOKが出ていないので親の承認が必要といわれた。副作用が恐い。医師に相談したら止めてもいいけど、飲みきった方がいいと言われた。どうすればよいかわからない。

【回答】現在、タミフルの１歳未満の乳児への投与については、使用経験がないという理由で認められておりません。ただ、小児は重症化しやすいことと、投与経験は少ないものの重篤な副作用はまれであることから、タミフルの投与についてはCDCおよびWHOからも推奨されており、日本小児科学会はタミフルを投与した1歳未満の乳児の副作用データを解析し、危険性は高くないとしています。また、厚生労働省は、乳児への投与に関し危険性を十分に説明した上で、保護者の同意があればさしつかえないと見解を出しています。これらの情報を踏まえたうえでご判断ください。

●健康食品●

【質問】水素水が動脈硬化の予防になると聞いた。

【回答】水素水の作用として、抗酸化作用、抗炎症作用が知られています。動脈硬化については、動物に水素水を継続的に摂取させ，アテローム性動脈硬化と酸化ストレスが抑えられたという報告，メタボリックシンドローム予備軍のLDLコレステロールや酸化ストレスが改善したなどの効果も認められています。今の所、重篤な副作用は報告されていません。

参考：水素水の動脈硬化予防効果は？：日本医事新報（4789）

●ドーピング●

【質問】「ジキニン」を飲んでいるが、ドーピングは大丈夫ですか。（選手）

【回答】お問い合わせの「ジキニン」ですが、ジキニンと名前が付くOTC薬は14種類、うちシロップは３種類販売されています。お薬の正しい商品名がわからないと、ドーピングの可否を確認することができません。ただ、ジキニンの殆どの商品には生薬の甘草を含有されています。甘草自体は禁止物質ではありませんが、生薬は製造会社、原料の産地、収穫の時期などで成分が異なることがあるため、注意が必要です。ドーピングにかからない風邪薬もありますので、薬局でご相談ください。

●その他の質問●

・医療改正とかで、お薬手帳を持って行った方が安くなるのは本当ですか。

・後頭部の痛みが続いている。片頭痛ですか？昨日寝不足です。

●苦情●

・飲み合わせとか色々質問したら露骨に嫌な顔をされた。

・薬局でだいぶ待たされた。薬局側は薬がなかったようだが、声もかけてもらえなかった。

・帯状疱疹後神経痛で6年間ガバペンをもらっていた。これまでは保険が効いて560円だったが、4月から自費だと言われた。2万円かかるという。＊後日チザニジンに変更になったと連絡があった。

・2008年にもらったロキソプロフェンナトリウムとグロリアミン顆粒があるけど、飲んでも大丈夫ですか？賞味期限とかありますか？

・薬の返品に取り合ってもらえない（３件）

参考：「通常、処方された薬を調剤し、投薬されたものは返品として受け付けられない。法的には返品は不可能になっている。健康保険法第６３条による療養の給付で薬剤または治療材料の支給は、診療や処置・手術等と同列であり、その行為をさかのぼってなかった事には出来ないとの解釈があるので、通常返品は行わない。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

＊薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

◇医薬ジャーナル　52巻5号
＊薬剤師に必須となる検査値の理解　～医師からのアドバイスと知っておくべきポイント～
◇医薬ジャーナル　52巻6号
＊特集1：超高齢社会における適正薬物療法の特質～ガイドラインの今日的役割と薬剤師の責務～
＊特集2・眼疾患におけるROCK阻害薬の可能性
◇エキスパートナース　32巻5号
＊すぐに動ける！－急変対応
◇エキスパートナース　32巻6号
＊これでわかった！－人工呼吸管理
◇きょうの健康　5月号
＊糖尿病
◇きょうの健康　6月号
＊血管の老化を防ぐ！
◇月刊薬事　58巻7号
＊薬剤師目線で実践する経口抗がん薬マネジメント
◇月刊薬事　58巻8号
＊向精神薬処方の最適化～多剤併用を回避せよ！
◇産科と婦人科　83巻5号
＊不育症 Up to Date
◇産科と婦人科　83巻6号
＊婦人科がんの診断・治療の最適化を目指して
◇総合診療　26巻5号
＊フィジカル改革宣言！　診断からフォローアップまで
◇総合診療　26巻6号
＊“賢い処方”と“ナゾ処方”
◇調剤と情報　22巻6号
＊症例から学んで実践！ 薬局プレアボイド
◇調剤と情報　22巻7号
＊“明日から…”ではもう遅い！　地域医療・介護を支える連携のヒント
◇調剤と情報　22巻8号（臨増）
＊薬局・薬剤師のための在宅緩和ケアスタートアップガイド
◇治療　98巻5号
＊こころの診療ファーストエイド
◇治療　98巻6号
＊多職種で取り組む摂食嚥下障害
◇日経ドラッグインフォメーション　222号
＊かかりつけ薬剤師になろう！！
◇日経ドラッグインフォメーション　223号
＊調剤報酬改定2016のインパクト
◇日経ドラッグインフォメーション　224号
＊小児の処方箋　5つの「困った」
◇日経メディカル　582号
＊緩和ケア7つの誤解
◇日経メディカル　583号
＊初心に返れ！心房細動診療
◇日本医事新報　4797号
＊過栄養と低栄養から読み解く高齢者の栄養管理
◇日本医事新報　4798号
＊脳刺激療法で治療できる症状・疾患
◇日本医事新報　4799号
＊高齢者CKDへの対応
◇日本医事新報　4800号
＊副鼻腔炎診療update
◇日本医事新報　4802号
＊心原性失神の対応マニュアル
◇日本医事新報　4803号
＊内科的疾患を合併した妊婦の周産期管理
◇日本医事新報　4804号
＊家族性高コレステロール血症治療の可能性を探る
◇日本医事新報　4805号
＊小児ヘルニア治療の現状と新展開
◇日本医事新報　4806号
＊腸内細菌の臨床応用の可能性
◇薬局　67巻5号
＊炎症性腸疾患
◇薬局　67巻6号
＊心房細動と抗血栓療法

【今月の論文等】

■薬物療法■

►適応外使用の処方せんの読み方　膵石症(71)
月刊薬事58(7) p.167
►適応外使用の処方せんの読み方 原発性胆汁性肝硬変(72)
月刊薬事58(8) p.163
►不適切処方をしない／放置しないための8箇条
総合診療26(6) p.451
►問題処方の中止・中断／再開の手順と注意点
総合診療26(6) p.459
►使ってはいけない！抗菌薬，なくてもよいのではないか？という抗菌薬
総合診療26(6) p.478
►医薬品適正使用のための 処方せんからみたファーマシューティカルアセスメント
痛み(肩が痛い) －前編－
調剤と情報22(7) p.91
►医薬品適正使用のための 処方せんからみたファーマシューティカルアセスメント
振戦(手がふるえる) －後編－
調剤と情報22(6) p.111
►止まらないしゃっくりにはバクロフェンが有効
日経ドラッグインフォメーション　222号p.21
►プロトピックの刺激感を減らす方法
日経ドラッグインフォメーション　222号p.29
►初診の高血圧患者にビタミンEを処方する理由
日経ドラッグインフォメーション　224号PE21
►パーキンソン病患者に処方された　ガスモチン
日経ドラッグインフォメーション　224号p.31
►肺炎に抗菌薬3剤を併用する理由

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

日経ドラッグインフォメーション　223号PE33
►リン吸着薬がピートルになった透析患者
日経ドラッグインフォメーション　223号PE37
►慢性腰痛にデュロキセチンをどう使う
日経メディカル　583号p.12
►胃瘻・経鼻に次ぐ第三の経管栄養法
日経メディカル　583号p.22
►副鼻腔炎の薬物療法
日本医事新報　4800号p.30
►不眠症治療薬
The Medical Letter日本語版　31巻14号p.95

■新薬■

►新薬くろ～ずあっぷ　ピートルチュアブル錠
調剤と情報22(6) p.87
►新薬くろ～ずあっぷ　ムルプレタ錠3mg
調剤と情報22(7) p.39

■安全性情報■

►また運ばれてきた！「薬剤の副作用」による救急搬送症例
総合診療26(6) p.486
►ヘプセラによる低リン血症
日経ドラッグインフォメーション　222号PE35
►軽度食道カンジダ症に対する抗真菌薬の副作用と重症化リスクは？
日本医事新報　4802号p.63
►薬剤による浮腫　NSAIDs，Ca拮抗薬，漢方薬
総合診療　26巻4号p.342
►副作用・薬物相互作用トレンドチェック
注目論文を読み解く(49)
1. ダビガトランによる可逆的な認知機能障害
2. リバスチグミンによるジスキネジア
3. 抗てんかん薬併用パターンの変化でバルプロ酸による高アンモニア血症発現率が減少
4. 子宮頸癌患者における重症の副作用とQOLの関連
5. レスベラトロール併用でジクロフェナクの血漿中濃度が上昇
6. プロトンポンプ阻害薬併用でメトホルミンの効果は減弱しない
医薬ジャーナル　53巻5号p.152
►副作用・薬物相互作用トレンドチェック
注目論文を読み解く(50)
1. セフェピムによる急性間質性肺炎
2. 高齢者ではCYP3A4で代謝されないスタチンでもクラリスロマイシン併用で有害事象リスクが上昇
3. 服薬アドヒアランスの悪い慢性腎臓病患者は有害事象発現リスクが高い
4. エベロリムスとボリコナゾールの併用で肺炎が悪化
5. セント・ジョーンズ・ワート併用でアンブリセンタンの血漿中濃度がわずかに低下
6. メサラジンによる心筋症
医薬ジャーナル　53巻6号p.156

■産婦人科■

►閉経期ホルモン療法の薬剤選択のポイント
日本医事新報(4792) p.57
►妊婦に出された喘息の吸入薬
日経ドラッグインフォメーション　222号p.27

■眼科・皮膚科■

►前立腺肥大の薬は白内障に悪い？
総合診療　26巻3号p.268
►スミスリン抵抗性のアタマジラミ症への対応
日本医事新報(4794) p.54
►掌蹠膿疱症における禁煙の重要性
日本医事新報　4797号p.57
►帯状疱疹の周囲への感染力とは？
日本医事新報　4805号p.63

■臨床検査■

►がん化学療法における薬局での臨床検査値の活用
調剤と情報　22巻2号p.59
►患者情報としての臨床検査値を使いこなし、処方の妥当性を考える
調剤と情報　22巻3号p.67

■服薬指導■

►「ゲートキーパー」としての薬剤師の役割
医薬ジャーナル　52巻2号p.101
►転倒・転落に対する薬剤師の関与～睡眠薬と転倒・転落の関連性～
医薬ジャーナル　52巻2号p.133
►がん患者サポート　気をつけたい患者との接し方
話しかけ方・内容
調剤と情報　22巻4号p.34

■漢方薬■

・漢方診療の基本中の基本　漢方診療の原則と副作用などの注意点
総合診療　26巻3号p.205

■サプリメント・栄養■

・カルシウムの経口摂取を増やしても骨密度は改善しない？
日本医事新報(4791) p.54
►高齢者における低栄養の問題
日本医事新報　4797号p.33

■薬剤師業務 他■

►５年間の蓄積より得られた実習生の自己評価を高くするために改善の必要な実習項目
医薬ジャーナル　52巻3号p.11
►がん化学療法支援ツールの共有による地域の薬薬連携
月刊薬事58(7) p.77
►情報共有ツールの活用と学習課題を明確化した勉強会
月刊薬事58(7) p.83
►薬局から始める取り組みで外来化学療法のサポートを
月刊薬事58(7) p.87
►がん患者指導管理はどうやって始めればよい？薬剤師外来の運用と有用性の評価
月刊薬事58(7) p.59

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

どのPPIを利用するか？

The Medical Letter日本語版　31巻13号

2015 年5 月ニューヨーク・タイムズ紙に、2013 年にメディケア・パートD で高額の薬剤費が支払われた薬剤10 剤が掲載された。最高額（25 億3千万ドル）は最近ジェネリック化されたプロトンポンプ阻害薬（PPI）、ネキシウム(エソメプラゾールマグネシウム)であった。PPI は胃食道逆流（GERD）の症状緩和とびらん性食道炎および消化性潰瘍の治癒に有効であり、一般に忍容性も良好である。いずれかのPPI が他より有効、あるいはより忍容性に優れるという明確なエビデンスはない。また、クロピドグレルとオメプラゾールまたはエソメプラゾールの併用により、臨床的に重要な有害心血管転帰を生じるかどうかは明らかでない。それでも、クロピドグレル投与患者では、ランソプラゾール、またはラベプラゾールを使用した方がよいだろう。PPI はいずれも消化性潰瘍およびGERD の治療効果が同等で、忍容性も良好なようである。ほとんどは、ネキシウムやその他の高価な先発薬のごく一部の費用ですジェネリック薬やOTC 製剤として購入できる。

突然の筋肉痛・浮腫および高血圧は漢方薬の副作用でしょうか？

日本医事新報　4804号

Q)高齢男性。補中益気湯，加味帰脾湯，抑肝散を服用。突然，右下肢筋肉痛，浮腫をきたし，血清K値 3.7mEq／Lを示した。抑肝散のみとしたところ，下肢の浮腫は引いたが収縮期血圧190mmHgとなった。

A）経過から漢方薬に含まれる生薬，甘草による偽アルドステロン症の可能性が高いようです。発症機序としては，腸内細菌によって甘草に含まれるグリチルリチンのグルクロン酸抱合が外れ，グリチルレチン酸として吸収され，通常は肝臓で再びグルクロン酸抱合を受けて3-モノグルクロニルグリチルレチン酸（3-MGA）となり，胆汁中に排泄されます。グリチルレチン酸もしくは3-MGAが尿細管の11βヒドロキシステロイドデヒドロゲナーゼの活性を抑えることによってコルチゾールがコルチゾンに代謝されずに，鉱質コルチコイド受容体に結合してNaの再吸収を促す。それにより、高血圧，浮腫，血清K値の低下をまねきます。

慶應義塾大学医学部
渡辺　賢治

帯状疱疹の周囲への感染力とは？

日本医事新報　4805号

Q）帯状疱疹の周囲への感染力はどの程度ですか。学校への出席や職場への勤務は，水痘に準じて休ませるべきですか。

A）水痘は発症24～48時間前より発現後4～5日，あるいは痂皮化するまで伝染力があります。帯状疱疹においても水痘よりは感染力は低下しますが，発疹出現3日前より唾液中にウイルスが排泄されるため，空気感染を起こし，皮疹が痂皮化するまでは接触感染で感染します。皮疹はカバーすることが原則となっています。帯状疱疹患者の免疫不全の有無によって，また播種性かどうかで感染力は異なります。免疫力が低下しているものほど，水痘疹が多いものほど，感染力は強くなります。したがって，米国CDCでは、水痘患者は痂皮化するまで休職、水痘患者の接触（未感染者）は接触後10-21日は休職、帯状疱疹患者は健常人は病巣部のカバーを行い、痂皮化するまで。免疫不全者は患者接触の制限、痂皮化するまでとするなどのガイドラインを出しています。

東京慈恵会医科大学 皮膚科
本田　まりこ

慢性腰痛に抗うつ薬デュロキセチンをどう使う？

日経メディカル　6月号

本年3月にセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）のデュロキセチン（商品名サインバルタ）の適応に、「慢性腰痛症に伴う疼痛」が加わった。デュロキセチンは、内因性の疼痛抑制機構に関与するセロトニンとノルアドレナリンの再取り込みを抑制することで下行性疼痛抑制系を賦活化し、鎮痛効果をもたらすと考えられている。『腰痛診療ガイドライン2012』では、急性・慢性腰痛とも薬物療法の第一選択薬はNSAIDsとアセトアミノフェンで、慢性腰痛に対する第二選択薬は、抗不安薬、抗うつ薬、筋弛緩薬、オピオイドを挙げていた。今回デュロキセチンとアミトリプチリンが使用できることになった。慢性腰痛患者を対象とした国内臨床試験では、副作用が50.9％に認められており、主なものは、傾眠（20.1％）や悪心（10.2％）だ。その他、前立腺肥大症患者への安易な処方で尿閉が生じる危険性や自殺企図、攻撃性の高まりなどの副作用も心配されている。厚労省は適応追加に当たり、適正使用への留意を求める通知を出している。

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

臨床現場で役立つ！　実例から学ぶ　TDMのエッセンス

【編集】日本 TDM 学会/TDM 実例集編集委員会　【発行】じほう　【発行日】2016 年 5 月
【版型/頁】A5 判/約 220 頁【定価】3,240 円（税込）

患者 1 人ひとりに適した投与設計を行い、適正な薬物療法を行うためのモニタリングが TDM です。患者の個人差や薬物の物性に違いなどにより、薬物の個体間および個体内変動が大きく、治療域の狭い薬物は、薬物治療における個別化投薬が難しいとされています。実例だからこそ学ぶことのできる、臨床上のヒントが詰まった実例集。

臨床力UPエクササイズ　③産科・婦人科領域

【監修】勝見章男、三浦崇則　【発行】じほう　【発行日】2016 年 3 月
【版型/頁】A5 判/232 頁【定価】2,592 円（税込）

基礎知識のおさらいと拡充、臨床で求められる思考力・対応力の強化がこの 1 冊でできる、診療科別問題集シリーズの第 3 弾！女性器に関する解剖学的な知識や女性ホルモンの働き、妊娠の仕組みなどから、代表的な婦人科疾患とその治療、妊娠中に生じる異常とその治療まで、産科・婦人科領域で押さえておきたい基礎知識を分かりやすく解説。さらに、妊娠中・授乳中の薬物治療で気を付けるべきことから、薬物の授乳への影響や母乳への移行に関する情報収集の方法、妊娠・授乳婦への服薬指導のポイントまで、臨床で活かせるノウハウを凝縮。

添付文書がちゃんと読める薬物動態学

【著者】山村重雄、竹平理恵子　【発行】じほう　【発行日】2016 年 3 月
【版型/頁】A5 判/176 頁【定価】2,592 円（税込）

「分布容積」「消失半減期」「クリアランス」3 つのキーワードがしっかり理解できる！！
「わかったつもり」を「わかった」にする「添付文書がちゃんと読める」シリーズの第 2 弾。薬物の体内動態を考えるうえで欠かせない「分布容積」「消失半減期」「クリアランス」の 3 つが理解できる 1 冊。

C型肝炎治療Q＆A

【編集】田中篤　【発行】南山堂　【発行日】2016 年 6 月
【版型/頁】B5 判/220 頁【定価】4,320 円（税込）

異なる作用機序の DAAs の登場により、経口薬のみによるC型肝炎治療が可能になった。ガイドライン作成委員で肝臓専門医のエキスパートが、C型肝炎ウイルスタイプ別、臨床検査値、併存疾患や併用薬剤の有無により、どのような患者に、どのような治療を行うべきか、新しい抗ウイルス療法を中心に、C型肝炎治療における疑問をQ＆A形式で答える。

認知症　気づけるわかるケアできるQ＆A 50

【編著】久米明人、山村恵子　【発行】じほう　【発行日】2016 年 5 月
【版型/頁】A5 判/132 頁　【定価】2,376 円（税込）

認知症に携わる医療職、介護職、患者・家族がよく遭遇する疑問・悩みへの解決策をコンパクトに解説。認知症を理解するのに欠かせない基本的な知識から、早期発見のために確認すべきポイント、より良い患者ケアを実践するコツまで、認知症医療の最前線で活躍する著者ならではのQ＆A50 本を取り上げた。医療機関で、在宅で、地域で、認知症患者への対応に自信が持てる 1 冊。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供　(2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行　(3)医薬品に関するお問い合わせ　(4)県薬ホームページの制作・管理　(5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」　(6)医薬品 PL センター窓口業務　(7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象)　平日　午前：8時30分～12時　午後：1時～5時30分　（土・日・祝日休業）
(一般対象)　「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」
平日（月～金）午前：9時～12時　午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931　　FAX：098-963-8937
沖縄県薬剤師会　薬事情報センター

＊　＊　海外文献から（JAPIC 医薬情報より）＊　＊

●Vitamin A の OTC サプリメントを過剰摂取し,食欲不振,脱毛症,肝毒性などを呈した1症例について　(N. Engl. J. Med. 374(9)873- (2016.3.3))

患者(男,54 歳)は,1 ヵ月間の下腿の浮腫および 1 週間の腹痛のため,救急科を受診。患者は強迫性パーソナリティ障害であった。服用薬はなし。CT 検査で大量の腹水がみられたため、低ナトリウム食,furosemide,spironolactone を開始し,退院した。肝静脈圧較差は高値。患者は 6 ヵ月前から 2 週間前まで vitaminA の OTC サプリメントを 7000-1367000IU/日,服用していた。vitaminA の毒性による肝外症状についても,食欲不振,足の皮膚乾燥,爪割れ,毛髪脱落を訴えた。肝生検により,vitaminA 誘発の肝毒性が強く示唆された。行動療法と食事療法により,退院後 1 年で,患者の状態は良好で,低用量の利尿剤により腹水は軽減し,脱毛症,食欲不振,爪ジストロフィーは完全に回復した。

●糖尿病治療薬と切断,失明,重度の腎不全,高血糖および低血糖のリスク:プライマリケアにおけるオープンコホート研究　(BMJ (8051)18- (2016.4.2))

糖尿病治療薬,特に gliptins や glitazones(thiazolidinediones)などを使用する 2 型糖尿病患者における下肢切断,失明,重度腎不全,高血糖および低血糖のリスクについて評価した。英国の QResearch データベース(1243 施設のデータ)を用いて,2007 年 4 月-2015 年 1 月に 25-84 歳の 2 型糖尿病患者 469688 例を対象とした。患者には血糖降下薬［glitazones,gliptins,metformin,sulphonylureas,insulin,その他の血糖降下薬(α-グルコシダーゼ阻害薬,glinides,ナトリウム グルコース共輸送体 2 阻害薬等)］が単剤あるいは併用にて投与されていた。主要評価項目は,下肢切断,失明,重度腎不全,高血糖,低血糖の最初の診断とした。glitazones の使用は非使用と比較して,失明リスクの低下,低血糖リスクの上昇と関連、gliptins の使用は低血糖リスクの低下と関連していた。gliptins および glitazones 単剤投与患者では metformin 単剤投与患者と比較して重症腎不全のリスクが有意に高かった。gliptins あるいは glitazones のいずれかと metformin の併用患者では,metformin 単剤投与患者と比較して高血糖のリスクが有意に低かった。

●Pioglitazone 使用と膀胱癌のリスク:集団ベースコホート研究　(BMJ (8051)18- (2016.4.2))

英国の Clinical Practice Research Datalink(CPRD)を用いて,2000 年 1 月-2013 年 7 月に新規に抗糖尿病薬の投与を開始し,2014 年 7 月 31 日まで追跡調査した 2 型糖尿病患者 145806 例を対象とした。Cox 比例ハザードモデルを用い,pioglitazone に関連した膀胱癌発症の調整ハザード比を推定した。thiazolidinedione, rosiglitazone についても同様の解析を行った。689616 人年の追跡調査において 622 例の患者が新規に膀胱癌と診断された。他の抗糖尿病薬の使用(thiazolidinedione 非使用:pioglitazone または rosiglitazone 非使用)と比較して,pioglitazone の使用は膀胱癌リスクの増加と関連していた。一方で,rosiglitazone の使用は膀胱癌リスクの増加とは関連していなかった。期間反応関係および用量反応関係が pioglitazone には認められたが,rosiglitazone には観察されなかった。膀胱癌リスクの増加はクラスの作用ではなく,pioglitazone に特異的であることが示唆された。

県民の皆様へ　薬達（やくたっ）ちゃーより

薬剤師会をご活用ください！

あまくま薬立（やくだ）つ情報

健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電　話　０９８－９６３－８９３０

おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電　話　０９８－９６３－８９３５

試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第１２条第１項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電　話　０９８－９６３－８９３４
e-mail　siken@okiyaku.or.jp

薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの〝かかりつけ薬局〟をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス　http://www.okiyaku.or.jp＞

第26回　暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会　狩俣 イソ

アロエ：ルグゥイ・ロカイ

学　　名　Aloe L.
科　　名　スキノキ科 Xanthorrhoeaceae
属　　名　アロエ属 Aloe
使用部位　葉、葉肉、液汁
有効成分　バルバロイン、アロエエモジン
　クリソファノール、アロエシン、アロイン

アロエの特徴

常緑多肉多年草、葉はふつう肉厚でロゼット状であるが、しばしば扇状や肉厚が薄いものも存在する。CAM型光合成（砂漠などの多肉植物や、水分ストレスの大きな環境に生息する着生植物に多く見られる光合成の一形態。CO2の取り込みを夜に行い、昼に還元する）を行う。花被は6弁が合着し管状で朱色～黄色。雌蕊(しずい)(めしべ)1つに対して雄蕊(ゆうずい)(おしべ)は6つある。花序は総状花序で花茎は数cm～1mに伸びる。花粉は主にタイヨウチョウ科の鳥が媒介する。茎は目だった茎を持たないものから高く伸びるもの、めったに分枝しないものから多数に分枝するものまで多様である。高木状に成長する種では幹の皮層の内側に維管束形成層が生じ肥大成長を行う。キダチアロエは南アフリカ原産の小型の種類。葉は青白い緑色で多肉質、ちぎるとゼリー状の粘液が出る。葉の間に筒状の朱色の花が咲く。アロエベラは地中海沿岸原産、高さ60～100cm、地面からすぐに葉を立ち上げる。

アロエの歴史

アロエはアラビア語のAllochに由来し、エーベル・パピルスに下剤としてセンナやヒマシとともに記載されており、エジプトでは紀元前20世紀頃から薬用とされていた。

紀元前4世紀、ギリシャやペルシャなどに遠征してマケドニア帝国をつくったアレキサンダー大王は、アリストテレスの進言により、兵士たちの健康のために、遠征前にソコトラ島で熱心にアロエベラを栽培させた。

東アジアには宋代にアロエの乾燥した塊が伝えられており、『開宝本草』に「奴薈」「蘆薈」の名で現れ、明代の『本草綱目』にも皮膚病薬として載せられている。

アロエの基原

第16改定日本薬局方：主としてAloe ferox Miller、又はこれとAloe africana Miller又はAloe spicata Bakerとの雑種（Liliaceae）の葉から得た液汁を乾燥したものである。定量するとき、換算した生薬の乾燥物に対し、バルバロイン4.0%以上を含む。

アロエベラはアメリカやヨーロッパ各国の薬局方の基原植物として規定されている。

漢方ではケープアロエなどの肉厚の葉の液汁を濃縮、乾燥したものをロカイという。

参考　wikipedia、亜熱帯植物資源データベース、薬用植物一覧

アロエ　葉、生　可食部100ｇ当たり　第七訂日本食品標準成分表（試料：アロエベラ及びキダチアロエ）

エネルギー	脂質	炭水化物	食物繊維	水分	リン	マグネシウム	カリウム
3kcl	0.1g	0.7g	0.4g	99.0g	2mg	4mg	43mg
ナトリウム	カルシウム	マンガン	パントテン酸	ビタミンB6	βカロチン	葉酸	ビタミンC
8mg	56mg	0.02mg	0.06mg	0.01mg	1μg	4μg	1mg

キダチアロエの抗腫瘍作用と育毛効果

キダチアロエのガン抑制作用（前癌病変を防ぐ)や抗腫瘍作用が認められている。また、頭皮に必要なⅠ型コラーゲンの産生を促進する作用、毛の生え変わりサイクルである毛周期関連因子の発現を促進する作用、薄毛の原因であるとされる5アルファリダクターゼ(男性ホルモンの影響で発生する酵素）の働きを阻害することがわかっている。

アロエベラの薬効

アロエベラは、美白作用や皮膚ガンの予防や改善に役立つ働きがある。抗ガン剤シスプラチンや抗HIV剤ジドブジンなどによる副作用を軽減させることや、白血球の減少や骨髄障害などを抑制する働きのあることが明らかになっている。

アロエベラの抗炎症作用は、MMP9マトリックスメタロプロテアーゼ(炎症マーカーのひとつ）阻害研究の中でわかったのだが、アロエ抽出物を加えた末梢血単核細胞(PBMC)では、MMPの産生を濃度依存的に抑制することが確認された。またゲル状物質(葉の中央にある柔組織に存在する粘性の物質）の外用は、痛みや火傷の回復に対して有効性が認められている。

アロエステロール

アロエベラの葉肉に含まれる5つの植物ステロールの総称。体内に吸収され、血中に移行することが確認された。真皮に到達すると“皮膚線維芽細胞”に働きかけてコラーゲンとヒアルロン酸の合成を促進する。光老化モデルマウスを用いた試験においては、アロエステロール濃縮抽出物の経口摂取により、紫外線照射で誘導される皮膚水分量の低下と、シワ形成が予防されることが確認され、コラーゲン線維が密になり、向きも整っている様子が観察された。

またアロエステロールが糖・脂質代謝調整にかかわるペルオキシゾーム増殖剤応答性受容体のリガンド活性を有することを確認し、抗肥満効果や抗糖尿病効果を確認している。

腸ポリープを発症するモデルにおいて、アロエステロール濃縮物摂取により、小腸と大腸のポリープの総数を優位に抑制した。また低下した血漿高分子アディポネクチン量が改善した。アディポネクチンはインスリン受容体を介さない糖取り込み促進､脂肪酸の燃焼、細胞内の脂肪酸を減少してインスリン受容体の感受性を上げる、肝臓のAMPキナーゼを活性化させることによるインスリン感受性の亢進、動脈硬化抑制、抗炎症、心筋肥大抑制などの作用を有する。

アロエマンナン

アロエマンナンは多糖類で、抗腫瘍、抗炎症、新陳代謝を高め肌の老化防止作用などがある。

クリソファノール（chrysophanol）

クリソファノールは、大腸に水分をもたらすことにより、自然な便通を促し、常習性もなく､効果が悪くなるという心配もない。

バルバロイン（barbaloin）

バルバロインは少量で胆汁分泌促進、腸管運動促進する。腸内細菌により代謝されアロエエモジンアンスロンとなり、その成分が腸管運動を促進し、瀉下活性をあらわす。

アロエエモジン

アロエエモジンには解毒作用があり、二日酔いなどにも効果があるといわれる。子宮収縮作用が有るため、妊娠中の使用は早産や流産を引き起こす恐れがあるため避けるべきである。また、長期間の多量摂取や12歳以下の小児の摂取、授乳中や月経時及び腸の病気の場合、摂取には注意が必要である。

アロミチン

アロミチンは、細菌の出す毒素を解毒する作用があり、耐性菌の発生要素がないので、長期間使用が可能である。またウィルスの出す毒素を解毒する｡ネズミを使って､ガンウィルスに対する抑制作用を確認した。抗ガン作用、抗腫瘍作用、抗ウィルス作用、抗潰瘍作用、殺菌･抗カビ効果などが認められている。

参考　ヘルス研究所・千葉大学・小林製薬KK・近畿大学薬学総合研究所・東北大学大学院農学研究科・森永乳業・京都大学大学院農学研究科・藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所・福山大学薬学部・藤田保健衛生大学・国立ガンセンター研究所

沖縄でアイスホッケー

琉球大学医学部附属病院薬剤部
教授・薬剤部長　中村 克徳

平成27年8月1日から琉球大学医学部附属病院の薬剤部に勤めています。よろしくお願い致します。

私は北海道出身です。アイスホッケーで有名な「氷都」苫小牧市で生まれました。薬剤師会の研究会や懇親会の席で、私の趣味がアイスホッケーと言っていたせいか、沖縄でアイスホッケーチームに参加させていただいています。

アイスホッケーは氷上の格闘技といわれるカナダ発祥のスポーツで、プロ選手によるナショナルホッケーリーグ（NHL）は1917年度からカナダやアメリカで開催されています。北米では4大プロスポーツの一つとして大変人気があります。日本では、日本アイスホッケーリーグが1966年から2004年まで開催されていましたが、現在は国際化が進んでアジアリーグアイスホッケーとなり、日本、中国、韓国、ロシア（極東地域）のアイスホッケー連盟が参加して行うクラブチームの国際リーグ戦となっています。2004年には、SMAPの木村拓哉さん主演、竹内結子さんヒロインのテレビドラマ「プライド」が放送され一時的なブームになりました。この頃にアイスホッケーを始めた方も多いようです。

意外にも沖縄には、南風原町のスポーツワールドサザンヒルに一年中滑ることができるスケートリンクがあり、スケート競技には適した環境です。私がお世話になっているのは社会人のチーム“PHOENIX”です。PHOENIXには、伝説の名プレーヤーであり、元オリンピック選手の三沢悟選手が所属しています。沖縄で初めて三沢選手にお会いした時に握手していただき、とても感動しました。私の参加した第3セットは偶然にも薬剤師に縁があり、レフトウイング（LW）はおもろまちメディカルセンター薬剤師の勢理客選手、ライトウイング（RW）が薬剤師の私、二人をまとめるセンターフォワード（CF）の山城選手のご子息は、現在薬学部の学生です。先日、2月14日の試合では、東京バンスターと対戦し、7対2で勝利、2月16日の試合では、中・四国、近畿の西日本オールスターズと対戦し、3対0で勝利しました。両試合ともチームメイトの絶妙なアシストを受けて、1点ずつゲットしました。ちなみに、今年の1月27日に岩手県で開催された第71回国民体育大会冬季大会のアイスホッケー成年1回戦では、三沢監督が指揮を執る沖縄県代表が7対2で鹿児島代表を下し、国体初勝利を挙げました。

また、琉球大学にも、男女ともに初心者から始められるアイスホッケー部があります。昨シーズンには九州リーグで初の1部昇格を果たしたようです。さらに、琉大医学部には米軍のアイスホッケーチームに所属している学生もいます。薬剤師会の先生もお時間のある時にサザンヒルにお越しいただき、是非アイスホッケーにも参加してください。スケートリンクは夏でも涼しくて快適です。お待ちしております。

左から、中村、山城選手、勢理客選手

琉大病院薬剤部の皆さんに差し入れしてもらいました

次号には、古謝さなえ先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

薬連だより

平成28年度
沖縄県薬剤師連盟評議員会報告

日時：平成28年6月19日（日）13:00 ～ 13:25
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

沖縄県薬剤師会事務局
次長　山城 英人

沖縄県薬剤師会通常総会に先立ち当連盟評議員会が開催され、司会進行は姫野耕一副幹事長が務めた。

始めに亀谷浩昌会長より挨拶され、消費税増税が先送りされたことを受け、国家予算からは、社会保障費の削減が予想されることから、平成30年に控えた調剤報酬と介護報酬の同時改定となることで予算の取り合いとなるだろう。よって7月10日に控えた参議院議員選挙において推薦候補者藤井もとゆき氏を必ず政治の場へ送り出さなければ、それらが議論される政治の場に薬剤師がいないことになってしまう。必勝を期するために、職能団体として政治力が必要不可欠であることをあらためて会員の皆様にご理解いただき、強力なお力添えを賜りたいこと等が述べられた。

続いて、都合により欠席した吉田久子幹事長の代わりに石川恵市副幹事長より、報告第1号平成27年度会務経過報告で、昨年度は、藤井もとゆき必勝のために、後援会名簿収集のお願いで各地区薬剤師会、各医薬品卸、各企業団体等への訪問はもちろんのこと、沖縄県選出国会議員への医薬分業の規制見直し反対の陳情や琉球大学病院移転に伴う薬学部設置のへのお願いを申し入れたこと等が報告された。

次に報告第2号平成27年度会務並びに会計監査報告を友利弘一監事が報告された。

議案に入り、議案第1号平成27年度決算承認の件を山里勇会計担当、議案第2号平成28年度活動計画案を石川恵市副幹事長より、7月の参議院議員選挙に向けての活動が重点項目となること、議案第3号平成28年度予算案の件を山里勇会計担当より述べられ、各議案について満場一致で了承され、終了した。

司　会
姫野 耕一
副幹事長

報告第1号
議案第2号
石川 恵市
副幹事長

報告第2号
友利 弘一
監事

議案第1･3号
山里　勇
会計担当

薬連だより

国会レポート
骨太の方針2016

参議院議員・薬学博士
藤井 もとゆき

第24回参議院議員通常選挙は7月10日に投開票が行われ、無事3期目の当選を果たすことが出来ました。

選挙戦の序盤、イギリスの国民投票でEU離脱が勝ったという衝撃的なニュースが全世界を震撼させ、株価は大きく下落し、外国為替市場では一時1ドル100円を割り込むなど世界経済に対する不安が急激に高まり、論戦の一つとして経済問題が大きくクローズアップされ、選挙結果への影響が懸念されましたが、結果的には自公与党政権が信任を得るところとなりました。

さて、「経済財政運営と改革の基本方針2016」いわゆる骨太の方針2016は、「日本再興戦略2016」、「規制改革実施計画」や「ニッポン一億総活躍プラン」などとともに、6月2日の臨時閣議にて決定されました。

今回の骨太の方針では現下の経済情勢について、アベノミクスの取り組みにより企業収益は過去最高水準となり就業者数は増加し、3年連続でベースアップの流れも広がりつつあるなど雇用・所得環境は大きく改善しているものの、中国の成長鈍化や石油などの資源価格低下により世界経済の不透明感が増していることもあって、国内経済は個人消費や設備投資に力強さを欠いており、アベノミクス第2ステージのもとで、経済・財政一体改革を推進していく必要があるとしています。また、昨年度の骨太の方針で決定した、2020年度のプライマリーバランスの黒字化の実現と2018年度までの3年間を集中改革期間として取り組みを進める「経済・財政再生計画」を着実に実施するとともに、経済・財政再生アクションプログラムに沿ってワイズスペンディングを強化することなども明記されています。

社会保障については、国民皆保険・皆年金を維持し次世代に引き渡すことを目指し、「経済・財政再生計画」に掲げられた医療・介護提供体制の適正化、負担能力に応じた公平な負担、給付の適正化、薬価・調剤等の診療報酬及び医薬品等に係る改革等に係る項目について、改革工程表に沿って着実に実行していくとしています。

具体的には、医療費適正化計画に後発医薬品の使用割合80%に向けた使用促進策を記載するとともに、重複投薬是正に関する目標などの設定を行い、その取り組みを推進するとしています。また、今年度の診療報酬改定の影響、特に調剤報酬について、患者本位の医薬分業を実現する観点から、かかりつけ薬剤師による服薬指導等の効果を検証するとしています。

消費税率の引き上げが先送りされたなかで、再来年には医療報酬と介護報酬の同時改定が予定されています。医療や介護など社会保障の充実を図り、誰もが安心して心豊かに暮らせる社会を築いていくため、これからも国政の場でしっかりと仕事をして参りたいと思います。

藤井もとゆきホームページ　**http://mfujii.gr.jp/**

平成27年度 第10回定例理事会 議事概要

日時：平成27年12月12日（土）19:00 ～ 21:40
場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

＜出席者＞
会　　長：亀谷浩昌
副 会 長：外間惟夫
理　　事：山里　勇、村田美智子、我喜屋美香、川満直紀、成川賢一、佐藤雅美、新垣秀幸
　　下地　仁、幸地良信、吉田洋史、笠原大吾、荒井千春、吉冨弓江、石川恵市
監　　事：友利弘一
欠　　席：江夏京子、前濱朋子、宮城敦子、姫野耕一
事 務 局：山城英人、金城みどり

議題

(1) 会営薬局とよみの軟膏・水剤監査システム購入について　＜資料配布＞

（山城課長）
現在、散剤監査システムは稼働しているが、軟膏・水剤の調剤にも監査システムを導入して効率化を図りたい。2社から見積もりがあり安価な方を選択したい。

（成川理事）
レセコンと連動させた方がより効率的ではないか。

（亀谷会長）
監査システムを購入し、レセコンとの連動することについては、現場と相談し判断することでよろしいか。

満場一致で了承された。

(2) 平成27年度パート職員冬季賞与について　＜資料配布＞

（山里常務理事）
上期の財務状況が良好であることから、支給基準に沿って、資料のとおり支給してよろしいか伺いたい。

満場一致で了承された。

(3) 沖縄県薬剤師会創立90周年について　＜資料配布＞

（亀谷会長）
来期、本会が90周年を迎える。80周年の時には、薬と健康の週間の県民公開講演会で大きく呼びかけをし、1,000名余の来場者であった。また本島縦断駅伝を開催しかかりつけ薬局を呼びかけた。10年後には、100周年となるため、90周年記念事業については、手間をかけずに行いたい。ご意見を伺いたい。

（我喜屋常務理事）
定例で開催している行事に90周年記念を抱合せてはどうか。また記念誌作成については70周年記念誌以来となるため、90周年記念誌を作成しないと100周年のときには苦労するのではないか。

（亀谷会長）

90周年記念事業については大小何かしら開催することとし、事務局と相談し次回の理事会で案を提示したい。

(4) 経理職員退職に伴う職員採用について　＜資料配布＞

（山城課長）

経理担当職員の退職に伴って、現在産休代替要員として派遣業者からの派遣職員を正職員に登用したい。

（吉田理事）

中途採用の給与はどのようになっているか。

（山城課長）

中途採用内規では、限度額は事務職員給与表10号給となっている。経験等そして、他の職員とのバランスを考えて、9号給か10号給で検討したい。

（吉田理事）

かなり給与所得がアップすると思われるが、内規にとらわれずに検討してはどうか。現在の本人の所得との比較資料をみてみたい。

（事務局、一旦中座して資料を作成し資料の説明があった）

（亀谷会長）

本人を正職員にすることは申し分ないため、給与設定については、現在の所得を基本として財務委員長と相談し検討したい。

(5) 平成27年度薬事功労者合同祝賀会について　＜資料配布＞

（山城課長）

資料は平成27年度薬事功労者合同祝賀会の受賞者一覧である。県薬で把握できない受賞者がいないか各地区で確認していただきたい。また招待者一覧、チケットの各地区・部会への割り当ても例年通りとなっている。次第案の確認と司会及び余興についても推薦いただきたい。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について　＜資料配布＞

(2) なは健康フェア　11月15日（日）沖縄セルラーパーク

（川満常務理事）

那覇市主催で相談員が9名で10時から15時まで行った。相談者が途切れず多くの方が訪れていた。

(3) 平成27年度年金委員・健康保険委員合同研修会（講師派遣）11月17・24日（火）＜資料配布＞
浦添市産業振興センター　結の街・沖縄産業支援センター

（我喜屋常務理事）

全国健康保険協会沖縄支部主催で、加入者に対する意識啓発を目的とした「ジェネリック医薬品に係る講演」の講師をした。これは、各企業の社会保険事務担当者を対象としており、さらなるジェネリック医薬品の普及啓発に取り組む計画となっている。

(4) 個別指導　11月19・26日/12月10日（木）那覇第一地方合同庁舎

集団的個別指導　12月10日（木）那覇第一地方合同庁舎

(5) 第4回沖縄県地域医療構想検討会議　11月19日（木）県庁　＜資料配布＞

（亀谷会長）

医療費が増大する中、どう医療費を抑えつつ目指すべき医療提供体制の実現のための施策について協議する会議であるが、終始、医師側のベッド数の話となっている。意見として医療費抑制のために薬局が地域情報拠点としてのセルフメデュケーションを担っていくことと、県内の薬剤師不足、さらに北部、離島での薬剤師不足を訴えた。

(6) 平成27年度沖縄県薬剤師会在宅医療支援薬局限定　無菌調製の実践講座
ーTPN・麻薬・抗がん剤ー　11月19・26日/12月3日（木）県薬　＜資料配布＞

（荒井理事）

テーマ「TPN」「麻薬」「抗がん剤」の3回に分けて開催した。終了後アンケートを実施した。アンケート内容は、開催した日時やテキストやスライドの見易さ、講義の内容等について行った。結果を今後の参考としたい。また資材費として「TPN」について7万円弱で「麻薬」「抗がん剤」については、メーカーから無償提供して頂いた。今回の参加対象は、在宅支援薬局としたが今後対象を広げていくのか検討していきたい。また今後、会営薬局うえはらの無菌室共同利用についても研修会を開催していく。

（亀谷会長）

県薬事業において在宅分野は、積極的に推進していく目的があるため、必要経費については負担していきたい。しかし在宅事業が一定の水準に達したらその限りではない。

(7) 平成27年度　健康おきなわ21推進協議会　11月20日（金）ホテルチュラ琉球　＜資料配布＞

前濱副会長が出席した。

(8) 平成27年度第3回都道府県会長協議会　11月21日（土）城山観光ホテル　＜資料配布＞

（亀谷会長）

主な資料を抜粋した。「次期調剤報酬改定について」や「患者のための薬局ビジョン」及び「健康サポート薬局のあり方」また学生会員に会費を無料とすること等について協議された。

(9) 鹿児島県薬主催歓迎レセプション（日薬大会）　11月21日（土）城山観光ホテル

(10) 健康とおくすり相談会　11月21日（土）健康福祉センターうるみん

（佐藤理事）

相談員11名、相談者62名で血圧計や体成分測定器を用いて開催した。

(11) 日本薬剤師会学術大会　11月22・23日（日・月）鹿児島　＜資料配布＞

（亀谷会長）

22名が参加した。2万円の補助金を16名に支出した。全体で7,500名余りが参加していた。

(12) 九州地方社会保険医療協議会　11月24日（火）沖縄県合同庁舎

江夏副会長が出席した。

(13) 管理者会議　11月24日（火）県薬

(14) 会営薬局とよみ　打ち合わせ　11月24日（火）会営薬局とよみ

（我喜屋常務理事）

管理薬剤師兼務許可にともない日曜日・祝祭日の勤務として管理薬剤師である協力薬剤師が7名程業務トレーニング中である。

（山城課長）

薬剤師の勤務状況については、12月に入り、平日に入っていただいていた協力薬剤師の数が各諸事情により減ってきている。これまで1年から１年半にわたり協力いただき心から感謝し

ている。減ることで薬剤師が4名から5名となる日も見受けられ、かなり厳しい状況である。職員はもちろんのこと緊急にそれらに代る協力薬剤師を募集していきたい。理事の皆様からの情報提供を強くお願いしたい。

(15) 支払基金専門薬担当者　来訪　11月25日(水) 県薬

亀谷会長が対応した。

(16) 平成27年度第3回学術研修委員会　11月25日(水) 県薬

(外間副会長)

学術大会の総評をした。年々参加者が増え、県薬会館の収容人員を超えてきたため、他会場との連携も検討事項である。進行については、もう少し演題数を減らし質疑応答を増やしてはどうか等の意見が出たが、減らさずに休憩時間の調整や座長の権限を強化し時間配分を検討する必要性について意見が出た。

それ以外では、症例検討入門研修会の来年の実施等について協議した。

(17) 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業講演会　11月25日(水) 県薬　＜資料配布＞

(笠原理事)

35名の参加があった。広島大学大学院教授の森川則文氏に「医薬品の適正使用に向けたマイクロTDMと薬剤師の役割」の演題でご講演頂いた。また県薬でヘモグロビンA1C測定器を4台購入したことで、その体験測定を行った。

(18) 平成27年度第4回広報委員会　11月26日(木) 県薬　＜資料配布＞

(19) 監事監査　11月27日(金) 県薬

(友利監事)

事務局が準備した平成27年4月から9月までの前期資料をもとに監査した。結果、適正に執行されていた。今回事務局に事業の予算及び執行状況資料を求めていたが準備時間が足りなかったとのことで資料が無かったため、次回には準備の程お願いしたい。

(20) 平成27年度第3回医療安全対策委員会　11月27日(金) 県薬　＜資料配布＞

(吉冨理事)

主な議題として、翌年2月14日開催予定している平成27年度医療安全講習会の講師(特別講演:社会医療法人社団千葉県勤労者医療協会船橋二和病院薬剤科中村建先生　基調講演：会営薬局医療センター前柴田忠佳先生）や役割分担、集合評価表等に関することであった。また医療事故調査制度について9月に県医師会における協議会にて、薬剤師を調査委員の構成員とするよう亀谷会長が要請をした。追って10月に沖縄県医師会医療事故調査支援委員会委員の推薦依頼が届き、亀谷浩昌会長と薬事情報センターの吉田典子氏を推薦した。次に薬剤師以外の者による調剤行為事案の発生について厚生労働省医薬品食品局総務課長からの通知をもとにどこまでが認められるのかとの議論になり、基本的に薬剤師以外の者が医薬品に触れることは避けた方が良いとの見解となった。

(21) 日本薬剤師会　災害対策委員会　11月27日(金) 日薬　＜資料配布＞

(吉田理事)

災害対策担当者全国会議を翌4月27日に開催を予定している。内容は今後検討していくことになっている。

(22) 組織強化委員会　11月30日(月) 県薬　＜資料配布＞

(亀谷会長)

今回は組織強化についてディスカッションしながらざっくばらんに、意見交換した。これま

でのアンケートの内容をもとに会員を増やすことについて意見交換した。

病院薬剤師へのアンケート結果からは会費が高い、メリットを感じない、県病薬の研修会等で事足りている等の内容であるため、当面は、病薬会員を増やすことありきで考えずに、現存会員のスキルアップ研修会を充実させながら、病薬がメリットを感じる研修会につなげていってはどうか。案として「これからのかかりつけ薬剤師を目指してのスキルアップ研修会」と題してシリーズでサプリメント・検査値・漢方・一般用医薬品等について月に2回程度で開催していきたい。これは各委員会に振らずに会長と事務局で講師の推薦も含め検討し開催していきたい。

(23) 健康情報拠点事業打合せ会議　12月1日(火) 県薬

(笠原理事)

11月25日に開催した「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業講演会」に続く次回の打ち合わせを行った。

(24) 沖縄県女性薬剤師部会主催　漢方セミナー　12月2日(水) 県薬

(村田常務理事)

今回は清水先生によるシリーズの漢方講座ではなく、新たに漢方セミナーとして開催した。県内のNaoko女性クリニック院長髙宮城直子先生に講師をお願いし、ツムラとの共催で行った。テーマは「不定愁訴と漢方」で56人の参加があった。

(25) 薬剤師確保事業　12月3日(木) 九州保健福祉大学
12月9日(水) 岐阜薬科大学

九州保健福祉大学には、こくら虹薬局の大城なつき先生と事務局大城そして岐阜薬科大学には、前濱常務理事と事務局大城が出向き、積極的に薬学生対して沖縄の現状を話し卒業後のIターンUターンを勧めた。

(26) 平成27年室内環境学会学術大会

12月3・4日(木・金) 沖縄コンベンションセンター　＜資料配布＞

試験検査センターの小泉が参加した。

(27) 個別指導　12月3日(木) 八重山合同庁舎
集団的個別指導　12月4日(金) 八重山合同庁舎

(28) 平成27年度都道府県薬剤師会スポーツファーマシスト担当者合同研修会

12月4日(金) TKP市ヶ谷カンファレンスセンター　＜資料配布＞

(笠原理事)

毎年開催されている会議で情報交換の場となっている。全国にスポーツファーマシストは現在6000人おり、今年も1000人程資格取得している。スポーツファーマシストは、薬を正しく使う旨の各競技団体等への研修会講師や次世代を担う子供たちへの啓発等を行っている。

(29) 石垣市健康福祉まつり　12月6日(日) 石垣市健康福祉センター　＜資料配布＞

(幸地理事)

薬剤師会のブースを設け「ちびっ子調剤体験」を行った。170名の参加があり、大盛況であった。

(30) 会館ワックス清掃　12月6日(日) 県薬

(31) 第3回九州山口各県代表者会議　12月7日(月) 福岡県薬　＜資料配布＞

(亀谷会長)

始めに「九州山口ブロック薬剤師会求人情報WEBサイト」について、各県の負担は従来通り毎月5,000円、不足分は福岡県薬が負担する。次に「第77回九州山口薬学大会（熊本大会)」の、

(1)各協議会について（禁煙対策委員会）（薬事情報センター連絡協議会）（薬剤師会事務局長連絡）これらの協議会については運営上の負担が開催する意義につり合っているか疑問であるため、次回の九山熊本大会から廃止したいとのことで、各県の意向についてアンケート調査をする。(2)要旨集について、日薬鹿児島大会で作成した講演要旨集のように、これまでの学術大会要旨集は重くてかさばる、郵送費が高額になる。携帯にも不便なので次回の九山熊本大会では作成せず、CD-ROM化したい。ただし、要旨集の簡略版は作成する。と熊本県薬から提案があった。沖縄県薬としては賛成を表明した。長崎県以外は概ね賛成であった。

(32) 年次電気保安点検　12月8日(火) 県薬

(33) 薬学生実務実習受入委員会　12月8日(火) 県薬　＜資料配布＞

（我喜屋常務理事）

報告事項では、次年度のWS参加について6名獲得の予定である。その中に八重山地区を1枠入れたい。次年度も、指導薬剤師不在地区・地区推薦者、希望者（公募）を中心に推薦していく。協議事項では、今年度2期の実習評価・反省等として、各実習施設・各地区担当者からアンケートを実施した。日本医薬品卸売連合会より「実務実習薬学生の受入協力におけるガイドラインと留意点」が示された。6月の日薬の研修会伝達講習の日程・担当・方法等を話し合った。各地区のマッチング状況報告として22名中21名終了している。

(34) 薬業連合会　代表者会議　12月9日(水) 沖縄都ホテル

上記関連事項で報告された。

(35) 防火管理・防災管理「新規講習」　12月10・11日(木・金) フェストーネ

（山城課長）

県薬会館に防火管理者を置く必要があるとのことで、会長より山城が防火管理者として任命され、受講してきた。

(36) 平成27年度第1回「健康なは21」歯科保健推進会議

12月10日(木) 那覇市保健所　＜資料配布＞

大城恭子先生が出席した。資料をご覧いただきたい。

(37) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について　＜資料配布＞

上記関連事項で報告された。

(38) こども医療費助成自動償還について　＜資料配布＞

（山城課長）

こども医療費助成自動償還について、各医療機関から国保連合会には紙媒体での請求となっているところ、国保連合会側は作業効率を図る上でオンライン請求に対応していく意向とのことである。そこでオンライン請求を推進していくためにオンライン請求に移行した医療機関に対して現在の請求手数料1件につき16円から20円に値上げを検討しているとのことである。

報告（薬連）

(1) 中部地区薬剤師会理事会訪問　11月17日（火）中部地区薬剤師会事務所

（亀谷会長）

藤井もとゆき後援会名簿のお願いで、中部地区薬剤師会理事会、アトル、那覇地区薬剤師会理事会、沖縄東邦、沖縄県病院薬剤師会役員会、沖縄県登録販売者協会主催の研修会を訪問した。

(2) 株式会社アトル訪問　11月18日（水）株式会社アトル

上記関連事項で報告された。

(3) 宜野湾市長選挙への推薦状交付　11月19日（木）佐喜真アツシを支える市民の会事務所

（亀谷会長）

通常、市長選挙では那覇市長選挙以外への推薦状の交付を控えているが、今回西普天間地区への琉球大学病院移転の際の薬学部設置や会営薬局うえはら移転についての事柄があるため対応した。

(4) 茂木選対委員長・山口組織運動本部長を囲む宜野湾市長選の対策会議

11月20日（金）佐喜真アツシを支える市民の会事務所

事務局山城が出席した。

(5) 那覇地区薬剤師会理事会訪問　11月20日（金）県薬

上記関連事項で報告された。

(6) 沖縄東邦訪問　11月25日（水）沖縄東邦

上記関連事項で報告された。

(7) 沖縄県病院薬剤師会役員会訪問　11月27日（金）琉大

上記関連事項で報告された。

(8) 会長挨拶（登録販売者生涯学習研修にて）　1月29日（日）県薬

上記関連事項で報告された。

(9) 西普天間住宅地区における国際医療拠点の形成に関する市民報告会

11月29日（日）宜野湾市農協会館

（亀谷会長）

宜野湾市の主催で開催された市民報告会で、琉球大学病院移転の話が聞けないかと思い参加したが、そのような内容ではなかった。

(10) その他

（友利幹事）

理事会の進行へのアドバイスとして、議題等においては、質問等を予測して回答、資料等を整理しておく必要性を感じた。

平成27年度 第11回定例理事会 議事概要

日時：平成28年1月16日（土）19:00 ～ 22:00
場所：沖縄県薬剤師会館 会長室・会議室

＜出席者＞
会　長：亀谷浩昌
副会長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子
理　事：山里勇、我喜屋美香、村田美智子、川満直紀、笠原大吾、下地仁、幸地良信
新垣秀幸、姫野耕一、吉田洋史、荒井千春、吉冨弓江、佐藤雅美、石川恵市
成川賢一
監　事：大城桂子
事務局：山城英人、前原里江

議題

(1) 不動在庫・備蓄ネットワークシステム(MEDISS)使用に於ける規約書について

（山城課長）

平成22年より不動在庫・備蓄ネットワークシステム（MEDISS）が稼働、現在約120薬局が参加し運用している。運用使用に於ける規約書の変更を提案する。現在は、「第1条　MEDISSを使用できる保険薬局は、沖縄県薬剤師会の会員のみとする」とあるが、「賛助会員B会費を納付していること及び管理薬剤師が正会員であること」とし、明確にしたいということで承認された。

(2) 経理職員退職に伴う職員採用について

（山城課長）

この議題については、先月からの継続議題となっている。資料より現在のおおよその支給額と比較しご検討いただきたいということで基本給等が決定・承認された。

(3) 平成27年度沖縄県交通遺児育成会への募金について

（山城課長）

歯科医師会・看護協会・薬剤師会においては5万円ということで統一し募金を行っている。
例年通り（5万円）承認された。

(4) 沖縄県薬剤師会館使用の県薬用予備日設定について

（山城課長）

各委員会、部会がそれぞれ研修会や行事を企画しているが、すでに、製薬メーカーや他団体へ会館貸出の予約が入っていることが多く、開催日程の調整に苦慮している。そのため今後は毎月最終の週末（土日）は他団体等への貸出を控えて、県薬用（地区・部会含む）予備日としてはどうかということで承認された。

(5) 沖縄県薬剤師会創立90周年にむけて

（亀谷会長）

平成28年10月10日は、沖縄県薬剤師会の創立90周年にあたる。創立90周年事業を開催するかどうか検討いただきたい。

協議の結果、薬と健康の週間の「県民公開講演会」、または学術大会の特別講演会で90周年記念特別講演会として実施してはどうかということで承認された。

(6) 平成28年2月幹事会、理事会開催日の調整について

幹事会2月第1火曜日（2月 2日）→第2火曜日2月9日へ

理事会2月第2土曜日（2月13日）→第3土曜日2月20日へ

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

(2) 神村武之先生沖縄県薬剤師会会長退任慰労会　12月13日（日）沖縄都ホテル

（山城課長）

今回、105名の参加があった。収支差額が24,391円となっている。実行委員会と相談し、収支差額分を薬剤師会へ寄付という形で処理する。

(3) 平成27年度第3回医薬分業対策委員会　12月14日（月）県薬

（江夏副会長）

①2月7日（日）に「健康サポート薬局の実現に向けて」をテーマにSGD研修会が予定されている。②日薬版電子お薬手帳に及び不動在庫・備蓄ネットワークシステムの説明会を1月30日（土）に決定した。電子お薬手帳については、大阪府薬剤師会理事・日本薬剤師会情報システム検討委員会副委員長である堀越博一先生にお願いした。各社色々ある中で、本会は日薬版を推薦する。不動在庫・備蓄ネットワークシステムについては、現在120の薬局が登録されているが、今後さらに参加薬局を増やすための取り組みが必要である。吉田理事に講師をお願いしている。

(4) 薬剤師確保事業　12月15日（火）名城大学・12月18日（金）北陸大学

（川満常務理事）

12月18日（金）に北陸大学を訪問した。沖縄県においての薬剤師不足の状況について説明。卒業後、沖縄県に戻って薬剤師として活躍してほしいと話した。さらに、求職の際は派遣業者等に頼らず、沖縄県薬剤師会を利用していただきたいと伝えた。

（前濱副会長）

12月9日（水）岐阜薬科大学、12月15日（火）名城大学を沖縄県の薬務疾病対策課津波氏にご同行いただき訪問した。岐阜薬科大学では11名の生徒が参加、大変好評だった。

(5) 財務に関する打合せ会議　12月16日（水）県薬

（山里常務理事）

職員の給与表の見直しを検討・協議している。

(6) 集団的個別指導　12月17日（木）那覇第一地方合同庁舎

(7) 地域医療支援病院運営委員会　12月17日（木）豊見城中央病院

（亀谷会長）

豊見城中央病院にて定期的に開催されている地域連携の会議に出席した。

(8) 試験検査センター委員会　12月17日（木）県薬

（前濱副会長）

山里常務理事と出席した。学校環境衛生検査の委託業者選定に入札を行う市町村が増えつつある。次年度は県も入札を行うという情報もある。これに対抗するため、県薬検査センターを使うメリットとして、学校薬剤師との連携が密で、問題への対応も迅速に行えるという事を県・市町村教育委員会へアピールしていこうということになった。

（山里常務理事）

今年度の検査項目についての打ち合わせを行った。

(9) 会計監査　12月18日（金）県薬

(10) 沖縄県医療推進協議会　12月18日（金）沖縄都ホテル

（前濱副会長）

今回新たに4団体が加入した。新加入団体の病院薬剤師会会長として外間県薬副会長も参加していた。過去の活動内容について報告があり、協議では改正される医療費の点についての議論だった。

（外間副会長）

今回初参加であった。他に医療機器の団体や経営コンサルタントの団体等が初参加ということだった。目的は賛同できる内容であった。

(11) 第2回沖縄県医師会医療事故調査等支援団体連絡協議会 並びに
第2回沖縄県医師会医療事故調査支援委員会（合同会議）　12月18日（金）那覇市医師会館

（吉冨理事）

事故調査制度が開始から2カ月を経て、その間に寄せられた相談内容等の情報共有を目的に会議が行われた。医療事故調査制度の報告義務が課せられているのは、全国の病院、診療所、助産所の管理者であり、当該施設に勤務する医療従事者が提供した医療に起因する（または疑われる）ものである。つまり、原則として保険薬局は制度の対象となっていない。ただし、厚生労働省は「個別の事案が医療事故調査制度の対象となるかどうかについて、判断に迷う場合支援センターに相談してほしい」しているので、保険薬局で事故が起きた場合、調査の対象ではないが、それが病院や診療所に起因するもの、処方せんの内容に起因するものそういった場合には医療機関への報告相談が必要となってくると思われる。

(12) 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点事業研修会　12月18日（金）県薬

（笠原理事）

第2回の説明会を開催した。〈申し込み62名、参加33名〉講師に広島大学教授の森川則文先生を招いての講演と血糖測定器を実際に使用しての体験を行った。

(13) 平成27年度高度管理医療機器継続研修会　12月20日（日）県薬

（江夏副会長）

毎年、年一回開催されている。厚生労働省からの日薬への委託事業となっている。今年は9回目の開催で、約150名の参加があり、年々参加者が増加している。

（山城課長）

1月31日に石垣、2月11日に宮古地区での開催が決定した。吉田理事に講師を依頼、了承いただいている。

(14) 地域保健開局委員会　12月22日（火）県薬

（笠原理事）

日薬主催で第4回薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会に笠原、松本の2名で参加した。2月28日（日）に伝達講習会の開催を予定している。次に医薬品販売制度の対応の徹底についてということで日本薬剤師会から薬剤師会員への周知徹底の呼び掛けがあった。次に協議事項としては、①平成28年度事業計画について、②第194回全国禁煙アドバイザー育成講習会について、③自殺予防対策に関する情報提供書について、④自殺予防対策事業「ゲートキーパー養成研修会」の開催について、⑤BLS講習会について（宮古地区・八重山地区開催）等を協議した。

(15) 沖縄県医師会より来訪　12月24日(木) 県薬

(亀谷会長)

津梁ネットワークに会営薬局も加入いただきたいとの申し出。また薬剤師会会報に津梁ネットワークのPR文書を掲載いただきたいと申し出があった。

(16) 医療保険委員会　12月24日(木) 県薬

(川満常務理事)

平成28年度「調剤報酬改定等説明会」を3月21日(月) にてだこホールにて2部構成で行う。八重山地区3月22日(火)、宮古地区3月23日(水) に順次開催予定。賛助会費B会費未納薬局においては例年通り九州厚生局の集団指導終了後に退席していただくことで決定した。次に、以前掲載していた会報への「調剤報酬請求業務Q&A」を来年度より1問～ 2問ほど、連載予定。担当は照屋委員と宮城委員で決定した。

(17) 平成27年度第1回沖縄県公害審査会　12月25日(金) 県庁

(我喜屋常務理事)

公害審査会においては医師会、薬剤師会、看護協会の三師が公害審査会委員として招集されている。公害紛争における健康被害に関しての助言をもらう、もしくは調停委員になっていただく設定となっている。今回は調停の申請があったということで、公害紛争処理法第17条の2第1項の規定に基づき、沖縄県公害審査会が招集され出席した。

(18) 実務実習伝達講習会 (1/17) 打ち合わせ　12月25日(金) 県薬

(我喜屋常務理事)

来月予定している実務実習伝達講習会の打ち合わせを佐藤理事と行った。

(19) 沖縄県高齢者介護福祉課より来訪　1月6日(水) 県薬

(亀谷会長)

薬剤師の認知症への対応力を高める必要性があるとし、そのための研修会が東京で開催される。さらに参加者は会員への伝達講習会を実施してほしいと要望がある。地域保険開局委員から参加者を選出することとし、笠原理事と相談の上、中尾委員に依頼することで決定した。

(20) 社会保険診療報酬支払基金幹事会・懇親会　1月6日(水) サザンプラザ海邦

(亀谷会長)

定例の会議、懇親会に出席した。

(21) 沖縄刑務所 所長来訪　1月7日(木) 県薬

(亀谷会長)

刑務所に勤務している薬剤師が退職するということで、求人依頼があった。

(22) 第1回おきなわ津梁ネットワーク運営協議会　1月7日(木) 沖縄県医師会館

(亀谷会長)

津梁ネットワークの事業の方向性の確立や当該事業の評価、今後の展開等についての協議会であった。

(23) 平成28年沖縄県警察年頭視閲式　1月8日(金) 北谷町営駐車場

(大城監事)

警察友の会に加入しており、これは警察官を支援するという団体組織で構成されている。新年を迎え、全警察職員が一丸となって「県民の期待と信頼に応える強い警察」を目指して決意を新たにし、警察組織の厳正な規律と士気の高さを内外に示すことを目的に開催されているものである。360名余りの警察官が部署ごとに行進、パトカーや白バイ、警察犬の演舞などがあ

り大変素晴らしいものであった。沖縄県警察の力強さに心強く、感激した。

(24) 平成28年公益社団法人沖縄県小児保健協会新年会

1月8日(金) ホテル日航那覇グランドキャッスル

(亀谷会長)

学校医を長年務められた方の表彰式等が行われた。

(25) 薬学生実務実習受入委員会　1月8日(金) 県薬

(我喜屋常務理事)

報告事項として、平成28年度の沖縄県の薬学生実務実習マッチング結果（九州山口地区)、九州地区の5大学22名すべてマッチング終了した。八重山地区の実習生の対応についてだが、八重山地区に指導薬剤師がいないため、大学側の配慮で那覇市内にアパートを手配、本島内での実習が決定した。次に、指導薬剤師の更新状況についてだが、1月17日の第3回の更新講習会でほぼ受講できると思われる。e-ラーニングも考慮して進める。

協議事項として、平成28年度薬学生実務実習他地区マッチング、各地区担当者より報告があった。6大学13名のマッチングを行った。嘉手納、読谷地区の指導薬剤師が不足である。次に、1月16日の伝達講習会の件、平成28年度事業計画について協議した。

(26) 沖縄県看護協会　受賞祝賀会及び新年会　1月9日(土) ホテル日航那覇グランドキャッスル

(亀谷会長)

大変盛大なものであった。組織の大きさを実感した。

(27) 平成28年沖縄県医師会新年会及び医事功労者表彰式

1月9日(土) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

(亀谷会長)

大変盛大で、充実したものであった。

(28) 平成27年度第4回都道府県会長協議会　1月13日(水) 日薬

(亀谷会長)

日薬の電子お薬手帳の普及と機能拡充、さらに各県薬で採用いただき、講演会等も開催してほしいと要望があったので、関連委員会には検討いただきたい。健康サポート薬局の研修の実施等も今後検討するとのことだった。日薬会館建設については、現在の敷地には建設せず、オリンピック終了を目途に計画を立て直すということで報告があった。日本薬剤師会の組織率が低下していることもあり、組織力強化のための施策のあり方についてとして、アイデア等検討いただきたいとのことであった。

(29) 日薬　新年賀詞交歓会（会長会終了後）　1月13日(水) 明治記念館

(亀谷会長)

政治家、薬業界から多数の来賓があり、盛大に行われた。

(30) 平成27年度第2回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会

1月14日(木) 沖縄県後期高齢者医療広域連合

(江夏副会長)

沖縄県の後期高齢者（75歳以上）の保険料は、平成20年から4,036円／月、48,440円／年で維持されている。その理由として考えられるのは後期高齢者の所得が高いということ、徴収率が高くなっていることで黒字推移しているが、後に団塊の世代が後期高齢者になった際に必要になることが見込まれるため備えていくと報告があった。そして、沖縄県は外来の医療費は全国最下位、しかし入院費は全国9番目で、症状が悪化して初めて受診したことで長期入院が多い。

今後の対策の必要性が検討される。

(31) 沖縄県歯科医師会新年会及び叙勲・大臣表彰等受賞合同祝賀会

1月14日(木) ザ・ナハテラス

(32) 沖縄県教育長　表敬訪問　1月15日(金) 県庁

(33) 日本薬剤師会代議員選挙・補欠代議員選挙について

(山城課長)

現在、前会長の神村氏と吉田理事が代議員であるが、3月で任期満了となるため、あらためて全会員向けに立候補を募る。方針としては薬剤師会を運営していく上で、現会長、副会長が望ましいと考える。

(34)「のあちゃんを救う会」の募金活動について

(亀谷会長)

ご協力いただきありがとうございます。1か月ほどで144万円余りの募金が集まり大変感激した次第である。贈呈式は県内の2紙に掲載いただいた。

(35) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

(山城課長)

これまで協力薬剤師として協力いただいていた方の退職等もあり、依然厳しい状況である。年末年始を乗り切るのに必死である。ぜひ薬剤師の紹介等を強くお願いしたい。

報告（薬連）

(1) 沖縄県知事就任1周年　オナガ雄志激励会

12月15日(火) 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

(亀谷会長)

組織としては、自民党を支持しているが、翁長氏とは親しくお付き合いがあったので、参加してきた。

(2) 佐喜眞アツシを支援する企業・各種団体　実務者会議

12月17日(木)・12月24日(木)・1月8日(金) 宜野湾市の未来をつくる市民の会

(山城課長)

薬剤師連盟として推薦状を提出している。それを受けての協力依頼ということで、実務者会議に出席している。薬剤師連盟として、ビラ配りを500世帯にローラー作戦で回った。

(3) 宜野湾市長　佐喜眞アツシ激励会　12月21日(月) JA宜野湾ジュビランス

(山城課長)

吉田久子幹事長と、中部地区の総務である新城光枝氏に参加いただいた。

(4) 宜野湾市長選に伴う薬局まわり（宜野湾市）　12月25日(金) 宜野湾市内薬局

(亀谷会長)

宜野湾市議と山城課長と共に、宜野湾市内の薬局を回り支持を訴えた。

(5) 2016公明党沖縄県本部　賀詞交歓会　1月5日(火) 自治会館

(江夏副会長)

山口代表や、比嘉奈津美議員や國場幸之助議員らも出席していた。公明党は与党政権の中、連立政権でバランスを保ちながら安定した政治状況にしていきたいとのこと。佐喜眞アツシ氏の当選と後に控える県議選・参議院選で大勝利し、沖縄振興に総力を挙げて取り組んでいきたいとの内容であった。

(6) 衆議院議員　額賀福志郎先生を囲む会 in 宜野湾

1月8日（金）カルチャーリゾートフェストーネ

（亀谷会長）

国は宜野湾市長選挙を今後の選挙に続く分岐点としてとらえ、力を入れていることが伺えた。

(7) 平成28年自民党沖縄三区支部・新春の集い　1月9日（土）沖縄市産業交流センター

（山城課長）

神村武之顧問と参加した。

(8) 衆議院議員　國場幸之助2016年新春の集い　1月10日（日）沖縄都ホテル

（亀谷会長）

熱気を帯びた新春の集いであった。

(9) 衆議院議員　西銘恒三郎新春の集い　1月16日（土）JAおきなわ南風原支店

（山城課長）

神村武之顧問と、城間盛光総務が参加した。

(10) その他

（亀谷会長）

宜野湾市長選挙では佐喜眞アツシ氏の支持を訴えるため、渡嘉敷なおみ衆議院議員と共に薬局・問屋廻りをした。

お知らせ

＜県薬が会員に販売している印刷物等＞

○国保総括票	25枚	1冊	100円
○市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円
○市町村別請求書（その2）	1枚		10円
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円
○処方せん	100枚	1冊	160円

○お薬手帳カバー	1枚	22円
○薬歴カード	各1枚	5円

（国保（本人・家族）青色
社保（本人）白色
社保（家族）桃色）

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ　価格 税抜き12円
【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ　価格 税抜き22円

会務報告

平成28年4月

1金○ 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学　浦添総合病院　岐阜薬科大学薬学生、大城課長
○ 会計監査（3会営薬局）　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局上原
○ 九州厚生局沖縄事務所より来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ 平成28年度第1回薬学生実務実習受入委員会　県薬研修室

3日○ 沖縄県地域糖尿病療養指導士会第3回総会・記念講演会　沖縄県医師会館
○ 講師派遣（那覇市ウォーキング協会）　新都心公園内緑化センター　講師：亀谷会長

4月○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部支部長来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学　那覇市立病院、沖縄県立南部医療センターこども医療センター　岐阜薬科大学薬学生、大城課長

5火○ 第四回沖縄抗凝固療法フォーラム　ザ・ナハテラス
○ 平成28年度第1回定例幹事会　県薬会議室

6水○ 国保連合会より来訪　県薬会長室　亀谷会長、山城次長
○ 平成28年度実務実習受入施設指導薬剤師研修会　県薬研修室

7木○ 沖縄タイムス記者来訪　県薬会議室　亀谷会長、荒井理事、仲真医療保険委員会委員長
○ 沖縄県保健医療部保健医療政策課より来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ 平成28年度第1回広報委員会　県薬研修室

8金○ 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学　浦添総合病院、那覇市立病院　北海道医療大学新卒者（国家試験合格者）、大城課長
○ 会営薬局とよみ打ち合わせ　会営薬局とよみ　我喜屋常務理事、糸嶺薬局長、島袋陽子氏、上野邦子氏
○ 平成28年度患者のための薬局ビジョン事業等についての打合せ会議　県薬会議室　亀谷会長・各委員会代表者（地域医療開局委員会、在宅医療委員会、医薬分業対策委員会）

9土○ 平成28年度第1回定例理事会　県薬研修室

10日○ 北部地区薬剤師会学術研修会　ホテルゆがふいんおきなわ
○ 学校薬剤師部会研修会　県薬研修室　亀谷会長

12火○ 赤嶺氏訪問（会営薬局とよみ地主）　赤嶺氏宅　亀谷会長、山城次長、稲福係長
○ 後期高齢者広域連合会来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ 第1回健康食品・サプリメントに関する研修会の企画・運営に関する会議　県薬会議室　亀谷会長、盛本直也氏、名嘉紀勝氏、玉城武範氏、阪本崇彰氏、大城課長

13水○ 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学　会営薬局とよみ、豊見城中央病院　北海道医療大学新卒（国家試験合格者）、大城課長
○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
○「認定薬剤師取得へ向けた継続セミナー」に関する打合せ会　福岡県薬剤師会館　外間副会長
○ 沖縄タイムス取材「薬剤師と在宅医療」　患者宅　荒井理事、大城恭子氏、大城課長

14木○ 沖縄タイムス取材「薬剤師と在宅医療」　患者宅　荒井理事、大城課長
○ 会計監査（一般会計）　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原
○ セキュリティソリューション説明会　沖縄県立博物館・美術館　小泉試験検査センター主任技師

14木○ 平成28年度第1回在宅医療委員会　県薬会議室
15金○ 平成28年度第1回学術研修委員会　県薬会議室
17日○ 薬局実務実習担当者全国会議　日本薬剤師会　佐藤理事、浅沼健一実務実習受入委員
○ **平成28年度女性薬剤師部会総会・講演会**　県薬ホール
18月○ 会計監査（3会営薬局、その他事業部）　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
○ 会長、副会長及び災害対策委員会緊急会議　県薬会議室
19火○ 豊見城中央病院長訪問　豊見城中央病院　亀谷会長、糸嶺薬局長
○ 平成28年度第1回医療安全対策委員会　県薬会議室
20水○ 会営薬局とよみ打ち合わせ　会営薬局とよみ　我喜屋常務理事、糸嶺薬局長、島袋陽子氏、上野邦子氏、山城次長
○ なごみ会主催県民健康フェア第2回実行委員会　沖縄県医師会館　笠原理事、稲福係長
21木○ 沖縄県Ｉターン希望薬学生の薬局見学　あにも調剤薬局　京都薬科大学薬学生、大城課長
○ 第75回那覇地区薬剤師会臨床講座　県薬研修室
○ **第1回健康食品・サプリメントに関する研修会**　県薬ホール　講師：玉城武範（ミドリ薬局美里店）
22金○ 平成28年度第1回地区調整機構会議　ホテルセントラーザ博多　我喜屋常務理事
○ 八重山地区学術講演会　ANAインターナショナル石垣リゾート
○ Meet the Expert in八重山　ホテル日航八重山
○ 平成28年度第1回財務委員会　県薬会議室
24日○ 第7回沖縄抗HIV薬勉強　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
25月○ 平成28年度「薬と健康の週間」第1回調整会議　県薬研修室　大城課長、稲福係長
26火○ 第6回世界のウチナーンチュ大会第3回実行委員会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長
○ 臨床薬剤師育成研修会　株式会社ダイコー沖縄
27水○ 沖縄県子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課より来訪　県薬会長室　亀谷会長
28木○ 薬物乱用防止協会那覇支部理事会　那覇市保健所　前濱副会長
○ 沖縄県保健医療部健康長寿課より来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ 無料低額診療事業について那覇市福祉部福祉政策課との調整会議　県薬会議室　吉田理事、山城次長
○ 平成28年度第1回医療保険委員会　県薬会議室

平成28年5月

1日○ **平成28年度学校薬剤師新任研修会**　県薬研修室　小泉試験検査センター主任検査技師（講師）
6金○ 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学　中頭病院、浦添総合病院、北部地区医師会病院　北陸大学薬学生、大城課長
7土○ 沖縄認知症ネットワーク研究会第27回学術集会　沖縄県医師会館　共催：エーザイ株式会社
8日○ **平成28年度学校薬剤師新任研修会**　県薬研修室　小泉試験検査センター主任検査技師（講師）
9月○ 平成28年度第1期薬学生実務実習開始（7/24迄）　各受入薬局
○ 沖縄県環境部より来訪「公害審査会への委員推薦について」　県薬会議室　亀谷会長、山城次長

9月○ 実務実習オリエンテーション　県薬研修室　薬学生実務実習受入委員会:我喜屋常務理事、佐藤理事、仲真委員、事務局松堂
○ 熊本地震の情報報告会　県薬研修室
10火○ 監事監査　県薬会議室　亀谷会長、友利監事、山里常務理事、事務局（山城次長、前原、上原）
○ 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学　会営薬局うえはら　城西大学新卒者（国試合格者）、大城課長
○ 平成28年度第2回定例幹事会　県薬会議室
11水○ 平成28年度第1回都道府県会長協議会　日本薬剤師会　亀谷会長
○ 故渡邉徹先生を偲ぶ会　如水会館　亀谷会長
12木○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　吉田理事、仲真薬局長
○ 平成28年度第1回地域医療支援病院運営委員会　豊見城中央病院　亀谷会長
○ 第43回沖縄うふいち会　ザ・ナハテラス　共催：アストラゼネカ株式会社
○ 八重山地区研修会「不眠症学術講演会」　ホテル日航八重山
○ **第2回健康食品・サプリメントに関する研修会**　県薬ホール　講師：盛本直也（ヴァインドラッグ末吉薬局）
13金○ 医療介護総合確保促進法に基づく都道府県計画に対する地域の関係者の意見聴取　県庁　江夏副会長
○ 平成28年度第1回沖縄県がん診療連携協議会　琉球大学医学部管理棟　亀谷会長
○ 脳神経外科懇話会2016 in 宮古島　沖縄県立宮古病院
○ 薬剤師の未来を考える会　沖縄県医師会館　共催：ノバルティスファーマ株式会社
14土○ 平成28年度第2回定例理事会　県薬研修室
○ 学術講演会　大濱信泉記念館
15日○ 那覇地区薬剤師会総会　県薬ホール
○ 那覇地区薬剤師会特別講演会　県薬ホール
○ 那覇地区薬剤師会懇親会　県薬研修室　亀谷会長
16月○ 平成28年度第1回健康長寿おきなわ復活県民会議幹事会　県庁　亀谷会長
17火○ 沖縄県薬業連合会会計監査　県薬会議室　稲福係長
○ 認知症対応力向上研修に係る事務調整　県薬会議室　亀谷会長、中尾滋久地域保健開局委員、玉城千春氏（沖縄県子ども生活福祉部高齢者福祉介護課）、大城課長
18水○ 沖縄県在宅緩和医療研究会　沖縄県医師会館　共催：塩野義製薬株式会社
○ 沖縄「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研修会（中部地区）　ちばなクリニック　共催：大日本住友製薬株式会社
19木○ 熊本地震義援金贈呈式　日本赤十字社沖縄支部　亀谷会長、吉田理事、山城次長、大城課長
○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　吉田理事、仲真薬局長
○ 株式会社薬正堂より来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ なごみ会主催県民健康フェア第3回実行委員会　沖縄県医師会館　笠原理事、稲福係長
20金○ 那覇市制施行95周年記念特別表彰（環境保健功労部門）　那覇市民会館　被表彰者：渡嘉敷見氏、太田節子氏
○ 沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部長会議　自治会館　大城課長
21土○ 熱中症フォーラム2016－市民公開講座－　国立劇場おきなわ　共催：株式会社大塚製薬工場

21土○ 第13回沖縄小児内分泌研究会　ホテル日航那覇グランドキャッスル　共催：JCRファーマ株式会社
22日○ 健康サポートのための多職種連携研修（仮称）に係る都道府県薬剤師会説明会　フクラシア品川クリスタルスクエア　笠原理事・西川裕
○ **平成28年度女性薬剤師部会第17回漢方講座**　県薬ホール
23月○ 地域ケア会議（浦添市）　浦添市地域包括支援センターみなとん　笠原理事
24火○ 平成28年度第1回感染症ケースカンファレンス　ちばなクリニック　共催：沖縄県病院薬剤師感染症分科会
○ 臨床薬剤師育成研修会　株式会社琉薬
○ 地域保健開局委員会　県薬研修室
25水○ 平成28年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会　サザンプラザ海邦　前濱副会長
○ 沖縄県薬物乱用防止協会理事会　サザンプラザ海邦　前濱副会長、吉田久子氏
26木○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　吉田理事、仲真薬局長
○ 平成28年度第1回健康長寿おきなわ復活県民会議　県庁　亀谷会長
○ 平成28年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会　中部地区医師会館
○ 八重山地区学術講演会　ANAインターナショナル石垣リゾート　共催：田辺三菱製薬株式会社
27金○「沖縄子どもの未来県民会議（仮称）」の設立に係る事前説明会　県庁　山城次長
○ 平成28年度「未来の産業人材育成事業」職業人講話　浦添市立浦西中学校　講師：松尾はつよ氏
○ 株式会社アトルより来訪　県薬会議室　亀谷会長
28土○ 会報取材　株式会社沖明　伊敷松太郎広報委員、大城課長
○ 宮古地区薬剤師会総会　宮古地区薬剤師会事務所　亀谷会長
○ 北部地区研修会平成28年度薬局における医療安全管理研修会(調剤報酬改定におけるQ&A)　ホテルゆがふいんおきなわ　講師：仲真良重医療保険委員長
29日○ **第132回健康とおくすり相談会**　イオンモール沖縄ライカム　担当：中部地区薬剤師会
30月○ 薬学生実務実習講習会（学校薬剤師について）　県薬研修室　講師：笠原理事
○ 九山調整機関評議員会　福岡県薬剤師会館　亀谷会長、前濱副会長
○ 第1回九山各県代表者会議　福岡県薬剤師会館　亀谷会長、前濱副会長
○ 九州ブロック日薬代議員予備会議　福岡県薬剤師会館　亀谷会長、前濱副会長

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成28年4月

4月○ 古波蔵薬品訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　古波蔵薬品　石川副幹事長、山城次長

5火○ 琉球光和訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　株式会社琉球光和　亀谷会長、山城次長

21木○ 沖縄綿久寝具訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　沖縄綿久寝具株式会社　亀谷会長、山城次長

23土○「アイ・ラブ沖縄！かがやく県民の会」設立総会　「アイ・ラブ沖縄！かがやく県民の会」事務所　亀谷会長

○「アイ・ラブ沖縄！かがやく県民の会」「アイ・ラブ沖縄！かがやく県民の会」事務所　神村顧問

24日○ 衆議院議員コクバ幸之助叱咤激励の会　ホテル日航那覇グランドキャッスル　亀谷会長、神村顧問、吉田幹事長

平成28年5月

16月○ 第12回沖縄県議会議員選挙対策会議　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　山城次長

18水○ 企業訪問　県内企業5社　亀谷会長、我喜屋宏氏、山城次長

23月○ 沖縄県薬剤師連盟総務会　県薬研修室

25水○ 平成28年度第1回全国会長･幹事長拡大会議　品川プリンスホテル　亀谷会長、石川副幹事長

○ 藤井もとゆき中央後援会総会　品川プリンスホテル　亀谷会長、石川副幹事長

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。

（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願いします。

【連絡先】県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

転載記事

県薬剤師会から益城町など支援

「人が足りていない」

【熊本県で浦崎直己】熊本地震で大きな被害が出た益城町や西原村で20～28日まで、沖縄県薬剤師会の薬剤師たちが支援にあたった。医療チームのサポートや医師が一度も訪れていない避難所の把握を進め、住民の健康維持や避難所の衛生管理などを担った。

県薬剤師会の坂本俊一さん(66)と我喜屋美香さん(58)、喜久山有沙さん(29)が現地で支援した。東日本大震災時に宮城県で活動した経験がある我喜屋さんは「探せば探すだけ支援が必要な人は出てくる。人が全く足りていない」と現状を説明した。

長期化する避難生活では、ノロウイルスの発生防止など衛生管理も課題となる。26日にはハエの増加を懸念し、酒と酢、砂糖で作るハエ取り液を作った。

喜久山さんは同日の巡回中、通院する地元の医院が倒壊して何の薬を飲んでいたか全く分からない被災者に出会った。「お薬手帳の有無でできる支援が全然違ってくる」と語り、避難時にお薬手帳を持ち出す重要性を訴えた。

避難所に薬を届ける県薬剤師会の我喜屋美香さん＝26日、熊本県西原村の河原小学校

平成28年4月30日(土)　沖縄タイムス

県薬剤師会が義援金245万円

「今後も協力」

県薬剤師会は19日、日本赤十字社県支部へ義援金245万1155円を託した。同県支部事業推進課の上間昇課長＝右から2人目＝に目録を手渡した亀谷浩昌会長＝同3人目＝は「薬局を空けられず現地での支援が難しい分、お金で気持ちを表したいという会員も多い。今後とも協力していきたい」と話した。同会の薬剤師は19日までに、5人が現地で支援活動に当たった。

平成28年5月20日(金)　沖縄タイムス

平成28年5月20日(金)　琉球新報

義援金245万 県薬剤師会託す

日赤県支部に 熊本地震の被災地の復興

を支援しようと、沖縄県薬剤師会の亀谷浩昌会長と同会災害対策委員会の吉田洋史委員長は19日、那覇市の日本赤十字社沖縄県支部を訪れ、会員約1100人から集めた義援金245万1155円を託した＝写真。

亀谷会長は「被災地に行って支援したくてもできない会員も多い。気持ちを義援金に変えて、支援したい」と話した。

日本赤十字社沖縄県支部事業推進課の上間昇課長は「この義援金を直接被災者の方々に届ける」と力強く約束し、県薬剤師会との一層の連携を確認した。

転載記事

沖縄県医師会報　2016年6月号掲載

月間（週間）行事お知らせ

沖縄医報　Vol.52 No.6　2016

知識は命を救う あなたの命はすばらしい

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動（6/20 ～ 7/19）国際麻薬乱用撲滅デー（6/26）に寄せて

沖縄県薬剤師会 学校薬剤師部会 副部会長　大城　恭子

「大麻所持 17 歳少年逮捕」「密売の男、県内で逮捕」等々、沖縄県内で薬物乱用者が逮捕される事件を新聞等で目にします。それが希な事であってほしいと思っていた矢先、「先生、500 円って安いと思う？」と中学校男子生徒が養護教諭に尋ねてきたとの話を耳にしました。現実、沖縄でのゲートウェイ・ドラッグの危機は、高まっています。

今年は、有名なスポーツ選手の覚せい剤所持事件が世間を騒がせました。小学生の耳にも入っています。三学期に入って年度末になった頃、私に小学校から、健康教育の一環で薬物乱用防止について講演をしてほしいとの依頼がありました。講演日が直前に迫っていましたが、「薬物について聞きたい事がありますか」のアンケートを事前に行って、それに応えるスライドを作成しました。多くの質問は、そのスポーツ選手に関するものでした。「知識は命を救う、あなたの命はすばらしい」と題して、薬物乱用防止の講演をしました。その時の質問に、薬物の値段について聞かれ、新聞で報道された例を出したところ、大きなどよめきが起こりました。薬物の売買については私の専門外ですが、それらに触れる事は生きる上で必要と思われ、金銭感覚を磨いてほしいこともあり、この質問に返答をしました。植物を原料とする薬物が多い事に驚いていました。乱用に繋がる薬物の中には医療用麻薬等も含まれ、この薬物は病人に必要であることから、子供たちには、「普通にある薬物が、乱用される事で健康を害することがある。薬物乱用に繋がる薬物全てを無くす事は出来ない。しかし、乱用に繋がる薬物を判別して、それらを自ら使わない事は出来る。それには知識が大切。目の前にある薬物や売る人が悪いなど、薬物や他人のせいにするのではなく、自らの選択がとても大切」と強調しました。「命の大切さを学ぶ」「生きる力を育てる」教育が、必要です。

「ダメ。ゼッタイ。」を声高らかに広めていかなければならない現況にあります。医療人である私たちは、薬物に侵された人たちの治療、更生を支援する立場にありますが、彼らの置かれた状態はとても厳しい。それを知っているからこそ、未然に防ぐための啓発、普及活動はとても重要であると感じています。

最後に、薬物乱用について執筆させてしていただく機会を下さいました沖縄県医師会広報担当理事の本竹秀光先生に深謝致します。沖縄県医師会会長の宮城信雄先生はじめ、医師会会員の先生方と共に薬剤師会も薬物乱用防止に広く関わって、沖縄県のこの現況を改善できるよう、日々、啓発、普及活動に努めて参りたいと思います。

※沖縄県医師会の許可を得て掲載しています。

のど自慢風景から…

日曜日の朝はウィークデーより一時間くらい遅い目覚めである。日頃の疲れは高齢になるとなかなか抜けず、気だるさが体を支配してアーアーとあくびを連発する。なかなか動きのスイッチが入らずゴロンゴロンする。むしろこれを楽しんでいるのだ。そしてこんな日曜日が週に2回くらいあれば良いと馬鹿なことを考えるのである。只今いただいている食事は朝飯だろうか昼飯だろうかと言う時間帯ではあるが、黙っていても美味しい食事がでるのを幸せと言わずして何というべきや、である。やっとエンジンにスイッチが入ったようで屋上に上る。屋上いっぱいに集めた雑木に水をやる。水道に加圧機をつけたので水の噴射の勢いが強い。小さい鉢は吹き飛ばされるくらいだから面白い。晴れた日、暑い日は雑木達がゴックンゴックンと飲んでくれるようだ。12時の時報が聞こえたので待ってましたとテレビの前に移動する。イヤ、チョッと照れるが今、小生はNHKののど自慢にはまっているところである。昔、宮田輝さんの時代からチョイ、チョイと見たり聞いたりはしていたが、ここ2年位からは日曜日の12時15分は待ちかんティー[※1]である。

こののど自慢は上手な人達の競うコンクールではない。誰でも出場できる親しみ易さと明るく楽しいポジティブな善意が溢れる番組である。

現在難病と闘っている人、女手ひとつで3人の子供を育てられ、その子供が母親に感謝を伝えたいとか、連れ合いを失った人が天国の夫や妻に元気で頑張っている姿を見せたいとか。様々な人生模様が織りなす80代、90代の人達は過去を振り返る。苦労した昔と今を確かめているのだろう。柔和な表情を見せる。

またこの頃は中学生、高校生の出場が多くなっている。のど自慢の若返り、将来性の意図もあるだろうが、若い人の夢や希望をほんの10数秒くらいで引き出し、エールをおくる司会者もグッドである。なかには歌手になりたいとの子供達も。テレビ桟敷で審査員よろしく「それは無理だな」と言ってはいけないのだ。この番組から輩出したプロの歌手は数多い。あの国民的歌手の北島三郎さんも出場したが鐘2つだったと言うのだから。この番組を見ている限りでは日本は平和で善意に満ちた国である。戦争などはしない国だよネ。感動的なエピソードの場面では涙腺の弱い小生はミーナダグルグル[※2]してしまう。

5月29日にはつい身につまされる感動があった。高校生の姉と中学生の弟の姉弟である。デュエットで唄ったのが「3年目の浮気」である。選曲ミスかと思ったが2人の掛け合いのジェスチャーとコミカルな調子で歌のタイトルはどこかへ吹き飛んでしまい、只楽しい歌となった。秋山気清さんもう一つ鐘を鳴らしてよと言いたいところだ。司会者がどうしてこの曲を選んだのか聞いた。「お兄さんがこの曲を好きだから」と答えた。お兄さんを激励に来ました、と言い、お兄さんは体に障害があるんです、でも頑張り屋さんです、東京オリンピック・パラリンピックの時の聖火ランナーになりたいと頑張っています、と言うのである。20人の歌が終了後、2人は姉弟愛が素晴らしいと特別賞に選ばれた。姉の方は感動で大泣きし話が出来ない。司会者が弟に、お姉ちゃん泣いているが君は泣かないのと言うと、「お姉ちゃんが泣くと僕は泣けないんです。泣きません。」と言う。この無邪気な言葉が心の奥底に何か大事なものを届けるように思われるのである。

小生の二女も障害（児）者である。今、思い起こせば色々な事が走馬灯のように走る。二女が生まれたら、姉とお揃いの洋服を着せて山形屋でショッピングを楽しむなどと楽しい夢を見ていたものであるが、出産直後の宣告は厳しいものだった。染色体異常の障害があり、他の併発症状もあるので生涯自立は無理で介助を受け続ける事でしょうと言うことだった。頭の中が真っ白になるとはこういう

ものだろう。

いつまでも落ち込んではいられない。機能訓練や育児指導に妻は懸命に頑張ったものである。5歳の時に沖縄整肢療護園にたどり着いた。

障害者であること、障害者が家族にいることは不自由で大変なことではあるが不幸ではないと言う思いが大事であろう。なかなか難しいことではあるが、全国に福祉に関わった先駆者は多数いらっしゃる。大変ご苦労をなさった方々である。沖縄でも50年くらい前、戦後まもなくは重い障害のある人が家族にいると悲惨な状態であった。これに心を痛めた整形外科医の山田之朗先生は自分の私財をつぎ込み、当時国の役に立たない者に金は出せないと言う姿勢の行政の厚い壁に立ち向かい大変なご苦労の末、沖縄整肢療護園を設立した。曲折を経て沖縄南部療育医療センターと名称を変え、立派な施設に生まれ変わっている。山田先生の情熱と行動力に感謝し敬意を表するものである。以前に聞いた話で記憶がボンヤリしているが、おおよそこんな風であろう。お釈迦様に16人の弟子がいる。菩薩と呼ばれる方々と思う。その中一人だけ障害を持っている方がいるのである。一人の弟子が尋ねた。どうして彼が私達と一緒にいるのでしょうか？するとお釈迦様は「皆さん方は知恵と言葉で説法して人々を導くのだが、彼はそこに居るだけで人々の心の中に優しさ、思いやりの種を蒔くのです。言葉を使わず説法が出来るのは彼だけです。」と答えたとのことである。

さて、のど自慢に戻るが、あの気持ちの良い姉弟の成長にはお兄さんの存在が大きいのではないだろうか。イヤきっとそうだ。新潟県が会場だったから東京オリンピック・パラリンピックの聖火が新潟を通る時にお兄さんをサポートして3人で50mでも100mでもよい、燃え上がる聖火のトーチを掲げて走って欲しいなぁー。

その時はキッと思い出して注目しよう。NHKさんも忘れず取材しテレビで流してくれよ。

（橋の下）

※1 心待ち　※2 涙ぐむ

会報原稿募集のご案内

広報委員会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。

広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

・誌上匿名は可能です。

・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。

☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで　〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10

TEL 098-963-8930　FAX 098-963-8932　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

誌上ギャラリー（裏表紙）について

左上：「パフィオペディラム」　photo by 吉田 久子（那覇市）　撮影地：自宅

右上：「ベルリン郊外のお城の庭」photo by 前濱 朋子（つる調剤薬局）　撮影地：ドイツ連邦共和国

下：「チューリップ畑」　photo by 池間 記世（やまうち薬局）　撮影地：大阪万博記念公園

編集後記

先月、魔女の一撃（ぎっくり腰）に見舞われた。ごく普通に掃除機をかけていただけなのに。どうやら無理な姿勢がたたったようだ。念のために言っておくが、決して「歳のせい」ではない、らしい。（苦笑）おかげで安静を余儀なくされ、大好きなアウトドアスポーツもできず、すっかり身体が鈍ってしまった。1か月半も身体を動かさないと心も脳も怠けてしまって執筆どころかやる気までなえてしまった。やはり、健康な身体あっての「健康なこころ」なのだ。最後に、ぎっくり腰を言い訳にするつもりはないが、今号の発行が大幅に遅れたことをお詫び致します。　（クララ）

日差しがより一層強くなり始めた初夏、注目の参議院選挙が刻々と迫ってきた。我ら薬剤師の代弁をと、薬剤師党の代表として『藤井もとゆき氏』を是非とも政界へ送り出したい！そこで、一人でも多くの方々に投票してもらいたい一心で、事務局の山城次長と最強コンビを組み、中部地区の薬局を訪問して回った。忙しい時間帯にも関わらず、快く応対して頂いた薬剤師の先生方や医療事務さんに感謝申し上げたい。『藤井もとゆき氏』は比例区での出馬のため、政党名よりも氏名を書いて頂きたい！そのためにも、名前を記憶の片隅に置いてもらうためにも、直前まで地道な活動を続ける次第である。『藤井もとゆき』『ふじいもとゆき』『フジイモトユキ』いずれの書き方でもOK！薬剤師職能の向上のため、重い腰を上げて一人でも多く投票場へ足を運んでくれることを願いつつ･･･　（ごり）

かかりつけ薬剤師、かかりつけ薬局について、薬局へ薬をもらいに来られる患者さんから質問される事が増えた。テレビの影響か、薬局で声掛けがあるのか、定かではないが、確実にかかりつけ薬剤師＆かかりつけ薬局は浸透してきている。薬剤師の側もそれに応えるべく、かかりつけ薬剤師を申請しようとしても要件を満たす必要がある。要件の一つ、公益性ということで、お薬相談会への参加の薬剤師が増えたとの事。うれしい限りである。普段、薬局のお世話にならない市民の方への薬剤師職能PRになるお薬相談会。また、薬局ではじっくり相談に乗れないことも時間をかけて対応できるので薬剤師自身の勉強にもなる。4月以降、地区薬主催のお薬相談会開催の問い合わせや、参加薬剤師が増えていると聞いた。かかりつけ薬剤師の要件としての「公益性をもった薬剤師としての活動」は継続性を求められているので、相談員としての薬剤師が増えていくことが期待される。　（TOMO）

今号の表紙は私が8年前に撮影したストックホルムの薬局です。昼間に撮影していたはずなのですが、冬の日照時間が3-4時間しかなく、画像が暗くて申し訳ないです。当時は薬局は全て国営だったようですが、今は民間も参入している様子です。（お酒は国営のSystembolagetと呼ばれる店でしか買えません。※9-17時のみ営業）どこの国でも薬剤師は新しい風に吹かれながらも頑張っているようですね。

（イサ吉）

いささか季節外れの話題で申し訳ないが、大坂造幣局「桜の通り抜け」はご存じだろうか。造幣局大川沿いの南門から入り、北門へ抜ける「あともどりできない通り抜け道」の事です。約560mにもおよぶ見事な桜並木は、ベニテマリ（紅手毬）やオオテマリ（大手毬）などの他ではなかなか見ることの出来ない珍しい品種もあり、約130種、約350本の桜が咲き誇っている。4月中旬頃の1週間を桜の通り抜け期間とし、一般の人々に桜を公開しているのだ。（一方通行）この1週間の間に多いときにはおよそ100万人の見物客が訪れるという。この混雑具合は想像をはるかに超えるすさまじさで警備の人たちが声をからして叫んでいる。「立ち止まらないで下さい!!」「写真を撮るときも立ち止まらないで下さい!!」こちらも連れの人達とはぐれたら沖縄からの田舎者は帰れなくなるので、連れの人達を見失わないようにするのに必死でじっくり味わいながらの桜見物･･･どころではない。それでもせめて写真を撮ってあわよくば誌上ギャラリーに掲載してもらえたらと、必死にシャッターを押しまくった。しかし･･･写っているのは桜半分、人の頭半分のものばかりであえなくすべてボツ、良い経験をしました。（ピアナ）

診療報酬が改定されて数か月がたち、ようやく落ち着いてきた。湿布が一番悩まされた。湿布が2種類でてたらレセコンで外用調剤料を1つに手入力で減らす必要があるのだが、電子薬歴では点数を削ったかが調剤料の合計点数で出るものだから分かりづらい。なので電子薬歴側の入力を見て再度レセコン側を見てと手間が増えた。使用日数も新たに入力する必要があり、ここで抜けがあったり入力を誤ると返戻がくる。この2つはようやく慣れてきた。かかりつけ薬剤師の届け出はしたが、置き去り状態だったのでこれから徐々に動いていこうと思う。よんなーよんなー。（みつなり）

とうとうこの時期が来ました…。旧の5月4日、糸満ハーレーです。ちなみに、沖縄県内の各地で爬龍船競漕は盛んですが、ハーリーという呼び方が一般的です。糸満でも一時期、ハーリーと呼んでいたそうですが、古い文献などを調べ、もともとはハーレーと呼ばれていたことが明らかになってから、伝統を重んじてハーレーに改められたそうです。なので、これを間違えると糸満地区の漁師から説教がとんできます。今回、残念ながら、薬剤師集団としての職域参加はかなわず、他の友人に混ざっての参加となりましたが、例年通り、辛い戦いでした。今年は事前練習にもいつも以上の意気込みで臨みましたが、まだ修行が足りないようです。経腸栄養剤を運び、軟膏をミックスすることで培ったこの筋肉ではまだまだ役不足。来年再びリベンジしてきます！（松）

沖縄県薬剤師会

〒901-1105　沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10　http://www.okiyaku.or.jp　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事　務　局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932　■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937

■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946　■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932

■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567

■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報　第282号　平成28年7月25日発行

◇次号は、平成28年9月初旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会　会長　亀谷浩昌

編　集：広報委員会　委員長／宮城敦子　委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ　久米島通信員／山城晶　宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／宮良善朗　事務局／大城喜仁

印　刷：有限会社 Skill

誌上ギャラリー
（会員作品）
お気軽にご投稿下さい。

定価四〇〇円（会員の購読料は含会費）